

史料紹介

初期『奇譚クラブ』の書誌情報・総目次と 若干の考察

河原 梓水

【概要・考察】

はじめに

1. 初期『奇譚クラブ』概要と所蔵状況

- (1) 概要
- (2) 所蔵状況

2. 発行状況

- (1) 1947（昭和 22）年
 - (2) 1948（昭和 23）年
 - (3) 1949（昭和 24）年
 - (4) 1950（昭和 25）年
 - (5) 1951（昭和 26）年
 - (6) 1952（昭和 27）年
- （付記）発行部数について

3. 編集者および主要作家について

- (1) 吉田稔と須磨利之
- (2) その他の作家たち

おわりに

【史料紹介】

初期『奇譚クラブ』の書誌情報・総目次

凡例

- 1947（昭和 22）年
- 1948（昭和 23）年
- 1949（昭和 24）年
- 1950（昭和 25）年
- 1951（昭和 26）年
- 1952（昭和 27）年

表紙・裏表紙一覧

はじめに

本稿は、1947 年 10 月から 1952 年 4 月の間に発行された B5 判時代の『奇譚クラブ』の書誌情報・総目次を取りまとめた上で、当該期の『奇譚クラブ』の発行状況と主要作家に

ついて若干の考察を行ったものである。

『奇譚クラブ』は、サディズム、マゾヒズム、フェティシズム、同性愛、異性装など、当時周縁的とされていたセクシュアリティの持主を読者・寄稿者とする月刊の読者投稿誌であり、1947年10月に大阪・堺で創刊され、度重なる弾圧にさらされながらも1975年3月まで刊行された。世界的に見てもかなり早期の性的マイノリティ当事者が集う月刊誌であること、匿名の寄稿者のなかには著名人も含まれ、厚みのある議論が誌上で展開したこと、模倣誌を多く生み出し、後のゲイ専門誌やSM専門誌に強い影響を与えていることなどから、日本の性的マイノリティの歴史史料として貴重なものである（河原 2024: 15-16）。三島由紀夫、江戸川乱歩、澁澤龍彦ら著名人が愛読していたことも早くから知られ、かなりの知名度があるものの、これまで書誌学的検討がなされておらず、史料として十分に活用されてこなかった。

この問題を解決するため、筆者はこれまで、1950年代から1960年代初頭にかけての同誌の書誌、類似雑誌との関係、取り締まりの状況等について検討してきた（河原 2024b）。

『奇譚クラブ』の第一の画期は1952年5月であり、5月・6月合併号より、判型をB5からA5に変更、大きくリニューアルする。そしてリニューアル後の号はすべてオンラインで手軽に閲覧することができ、全体像を把握することは容易である。しかしながら、それ以前の時期、すなわち創刊から1952年4月号までの号についてはオンラインで閲覧できる号も少なく、原本の入手も相当に困難であり、発行状況や編集体制について見通しを持つことが困難であった。

しかしこの度、この時期に刊行された『奇譚クラブ』をまとまった量入手・閲覧し検討することができた。既述の通り、B5判時代の『奇譚クラブ』は閲覧が容易ではないため、研究等の利便に供することを目的として書誌情報一覧および総目次を作成し、当該期の発行状況について簡単に整理した。ただし、あくまでも現段階で得られた調査結果に基づくものであり、今後内容は更新される可能性があることをご承知おきいただきたい。

1. 初期『奇譚クラブ』の概要と所蔵状況

(1) 概要

筆者が現在、発行されたことを確認しているB5判『奇譚クラブ』は、通巻に数えられる本誌37冊、通巻に数えられない別冊・別刊2冊の計39冊である。うち、本稿で完全な書誌情報および総目次を示し得たのは38冊である。この他、通巻番号や巻号から発行が推測されるものの存在を確認できない号が4号あるが、今回の整理で発行状況の概略は見通すことができたと考えている。

本稿では、年ごとの『奇譚クラブ』の発行状況を整理し、通巻・巻号表記がない号にも推測でこれらを割り振った。続いて『奇譚クラブ』の発行人である吉田稔、一時期編集長を務めた須磨利之を中心に、B5 判時代に活躍した主要作家について記述した。記述は整理されておらず、メモ書き程度に考えてほしい。筆者の興味関心に即し、A5 判化以降にも寄稿歴がある作家、他誌にも寄稿している作家、B5 判時代の作品が後の『奇譚クラブ』で再録されている作家を主に取上げている。作品が後年再録されているということは、その作品が SM やフェティシズム等、後の『奇譚クラブ』が扱ったジャンルの読み物としてある程度の価値を持っていたことを示しているからである。本稿末尾には当該期の『奇譚クラブ』の表紙・裏表紙画像一覧を付した。マイクロフィッシュを原本とした号の画像はモノクロであるが、これらの一部はオンラインでカラー画像を閲覧することができるため、併せて参照されたい¹。

B5 判『奇譚クラブ』が発行されていたのは占領期であり、GHQ/SCAP による出版物の検閲が行われていた。1945 年 9 月、検閲を担当する CCD(民間情報局)が設置され、以後 1949 年 10 月まで検閲が行われた。この時の検閲資料を集めた米国・メリーランド大学ゴードン W・プランゲ文庫に『奇譚クラブ』も含まれており、マイクロフィッシュを国立国会図書館憲政資料室で閲覧することができる。マイクロフィッシュには『奇譚クラブ』に対する検閲文書も含まれているが、不鮮明なものが多く、今回は考察に組み込むことがほとんどできなかった。今後の課題としたい。

なお、CCD の検閲は、当初は出版前のゲラを提出させる事前検閲であったが、徐々に出版後の冊子を提出させる事後検閲に切り替わり、雑誌の場合は 1947 年 12 月にはほとんどの雑誌が事後検閲に移行する(山本 1996: 304)。『奇譚クラブ』の検閲文書は創刊号および通巻 2 号が欠けているためはっきりしたことは不明であるが、通巻 3 号は事後検閲である。また吉田稔は後年、創刊号のみが事前検閲、以降は事後検閲であったと述べている(編集子『私の編集ノート』より: 編集裏書あれこれ『奇譚クラブ』1960 年 4 月号、19 頁)。

この他、『奇譚クラブ』の読みであるが、裏表紙に「Kitan club」と表記されているため、「きたん」とよんだと考えられ、一般にもそう見なされている。しかし掲載作には「キダン・ギャグトピックス」(通巻 27 号、85 頁)など、「きだん」と書かれたものも定期的に掲載されている。発行人の吉田稔はともかく、中途から編集に参加した須磨利之は、それほど厳密に読み方にこだわっていなかったのだろう。正式なよみは「きたん」だが、様々に呼ばれたという理解で良いと思われる。

¹ 「懐かしき奇譚クラブ」(<https://nawa-art.com/>) 2025 年 5 月 1 日最終閲覧。

(2) 所蔵状況

本稿では、筆者が入手した原本のほか、風俗資料館および昭和館所蔵の原本、国立国会図書館憲政資料室所蔵マイクロフィッシュ（原本所蔵：メリーランド大学ゴードンW・プランゲ文庫）を主に参照し書誌情報一覧および総目次を作成した。これらすべての所蔵のない号、および、憲政資料室所蔵マイクロフィッシュが不鮮明な号については、オンラインサイト「懐かしき奇譚クラブ」（<https://nawa-art.com/>）で公開されている画像を参照し作成した。これらの施設・サイトにおける所蔵・画像公開状況を以下に示し、筆者が所持する号についても最後に記載した。本稿で割り振った通巻番号を示し（例：【1】）、発行年ごとに記載した。なお、1952年5・6月合併号以降の号の所蔵については記載していない。

① 風俗資料館（東京都新宿区揚場町 2-17 川島第二ビル 5 階）

1948 年 【7】 【9】

1949 年 【10】 【11】 【12】 【17】

1950 年 【23】 【24】

1951 年 【26】 【28】 【29】 ※欠損有 【30】 【31】 【32】 【33】 【34】 【35】 【36】

1952 年 【37】 【38】 【39】 【40】

② 国立国会図書館・憲政資料室所蔵マイクロフィッシュ（原本：メリーランド大学ゴードンW.プランゲ文庫）

1947 年 【1】 【2】

1948 年 【3】 【4】 【5】 【6】 【7】 【9】

1949 年 【10】 【16】

③ 昭和館

1949 年 【18】

1950 年 【23】 【25】

1951 年 【28】 【34】 【36】

④ 懐かしき奇譚クラブ（<https://nawa-art.com/>）

1947 年 【1】 【2】

1948 年 【5】 【6】 【7】

1949 年 【11】

1950 年 【22】 【24】 【25】

1951 年【27】【30】【31】【32】【35】【36】

1952 年【37】【40】

⑤ 河原所持号

1948 年【4】

1949 年【13】【16】【17】【19】【別冊 5】

1950 年【20】【22】【23】【24】【25】【別刊 1】

1951 年【26】【27】【28】【29】【30】【31】【32】【33】【34】【36】

1952 年【37】【38】【39】【40】

2. 発行状況

以下、年ごとに、現在判明している限りの発行状況をまとめる。

(1) 1947（昭和 22）年

本年に発行されたのは創刊号、通巻 2 号の 2 冊である。創刊号は 10 月 25 日発行、11 月号として発行され、続いて 12 月 15 日に 12 月号が発行されている。創刊号奥付には「月刊」とあり、確かに月号の上では連続しているが、通巻 2 号は発行日でみれば 51 日後の発行であり、予定より遅れて発行されたものと思われる。頁数は 24 頁、両号とも憲政資料室にマイクロフィッシュが所蔵されているほか、「懐かしき奇譚クラブ」でも閲覧可能である。創刊号表紙は、雑誌『グロテスク』1929 年発行号表紙の模倣である。通巻 2 号も、絵の稚拙さに比してポーズがこなれているため、何らかの元絵があると推測されるが、不明である。情報をお持ちのかたは連絡をいただきたい。本年の編集は、編集人である吉田稔のみか、他 1～2 人程度で記事や挿絵を作成していたと推測される。言い換えれば、1～2 号に名のある作家の多くは吉田もしくは他 1～2 名の筆名である可能性が高く、実在は疑わしい。

(2) 1948（昭和 23）年

本年は通巻 3 号から 7 号、計 6 冊ないし 7 冊が発行されたと推測される。3 号、4 号から最終ページ（裏表紙裏）の体裁が整い、おおむね直接購読者（会員）募集、原稿募集、女性のヌード写真、詰将棋、編集後記、奥付で構成されるようになる。3 号表紙の女性の姿態は『獵奇』4 号（茜書房、1947 年 5 月）表紙を参照しているように思われるが不明である。

通巻4号までは順調に発行されたが、通巻5号はCCD(民間検閲局)の検閲で「Violation」(違反)判定を受けている。そして、通巻6号は、加茂川清子(杉山清詩)「口紅女学生行状記シリーズ アトリエ騒動」、杉山清詩「閨房殺人事件」が刑法175条に抵触するとして発禁となった。加茂川清子は杉山の筆名であり、抵触作品は両方とも杉山作ということになる。

問題となった箇所について、1950年6月29日の大阪高裁判決文においては、「変態男女の痴態、あるいは交接を故らに暗示する記述や裸婦の両手を縛し背後から強姦しようとする場面を描写した記述挿画を掲載した部分があるが、その記述描写たるや、きわめて露骨猥褻であるのみならず、その全文を通読してもその意図専ら性的好奇心の挑発と煽情的雰囲気醸成に存するかのとき観あり、そこには何ら善人の高尚な情操に共感寄与する文学的魅力なく、徒らに不健全下劣な性愛遊戯もしくは安価な性的葛藤の露骨な暗示等の外なものもない」と述べられている(日原 1955: 298)。裸婦の両手を縛し背後から強姦しようとする場面の挿絵は「アトリエ騒動」のものであり、「閨房殺人事件」には言及がない。この時期の『奇譚クラブ』はいまだサディズムやマゾヒズム等を中心的内容としてはいない時期であるが、皮肉にも発禁になった原因は緊縛された女性を描いた挿絵であった。

ただし、本作の強姦は未遂であり、加害者が「ぬるぬると蛇のような触手をのばして来た」(5頁)と描写された直後に警察が突入し加害者は逮捕される。その他、強姦(未遂)シーンにおいて被害女性の体と加害男性の体が触れ合う描写は、「彼は勝誇ったような微笑で両足を大きく開かせると、粘っこい唇で先ず悦子に接吻を強いて来た」(5頁)という一文のみである。当時の「猥褻」基準に照らしたとしても、刑法175条に抵触するとは思われない。では、何が問題だったのか。

判決文では「裸婦の両手を縛し背後から強姦しようとする」とあり、確かに挿絵はそうになっているのだが(図1)、「両足を大きく開かせ」た後に「接吻を強い」たとすれば、おそらく背後からではなく対面の状態でそれらを行ったと理解するのが妥当である。さらに、挿絵では被害女性は前手で縛られているが、作中では後手である。つまりこの挿絵は作中のシーンを正確に描写しておらず、間違っている。このような間違いはよくあることであるが、この点を全く無視し、本文にもそのような描写があるかのように記述している大阪高裁の裁判官はおそらく本文をきちんと読んでいない。とするならば、彼らが問題視したのは、文よりも「裸婦の両手を縛し背後から強姦しようとする」挿絵であったと考えられる。



図1「アトリエ騒動」挿絵(5頁)

発禁後初の号である通巻 7 号は遅れることなく予定通り発行されており、前号の発禁について言及はない。表紙は、『獵奇』創刊号（茜書房、1946 年 7 月）裏表紙に掲載された広告の模写である²（図 2）³。

しかし奥付の上に掲載された「読者の声に応じて」において「エロ出版物に対しての取締の強化」に言及がある。すなわち、「言論出版の自由に便乗して無軌道ぶりを発揮する向きに対しては当然の鉄槌であって、この点かこの暗黒時代に於ける軍閥共が行った弾壓とは異なって、理路を尽されたものであって、我々は十分な戒心と反省とを促されるものである」

（35 頁）と取締まりに対して賛同しおもねる記述がなされている。しかし、編集長・吉田稔は、実際には 6 号の発禁処分を不服として提訴し、最高裁まで争っている。加えて本号は、問題となった「閨房殺人事件」の後編が、前編と同じ挿絵（全裸の女性の絵）を用いて掲載、加茂川清子の「口紅女学生行状記シリーズ」も、続編が「アトリエ騒動」とよく似た「超桃色騒動」のタイトルで掲載されている。このような姿勢はかなり闘争的であるといえるだろう。編集部の本心がどのようなものであったかは推して知るべしである。

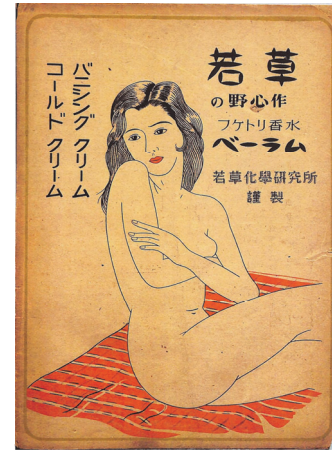


図 2 『獵奇』1946 年 10 月号裏表紙

記シリーズ」も、続編が「アトリエ騒動」とよく似た「超桃色騒動」のタイトルで掲載されている。このような姿勢はかなり闘争的であるといえるだろう。編集部の本心がどのようなものであったかは推して知るべしである。

通巻 7 号は 5 月 20 日発行であったが、次に確認できる号は 10 月 15 日発行号である。本号は編集後記に「爽秋読切傑作号で第 9 号を迎えた」との記載があるため、通巻 9 号と判断したが、通巻 8 号は現在見つからない。9 号は 8 号の誤記であることも十分あり得るが、翌 1949 年 1 月 5 日発行号は奥付に「通巻 10 号」とあり、10 月 15 日発行号を 9 号と見なしたまま通巻が数えられている。この記載を信じるなら、5 月 20 日から 10 月 15 日のおよそ 5 ヶ月の間に通巻 8 号が発行されていることになる。しかし現段階で 8 号の実在を確認できる情報は管見の限りない。

6 号裏表紙には、4 月下旬発行予定として「臨時増刊 妖怪変化特集号」の予告が掲載されており、臨時増刊ではあるがこれを 8 号と数えている可能性がある。しかしこの号についても 8 号と同様存在が確認できていない。7 号掲載「読者の声に応じて」には、「臨時増刊号は都合により少し遅れてお目見えいたします」とあり、6 号発禁の影響で発行されなかったのではないかと推定されるが、そう考えた場合でも通巻番号の抜けの謎は残る。

以上、現段階では 8 号が存在するか否か、それが臨時増刊・妖怪変化特集号と同一であるか否かは確定することができない。5 ヶ月という空白期間は長く、複数が発行されてい

² 龍「奇譚クラブ(雑誌)一覧」「龍の巣」(<http://ryunosumika.blog.2nt.com/blog-entry-1.html>) (2025 年 4 月 19 日最終閲覧)

³ 画像出典：国立国会図書館デジタルコレクション (info.ndljp/pid/1808626)

でも全くおかしくはない期間であることから、本稿ではさしあたって、10月15日発行号を9号とカウントし、8号および臨時増刊号は詳細不明とした。

なお、ちょうど7号から9号までの空白期間に当たる同年7月、京都で杉山清詩によって週刊雑誌『魅惑』が創刊されている⁴（図3⁵）。杉山名義で「連載探偵小説・海を走る悪魔」を、加茂川清子名義で、こちらも連載の「京都よいとこ一度はおいで！」が掲載されているが、注目すべきは『魅惑』という誌名と、「海を走る悪魔」の挿絵担当として「保利龍平」という名がみえることである。『魅惑』は、後述するように1949年にも須磨利之を編集人として刊行されているほか、1952年刊行の創刊6周年記念臨時増刊号（通巻38号）のタイトルにもなっている。保利は『奇譚クラブ』通巻5号に「新京都絵紹名所」および「ソドミィの壺」の著者として登場する。保利もまた杉山の筆名であるのか、別人であるのかは現状不明である。



図3『魅惑』創刊号表紙

杉山は、作品が刑法175条に抵触するなどの筆禍も招いてはいるが、初期『奇譚クラブ』に毎号2篇以上寄稿しており、かつその内容も一定以上の水準にあると判断できる。当時の『奇譚クラブ』の屋台骨作家と評価して差し支えなく、杉山と『奇譚クラブ』の関係は従来考えられているより深いのではないかと推測される。この点は今後の課題としたい。なお、杉山版『魅惑』はプランゲ文庫に1～3号が収められているが、それ以降は不明である。3号が検閲により「Delete」（一部削除）判定されているため、ここで終刊した可能性もある。

通巻9号では、編集方針の抜本的变化がみられる。まず、須磨利之の表紙画（磯田卓司名義）が用いられるようになり、誌面にも須磨の挿絵が大量に登場するようになる。加えて、本号は国枝完二、織田作之助、長谷川伸などの東京の著名作家の作品を掲載しているほか、住田恭平、小峰元など、文学を志向する若手作家の作品を掲載している。軟派・大衆的ではあるが、エロよりも文芸色を強めていると言え、CCD検閲の違反判定と発禁を受けての対

⁴ 『魅惑』創刊号の書誌情報は以下（底本：（憲））。印刷発行年月日：1947年7月20日印刷納本、1947年7月25日発行、編集兼発行印刷人：杉山清詩、印刷所：大洋社、印刷所所在地：京都市中京区富小路六角南、発行所：青い鳥社、発行所所在地：京都市中京区猪熊三条上ル、定価：6円、頁数：16頁。掲載作：京都よいとこ一度はおいで！（加茂川清子）、連載探偵小説・海を走る悪魔（杉山清詩・保利龍平画）、万国裸体博覧会・ミспанパン※白人ヌード、混浴風呂（編集部）、らくがき、新古今和歌集、愚問賢答・答、常識欄・軽音楽1（タンゴ篇）、随筆・獣性の限界（江路良男）、性問題討論教室、原稿募集（魅惑編集部）、編集後記

⁵ 画像出典：国立国会図書館憲政資料室所蔵マイクロフィッシュ（原本所蔵：メリーランド大学ゴードンW・プランゲ文庫）。

策だと判断できるだろう。

さらに、9号裏表紙裏では「姉妹誌」『譚界』の創刊が予告されている（図4参照）。『譚界』創刊告知の隣には『奇譚クラブ』の次号予告が掲載されているが、そのラインナップは9号での方針転換をさらに推し進めたような気配であり、国枝、織田に加えて海野十三、古武綱武などこれまで全く登場する気配のなかった当時の著名作家の名が並んでおり、読物よりも小説を中心とする構成である。予告上段と下段で、ベテラン作家と新鋭作家を対置させており、ここに小峰元の名がみえる。

一方『譚界』は「奇抜で横紙破りの読物雑誌」とされ、これまでの『奇譚クラブ』のカラーを引き継ぐような雑誌として構想されていると考えられる。要注意雑誌として目を付けられたであろう『奇譚クラブ』は内容を変更し、さらに別雑誌の雑誌を保険として創刊しようとしたと見てよいのではないか。

ただ、通巻9号の予告内容は結局ほとんど実現されておらず、通巻10号は9号と同程度の内容に落ち着いている。さらに10号裏表紙には『譚界』のキャッチコピーとほぼ同じ「奇抜で型破りの雑誌」が『奇譚クラブ』のキャッチコピーとして掲載されている。

須磨は、当時のことをしばしば以下のような調子で語っている。

その後の奇譚クラブの読者なら、きっと意外に思われることに違いないが、その頃の奇クは、後年のようなあぶっ気はまるでなく、長谷川伸や、長沖^{まこと}一や、織田作之助などが目次に名を並べていた。

それに在阪作家クラブの作家や、新聞記者の若者が、それぞれ寄稿していて、（中略）その頃大阪新聞敏腕の記者で、後年サンケイ新聞の名デスクになり、いまでは偉くなってしまった高村暢児氏なども、その頃の寄稿家の一人だったし、元NHKの大阪支局（みんなはBKと言っていたが）の芸能課にいて（中略）ABC放送の芸能課長にもなった高梨久氏なども、その頃は紅顔の美青年で、名門市岡高校（この高校は沖渉二氏の出身校なのだ）の青年教師として勤務しながら寄稿していたものである。（美濃村晃「我が縄の履歴書」『S&Mコレクター』1981年6月号）

このような発言を受け、B5判時代の『奇譚クラブ』はしばしばごくふつうの大衆雑誌であ

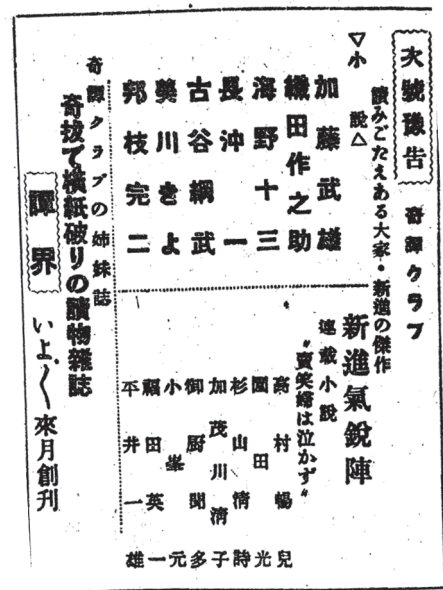


図4 次号予告

ったと語られる。また、当時の『奇譚クラブ』は全く売れておらず、須磨によるテコ入れによって人気雑誌に変貌したと語られることも多い。しかしこのように、須磨が編集に参加した前後こそが、CCD の圧迫と刑法 175 条による発禁の影響により雑誌刊行が危ぶまれていた時期そのものであり、須磨の印象はこの時期に特有の事情を反映している可能性がある。

「あぶっ気」(＝アブノーマル) が全くないという回顧も、例えば創刊号から連載された左海山人「生殖器崇拜と性的神・土俗玩具の研究」、通巻 2 号掲載の「変態奇人変わり種探訪」特集、通巻 3 号掲載の、南里弘「男娼を衝く・南大阪のおかま案内」等、当時で言うところの「変態性欲」や「猟奇」に分類できる記事は既刊に複数掲載されている⁶。これらに比して「あぶっ気」を相当に抑制した号が、須磨が初めて編集に参加した通巻 9 号なのである。

これに加えて、『奇譚クラブ』の売れ行きであるが、吉田は 1960 年、『奇譚クラブ』創刊時のことを振り返り、「活字にも飢えていた頃とて、とにかく紙になにか印刷してありさえすれば羽が生えて飛ぶように売れたと表現される位の時代でした」(編集子 1960 年 4 月: 19) と述べ、「パンフレットと呼ぶにふさわしい代物」であった創刊時の『奇譚クラブ』も十分売れたかのような記述をしている。1947～1948 年の『奇譚クラブ』は後年と比べれば確かに相当に見劣りするが、当時のカストリ雑誌はみな似たり寄ったりである。発禁にさえならなければ採算は取れたのだろう。むしろ、カストリ雑誌の流行が終焉を迎え、A5、B6 サイズで分厚い小型本が台頭する 1950 年以降のほうが、シビアに内容が問われるようになったはずである。

(3) 1949 (昭和 24) 年

本年は、本誌 6 冊、別冊 3 冊の計 9 冊が現段階で確認できている。前半は 52 頁程度で、12 月発行の通巻 19 号は 70 頁に達し充実してきている。

別冊には巻号表記もなく、通巻に含まれない可能性もあるが、1950 年発行号に記載されている通巻号から逆算すると、別冊をカウントしない場合冊数が合わず、全く存在が確認されていない未見号が 4 冊存在する計算になる。また、1952 年 2 月臨時増刊号のように、臨時増刊を通巻に数えている例もあることから、本稿では仮に別冊 2 冊を通巻に含めることとした。ただし、それでも 2 冊の未見号がある計算となる。

1949 年 4 月発行別冊の編集後記には「前号裏表紙の予告に対しまして予想外の大反響を呼び起こし(中略)印刷所へ廻すばかりになっていた原稿に更に何度も検討を加え取捨選択して整理の上、戦後日本の裏街を描いて、間然するところのない貴重なる文献として価値の

⁶ この点については(河原 2024a)においても簡単に論じた。

あるものにしたいと張り切って編集致しました」(裏表紙裏)とある。同年2月別冊の裏表紙には、確かに4月別冊と同内容の予告が掲載されており、前号とはこの別冊号を指すと推測される。その間2か月あまりあるためもう一冊、同様の予告を掲載する号が3月に発行されている可能性もあるが、入稿直前の原稿を練り直したという記述は、刊行の遅れに対する釈明ともとらえられるため、本稿では2月別冊を通巻12号=第3巻第3号、4月別冊を通巻13号=第3巻第4号と仮に定めた。以下この通巻番号でこれらの号を示すこととする。

通巻13号「編集後記」には、続けて、「応募原稿は、これだと思うものは逃さず掲載していますし、本誌に掲載しかねないものは僚誌へ紹介しています」とあり、この時期の編集部には、少なくとももう一誌発行していた雑誌があったことになる。それは『譚界』であると見なせるだろうが、『譚界』という誌名で本当に創刊されたかはわからない。山本明によれば、1949年4月5日、『魅惑 軟派小説決定版』(50頁・50円)が須磨利之を発行人として発行されている(山本 1976: 54)。本号は実在が確認できる(図5参照⁷⁾)。これが『譚界』として予定されていた僚誌にあたる可能性は否定できない。現状では不明な点が多く、『譚界』が『魅惑』とは別に存在していた可能性ももちろんあり、かつこれらの僚誌が通巻に含まれていた可能性も残る。『譚界』および『魅惑』について、情報をお持ちの方はぜひお知らせいただきたい。



図5『魅惑 軟派小説決定版』

通巻16号には編集後記に吉田稔ではなく黒岩光、住田恭平、小峰元が登場し、それぞれコメントを書いている。編集側からの視点であるため、彼らが本号の編集に加わったものと推測できるが、以降継続的に関与した形跡はない。

(4) 1950 (昭和 25) 年

本年は、本誌6冊が隔月で発行され、加えて少なくとも1冊の別冊が発行されたと考えられる。

現在発行が確認できる号を発行順に記せば、①1月10日号(第4巻第1号)、②3月号(通巻21号)、③5月5日号(別刊)、④7月1日号(通巻22号)、⑤9月1日号(通巻23号、第4巻第8号)、⑥10月1日号(通巻24号、第4巻第9号)、⑦12月1日号(通

⁷渡辺豪氏(@yuukakubu)の2019年8月29日Twitter(現X)ポストより転載。

<https://x.com/yuukakubu/status/1166980924182937600> (2025年3月3日最終閲覧)。画像の掲載を許可して下さった渡辺氏に感謝申し上げます。

巻 25 号、第 4 巻第 11 号) である。①は 10 日発行、②は発行日不明、③は別刊として 5 日発行、④以降はすべて発行日が 1 日に固定されている。通巻番号は連続しているが、発行は別刊発行の 5 月を除いて隔月となっている。隔月刊行であるにも関わらず、⑤にはすでに「毎月 1 日 1 回発行」と月刊がうたわれているほか、巻号は通巻番号と一致せず、休刊と推測される月も巻号にカウントしたものとなっている。すなわち、通巻番号が連続している号に機械的に巻号を割り振れば、⑤は第 4 巻第 4 号、⑥は第 4 巻第 5 号となるはずだが、実際は⑤が第 4 巻第 8 号、⑥が第 4 巻第 9 号と記されている。これは、通巻番号からすれば欠号であるはずの 2 月発行号、4 月発行号、7 月発行号にそれぞれ巻号を割り振ったものと考えられる(巻末資料・『奇譚クラブ』表紙・裏表紙一覧を参照のこと)。なお、号数は発行月とは一致しておらず、9 月 1 日発行号が第 8 号、10 月 1 日発行号が第 9 号のように割り振られている。この法則に基づき、本稿では巻号記載がない号にも同様に巻号を割り振った。

3 月に刊行されたと推測される通巻 21 号であるが、本号は現在原本を確認できておらず、かつてオークションサイトに掲載されていた画像および情報を参考に記載した(現在当該オークションページは消滅している)。3 月号とのみ記載され発行日は不明であるが、表紙に「21」が確認できることから、通巻 21 号であることは確定的である。①が 10 日、④が 1 日であることから、3 月 1 日もしくは 10 日発行の第 4 巻第 3 号と推測した。

なお、『奇譚クラブは』1950 年 10 月 5 日付で、第三種郵便物の認可を受けている。

5 月には、「奇譚クラブ別刊」として『敗走関東軍その後の実相 興安嶺』が発行されている。本号は表紙に『奇譚クラブ』を示す文字はなく、発行人もそれまでの吉田稔ではなく藤井喜一郎であること、内容も長編一作のみを掲載するというこれまでの誌面とまったく異なる構成をとることから、通巻には含めなかった。発売元である近畿図書の書籍のいくつかは、須磨が装幀を担当している。

なお、(山本 1976) によれば、1950 年 10 月 10 日、魅惑クラブ社から発行された『魅惑クラブ 肉体小説傑作特集』(87 頁、80 円) の目次抜粋が掲載されているが、内容は『奇譚クラブ』通巻 19・20 号掲載作品と同じである(総目次備考参照)。『魅惑クラブ』と『奇譚クラブ』の関係については現状不明である。

(5) 1951 (昭和 26) 年

本年は、計 11 冊発行されている。本年 1 月 24 日付で、「日本国有鉄道特別扱承認雑誌 第 1887 号」として認可されている。発行ペースが月刊に戻り、「毎月 1 回 1 日発行」が実行され維持されていると言える。基本的に毎月同日に発行されているが、7 月・8 月が合併号となっているため 11 冊に留まる。ページ数は 110 頁から次第に増加し、年末には 132

頁に達しているが、多くの号には、グラビア・口絵ページとモノクロページの間にかかなりの乱丁があり、5～15 ページ程度の錯誤がある。そのため多くの号は実際には 110 ページ程度である。

それでも、本年は表紙も華麗、目次ページや裏表紙にも工夫が凝らされ、非常に充実してきた印象を与える（図 6 参照）。挿絵も充実しているが、表紙・目次カットを含め、ほとんどが須磨利之ひとりによって描かれている。

なお、巻頭口絵や目次に示された挿絵画家名と、掲載頁や挿絵に入れられたサインが異なることがしばしばある。例えば、通巻 33 号「国際女奴隷船」は、巻頭口絵では美濃村晃画と表記されているが、掲載頁では喜多玲子画となっている。おそらく、作品をもとに挿絵を描くだけでなく、あらかじめそれらしく描いておいた挿絵を組みあわせることが行われており、その際に筆名の統一がなされなくなるのではないかと考えている。



図 6 通巻 36 号裏表紙

(6) 1952 (昭和 27) 年

本年も順調に発行されている。4 月 26 日にサンフランシスコ講和条約が発効、米国による占領が終わった。B5 判の号は 4 月 1 日に通巻 40 号（第 6 巻第 4 号）を発行した後、6 月 1 日に 5・6 月合併号として A5 判にリニューアルした第 6 巻第 5 号を発行する。編集後記には「本号は発売日の都合で五、六月合併号としましたが、前号四月号とは丁度一カ月目に発売致すわけでありますから、實際上休刊しているママわけではございません」（180 頁）とあるが、4 月 1 日からは丸 2 ヶ月経っており意味は不明である。書店に並ぶ実際の日付けとしては 1 ヶ月空くだけという意味か。

リニューアル前の B5 判は本誌 3 冊、臨時増刊 1 冊の計 4 冊が発行されている。1951 年から引き続き毎月 1 回 1 日発行が定着しているほか、ページ数は 120～132 頁という十分な水準で安定している。通巻 38 号から 40 号の裏表紙には、フランスの週刊誌『LA VIE PARISIENNE』からとられたイラストが使用されている。これらのイラストは、吉田稔と須磨利之がヤミ市で購入したものだと伝わっている⁸。A5 判になって以降の表紙も確認し

⁸ 「或る日、吉田稔と須磨がヤミ市を歩いていたとき、小さな古本屋の店先で、このヨーロッパの風刺画ふうの印刷画の束が置かれているのを見た。（中略）画集として閉じてあるものではなく、一枚一枚がバラバラになっている画で、紐に束ねられていたという。」（濡木 2004: 14）。後年の『奇譚クラブ』の表紙画には、『LA VIE PARISIENNE』だけでなくドイツ・ミュンヘンの週刊誌『Jugend』の表紙を模写

たが、『LA VIE PARISIENNE』から流用されているイラストは、1924年～1925年発行号に集中している。元となったイラストの描き手は、シェリ・エルアール、ジョルジュ・レオネック、ジョルジュ・バルビエ、モーリス・ミリエールのものが多く、その他ルネ・ヴィンセント、ヴァルドエスのものもある。本稿で取り上げたB5判時代の裏表紙に用いられたものは、シェリ・エルアールおよびジョゼフ・クーン＝レニエ筆である。

臨時増刊号は2月1日発行、「創刊6周年記念特別号」とされタイトルも『奇譚クラブ』ではなく『魅惑』である。臨時増刊であるが、本誌が通常発行される1日に発行されていること、「第6巻第2号」と奥付に記されていることから、通巻に含めた。『奇譚クラブ』1954年1月号掲載の「本誌既刊号一覧（26年11月号以前略）」では、本号は「魅惑特集号」と記されている（204頁）。

通巻5・6月合併号はサイズの変更のほか、それまで須磨利之による女性のバストアップイラストであった表紙画が、それまで裏表紙や目次カットに用いられていた『LA VIE PARISIENNE』のイラストに変更される。本号は、しばしば「奇譚クラブ」が「SM雑誌」へと本格的に転換した号として語られてきたが、実際は戦争特集号であり、サディズムやマゾヒズム、フェティシズム等へのコミットは前号よりむしろ減っている。続く7月号では「女天下時代特集」が組まれ、以前と同様の誌面に戻っていることからみても、合併号はやや異色と言え、それは本号がサンフランシスコ講和条約発効後初めて発行された号であることと関係していると思われる。

(付記) 発行部数について

筆者はかつて、『奇譚クラブ』の発行部数について、同時代の類似雑誌の部数や同時代の言説などから、5～8万部程度と推測した（河原 2024b: 51-52）。この度、『S & Mスナイパー』1988年5月号掲載の北原童夢著「豊穡なる祝祭 <迷宮への魁> 美濃村晃の生涯」に、須磨利之の証言として具体的な部数への言及があることを発見したため記しておく。

本記事は、北原から美濃村へ行われたインタビューをとりまとめた形式である。北原がまとめる美濃村の談話の中に、「幸いにして当時百円だった『奇ク』は飛ぶように売れ、毎月5万部刷るのが完売で、ボーナスまで支給された」（北原 1988年5月: 76）、「二十八年頃から完全に軌道にのった『奇ク』には、毎月百通以上の投稿作品が集まり、編集長自ら驚くほどの手ごたえだった」（同: 77）などがある。そのほか、「昭和二十九年、上京して、久保書店でSM誌『裏窓』を発刊する。（中略）東京近辺のキチンとした小説家にストーリーの

したものもあり（『奇譚クラブ』1954年11月号＝『Jugend』1896年8月8日号、『奇譚クラブ』1955年1月号＝『Jugend』1896年6月13日号）、この「印刷画の束」には『LA VIE PARISIENNE』以外のイラストも含まれていた可能性がある。

あるものを書かせ、間に責め場面を折り込んだ。(中略) この路線も当たって毎月5万部は確実に捌けた。当時、『奇譚クラブ』『風俗草紙』『裏窓』の三紙^マが競合して読者層を開拓していったが、それぞれが独自の路線を打ち出し、得意の分野を持った」(同:78)ともある。

この記載によれば『奇譚クラブ』、そして『裏窓』の部数は5万部となるが、いくつか気になる点もある。まず、『奇譚クラブ』の定価が100円になったのは1953年1月号からであり、1953年1月は、「飛ぶように売れ」だした時期として間違ではないが筆者の実感としてはやや遅く、須磨が編集に関わった時期としても末期である。また、須磨が上京して最初に関わった雑誌は『裏窓』ではなく『風俗草紙』である(『裏窓』の創刊は1956(昭和31)年である)。そして、『裏窓』と『風俗草紙』の発行時期は重なっておらず、競合していた3誌のうち、『風俗草紙』は『風俗奇譚』の誤りだと思われる。

次に「完売」についてであるが、『奇譚クラブ』1952年10月号奥付には、「毎号品切れにて御迷惑をかけていますが」と確かにある(178頁)。しかし、この文言は定期的に掲載されている決まり文句であること、続けて「御買漏れのないよう是非直接御購読の申込下さる様」とあることから、直接購読者を増やすための表現と考えられる。誌面には旧号の通信販売についてしばしば言及があり、当時の在庫の様子をうかがうことができるが、1952年10月号にもまさに記載があり、「旧号は送料共一冊九十円にて御送付申し上げます。本年一月号以降より毎号若干保有しております」とある(178頁)。この段階では、1952年発行分はすべて在庫があった。また、『奇譚クラブ』1969年8月号掲載の「編集部便り」には、「あの頃(筆者注:1953~1955年5月頃)は現在と違って見込み印刷をして発行部数も多く、したがって返品も割合多かった」と記されている(236頁)。バックナンバーの在庫がかなりの速度で減っていく様子が誌面からはうかがわれるが、やはり完売は言い過ぎであり、非常によく売れていたことの誇張表現であると考えられる。

このように、別の史料と不整合な内容を含むため、5万部という数字はただちには信じることができないが、1950年代前半の『奇譚クラブ』の部数は1~3万部程度ではなかった、という程度は言うことができるように思われる。『裏窓』については、1956年の創刊段階で5万部であったとすれば、当該期ははまだ「不良出版物」への弾圧が激しい時期であるため私見ではかなり多い印象を受けるが、『裏窓』について語られたことが『風俗草紙』の誤りであれば、5万部は十分にあり得るところか、むしろ控えめな数字である。

なお、須磨が『奇譚クラブ』に在籍していた時期は、旧稿では1948年10月から1953年6月と推測していたが(河原 2021: 18)、同じく『S&M スナイパー』1988年11月号掲載、北原童夢「嗚呼、輝く OSAKA エスエム産業」にこの点に関する証言が見つかった。本記事には、須磨利之・玲子夫妻が登場し、玲子氏の発言として、夫婦は「二十五年の十一月十七日に移ってきて、二十九年十月二日に上京するまで、堺にい」たとある(頁数表示無

し)⁹。須磨ではなく玲子氏の発言であること、日付まで述べられているため何らかの記録に基づく記憶と考えられること、特に詐称する必要のない情報であることから、一定の信頼性があるといえる¹⁰。ただ北原による誤記・聞き間違いの可能性は残る。

須磨は1948年10月発行の通巻9号ですでに表紙絵を描いているが、堺に引っ越し本格的に編集にかかわり始めたのが1950年11月と考えても矛盾はない。『奇譚クラブ』が隔月刊から月刊化するタイミングでもあり、納得のいくものである。なお当時の須磨の筆名であった「箕田京二」が編集人として奥付に現れるのは、さらに1年後の通巻36号（1951年12月号）である。

須磨夫婦が東京に移った時期のほうであるが、須磨が曙書房を退社したのが1953年春頃であることは、誌面から須磨の挿絵が消えることから間違いない。1954年10月を信じる場合、須磨は退社後1年半ほど堺に居続けたことになる。この間、須磨は1953年7月に東京で創刊された『風俗草紙』にかかわっているが（河原 2024b: 104-106）、これは大阪在住のまま行われたということになる。須磨の自伝・エッセイには、東京に移った後『風俗草紙』に関わったと述べているものもあるが、この点に関してはさらなる調査が必要となるため、今後の課題としたい。

3. 編集者および主要作家について

(1) 吉田稔と須磨利之

吉田稔

吉田稔は、『奇譚クラブ』の創刊者であり、須磨利之とともに『奇譚クラブ』を読者投稿誌として作り上げた後、27年間にわたって同誌を刊行し続けた。吉田は、須磨利之が編集長を務めた1951年12月から1953年春まで、および1968年、体調不良により杉原虹児に編集人を譲るまで、一貫して発行人かつ編集長として活躍した。「箕田京二」の名を用い始めたのは須磨であったが、須磨退社後吉田に引き継がれ、以降吉田の名として広く知られている。

彼の経歴について確実なことはほとんどわかっていない。ただし裁判資料から、1918年2月15日生まれであること、1952年段階の本籍地が「奇譚クラブ」の発行元・曙書房の

⁹ 本記事では、須磨の曙書房退社について以下のように語られている。「玲子（中略）ヤメるときも大変でね。ある日、主人が血相変えて戻ってきまして、いきなり「ヤメたよ」でしょ…。/美濃村（苦笑）あの時は、俺も若くて血気盛んやったから…」（頁数記載無し）。

¹⁰ 須磨の自伝やエッセイにおいても、堺市に引っ越した時期は昭和25年11月とされているものが多い。

所在地と一致するため、自宅で出版業を営んでいたらしきことがわかる(河原 2024b: 68)。曙書房の所在地である堺市菅原通 4-30 には当時、株式会社五洋紙業(代表取締役: 廣瀬幸次郎)があったが、関係は不明である¹¹。また、相場をやっており、その儲けを『奇譚クラブ』につぎ込んでいたという証言もあるが、この点は「父のあとを継いで情性でやっている証券取引」といった記述があり、儲けを『奇譚クラブ』発行につぎ込んでいたかはともかく、証券取引も行っていたこと自体は事実と考えられる(編集子「青き空に白い雲」『奇譚クラブ』1966 年 2 月号、9 頁)。

また、『奇譚クラブ』1966 年 1 月号掲載の黒淵嬰一「黒淵嬰一怒る(?)」には、編集長は国文学専攻とあるが(203 頁)、2024 年 8 月、黒淵氏本人に確認したところ、手紙のやり取りからの推測であり、本人が国文学専攻だと表明したわけではないとのことであった。ただし、吉田と面識のある飯田豊一(濡木痴夢男)も吉田を「文学青年」と称しており、通巻 9~10 号での文学路線への方針転換、住田恭平、小峰元らとの関係も考慮すると、文学に関心のある人物であった判断しても差し支えないだろう。

『奇譚クラブ』の投稿作家であった中康弘通は、『文芸首都』京都支部の支社長に吉田稔を紹介され『奇譚クラブ』に寄稿を始めたと後に述べている(「早乙女宏実の達人対談 11」『S & M スナイパー』1993 年 12 月号)。吉田と『文芸首都』との関係の真偽については今後の課題としたい。

吉田は新聞記者であったと述べる関係者は多い。B5 判時代の『奇譚クラブ』の執筆陣には新聞社関係者が多く、その可能性はかなり高いと言える。

「奇譚クラブ」に「編集子」の名で発表されたものの多くは吉田の手になると思われるが、その中には「南方の占領地」(マレー語の引用があるため、マレー語圏と考えられる)で「昭和十七年夏」、「軍政要員として PR の新聞を発行していた」、「昭和十八年秋、私は南方派遣占領地軍政要員として、赤道直下の南の島に赴任していた」といった記述がある¹²。

この吉田と思われる「編集子」は 1950 年代半ばから 1960 年代後半にかけて、定期的に自身が参加した戦争について言及して悔悟の念を示したり、朝鮮戦争や自衛隊の設置について揶揄的に言及したりする姿勢を示している。このような態度表明はエロ・グロ雑誌に対する弾圧対策とも考えられるが、まだ弾圧がそれほど本格化していなかった時期にも同様

¹¹ 曙書房は、1955 年、天星社に名称変更した後移転する。新たな所在地は大阪市阿倍野区晴明通 1-85 である(『奇譚クラブ』復刊第 1 号、1955 年 10 月号奥付)。

¹² 編集子「私の編集ノート」より: 編集裏面あれこれ『奇譚クラブ』1960 年 4 月号、編集子「編集つれづれ草: 私の編集ノートより」『奇譚クラブ』1960 年 8 月号、編集子「紙の弾丸」『奇譚クラブ』1964 年 8 月号、編集子「青き空に白い雲」『奇譚クラブ』1966 年 2 月号、編集子「死霊の祟り」『奇譚クラブ』1966 年 11 月号。

の態度が見られる。

吉田は SM やフェティシズム、そのた周縁的セクシュアリティのマニアではなかったという証言があるが、辻村隆の後年のエッセイによれば、『奇譚クラブ』の緊縛グラビアはかなりの部分吉田が撮影していたようである。後年の「奇譚クラブ」をみると、「箕田京二」が SM や緊縛談議に花を咲かせているといった記述がいくつも確認できるため、真実は不明である（河原 2024b: 69）。

須磨利之

1920 年生まれ。1948 年 10 月号表紙画で登場。以降、B5 判号のほとんどの表紙を担当し、多数の筆名を用いて誌面のほとんどを手掛ける。京都市出身で、戦中は海軍に志願し衛生兵として活動したとしばしば書いている。海軍への在籍は、戦友会「十五志会」の代表者として須磨の名と住所がみえることから確定できる（上杉 1982: 265）。

週刊誌に写真付・実名入りで掲載された須磨の略歴は以下。「大正 9 年 2 月、京都に生まれる。旧制中学卒後、昭和 15 年 6 月、志願兵として海軍にはいる。17 年 3 月、ジャワ島作戦に参加、スラバヤ、バタビアに進駐。のち高看練 6 期を経て、昭和 20 年 2 月、第二氷川丸に乗船、一病室室長兼手術室室長。同年 8 月 16 日、同船を降りる。終戦時、海軍上等衛生兵曹。現在、株式会社蛇プロ代表取締役。現住所、横浜市港北区（※以下省略、十五志会連絡先の住所と一致）」（「錫 100 億円を積んで日本海に眠る第二氷川丸の謎」、『週刊サンケイ』19-49、1970 年 12 月 7 日発行、121 頁）。

吉田稔との出会い、および『奇譚クラブ』編集に関わるようになった経緯については、複数の自伝やエッセイで様々に語っているが、細部に異同があり真偽は不明である¹³。ただし、杉山清詩の紹介だったと書いているものが多い。『SMキング』連載の「縄を持った食客」シリーズでは、当時須磨は京都中央新聞社に勤めており、杉山は社会部の先輩だったと書いている。

『奇譚クラブ』1953 年 9 月号掲載、辻村隆構成「本誌の旧号に現れた責絵」では、喜多玲子の本名が須磨利之であることが暴露され、さらに、当時須磨が用いた筆名として、今幾久蔵が挙げられている。その他、本人による後年の発言、濡木痴夢男による証言、絵柄から

¹³ これらは SM 雑誌に連載されることが常であり、主なものだけでも『SMキング』に「縄を持った食客」（1972 年 8 月号～1973 年 9 月号）、「随筆黒縄記」（同 1973 年 11 月号～1974 年 5 月号）、『S&M コレクター』に「春縄」シリーズ（1975 年 5 月号～）、「我が縄の履歴書」（同 1981 年 6 月号～）、『あぶろまん』に「裏窓人生」（1980 年 10 月号～）、『SMクラブ』に「つれづれ縄話」（1982 年 2 月号～1984 年 3 月号）、『緊美研通信』に「縄の交遊録」（4 号（1990 年 4 月）～）などがある。このほか、伊藤晴雨や中川彩子らへの追悼エッセイ、緊縛の思い出、緊縛モデル女性の思い出を語るエッセイなども多数執筆しており、それらの多くに『奇譚クラブ』時代の思い出話が散発的に含まれる。これらをすべて検討することはできておらず、今後の課題としたい。

須磨だと確定できる挿絵画家としての筆名は以下（表記の異同は統一）。喜多玲子、美濃村晃、明石三平、秋田冷光、沖研二、亀井七郎、竹中英二郎、森あきら、志乃田よしろう、おもめ、不二木一、磯田耕司、伊曾田耕史、松岡敏一、笹岡武二（佐々岡武二）、箕田京二¹⁴、箕田京太郎、曾根三太郎、加住としを、峰玄太、城崎浩、TOSHIO.K、左脇不二夫（佐脇ふじ）、田中比呂志、敏二、魁京二、三郎、天野健、松野健、御影太郎

なお、以上はあくまで挿絵画家としての筆名のみである。須磨は記事本文も大量に執筆していたことが明らかであるが、これらの筆名は後年判明しているもの以外では、文体と作品傾向によって判断することとなり、確実に須磨だといえる根拠に乏しい。そのため今回は特定することを避けた。

(2) その他の作家たち

杉山清詩（加茂川清子）

通巻 5 号より登場。本名は杉山清次¹⁵。京都市下京区在住の探偵作家¹⁶。別名として、杉山清一、加茂川清子¹⁷、大谷清彦。大谷名義の『小説 東京大空襲』著者略歴は以下。「大正 8 年 11 月生まれ。京都第一商業学校卒。日本相互貯蔵銀行（現協和銀行）入行。陸軍中野学校を経て、戦時中陸軍航空部特務要員（暗号翻訳赤坂一ツ木町）¹⁸として勤務。戦後探偵作家クラブ作家会員となる。主な著作には「帝銀事件」（時事出版社）、ほか推理小説など約 50 篇を各雑誌に掲載。代表作には「夢殿殺人事件」（オールロマンス連載）、「恋愛優等生」（若い世界社）、「嵐に咲く花」などがある」。

戦後の職歴については、1951 年段階では京都市衛生局九条保健所環境衛生指導補助技術員として勤務していたが、いわゆる「オール・ロマンス事件」¹⁹を受け退職。それ以前は、須磨利之の自伝のひとつによれば京都中央新聞社の社会部に在籍していたが、新聞社の不

¹⁴ 箕田京二は後に吉田稔が使用するようになる筆名である（河原 2024b: 315-316）。従って須磨だけを指すものではないが、吉田が使用するようになるのは須磨が編集部を退社した後であり、B5 判時期においてはすべて須磨を指すため、ここに含めた。

¹⁵ 部落解放京都府連合会「差別は市政のなかに：「オール・ロマンス」糾弾闘争の発展」『部落』29、1952 年 1 月号、23 頁。

¹⁶ 探偵作家クラブ編『探偵小説年鑑』（岩谷書店）1949 版～1953 版記載の住所による。ただし杉山発行の 1947 年発行の『魅惑』奥付住所は「京都市中京区富小路六角南」。

¹⁷（河原 2021）を参照のこと。

¹⁸ 本多喜久夫『大地震の恐怖 そのとぎのために』（双葉社、1971）、60 頁、211 頁にも、戦中は陸軍航空総監部に勤務していたとある。

¹⁹ 『オール・ロマンス』1951 年 10 月号に杉山清一名義で執筆した「暴露小説・特殊部落」が部落差別として糾弾され問題となった事件。

正に憤って須磨とともに退社したという（美濃村 1972）。

『奇譚クラブ』における作風は京都・大阪を舞台とした、関西弁が冴える軽快なコメディおよびミステリー。『奇譚クラブ』のほか、『妖奇』、『銀河』、『愛友』、『新天地』²⁰等にも執筆。A5判化以降の『奇譚クラブ』および『裏窓』にもいくつか掲載がある。

愛山久

通巻6号より登場。編集部の後年の発言によれば、読み方は「アイサンキュウ」で、「エネルギーな筆力に物をいわせて各誌に書きまくっていたが本誌にもその頃、毎月欠かさず書いていた」（編集子 1960年8月:179）。愛山名義での作品は毎月載っているわけではないので、別の筆名があると考えられる。

高村暢児

通巻7号より登場。著書多数（『新聞記者千夜一夜』河出書房、1956、『特ダネ天気図』南旺社、1958、『カードをつくるための』（牧書店、1960年など）。『カードをつくるための』掲載のプロフィールには以下のようにある。「本名・篁暢児。1922年（大正11年）に奈良県に生まれ、明治大学、東洋大学を卒業。現在、産経新聞東京本社に勤務されています。/南米踏査行の記事報道が国際平和に寄与したと認められ、1958年度、新聞記者最高の栄誉であるマイルス・ボーン賞を受賞されました。/日本文芸家協会会員、日本探偵作家クラブ会員で、少年少女小説や探検ものの著書がたくさんあります」（/は改行、以下同様）。このほか、『新聞記者千夜一夜』掲載のプロフィールには、「1922年1月11日奈良県生まれ。産業経済新聞東京本社社会部次長」とある。

辻村隆（信士寒郎、緑猛比古）

通巻9号より登場。以後、小説、エッセイ、読物を多数寄稿したほか、『奇譚クラブ』がマニア路線になって後は、緊縛グラビアの製作にも関与し、長く雑誌を支えた。とりわけ1964年11月号からスタートした「SMカメラハント」は、人気シリーズとなり、長期にわたって『奇譚クラブ』の名物連載となった。B5判時代の作品としては、信士寒郎名義で「都会の溜息」を連載、緑猛比古名義で緊縛や責めの場面を含む時代小説を多数執筆した。雑誌外の活動としては、後年「徳川刑罰史」（1968）等で緊縛指導を務めたほか、「イレブンPM」に出演し緊縛について語るなど、メディア露出も盛んであった。社会的に「縄師」「緊縛師」「縛師」といった呼び名で認識された最初期の人物。評伝に（マスターK 2013）がある。

²⁰ （若狭 2013）、（黒田 2019）。

柴谷宰二郎

通巻 9 号より登場。関西在住の画家で、関西発行の雑誌や単行本、新聞小説の挿絵を多く手掛けていた。1949 年 4 月発行の『日本美術工芸』126 号掲載の「美術通信」内、「関西挿絵家協会結成」の案内に、連絡先として「大阪新聞社内柴谷宰二郎氏方」とある（68 頁）。B5 判時代の活躍はそれほどでもないが、須磨が曙書房を退社した後、須磨の代わりに『奇譚クラブ』の挿絵を一手に手掛けるようになる。用いた筆名は、司馬溪、瀧麗子、三条春彦、栗原伸、方金三。

住田恭平

通巻 9・10・16 号に登場。戦前の『三田文学』にいくつか名前が見える。1958 年発行の早稲田大学校友会編『会員名簿 昭和 33 年』では、住田は昭和 11 年仏文とあり、毎日新聞社大阪本社出版編集部在籍として掲載がある（580 頁）。16 号編集後記に黒岩光の弁として「住田恭平の「肉体のピエロ」は傑作である。昨年「早稲田文学」に「箒木の家」を書いて好評を得ている。既に著書もある。血みどろな文学生活と強烈な意欲がある。今年こそ、決定的な仕事をするだろうと、中央文壇からも期待されている。彼は既に一流の作家であることを、私は彼を一番よく知るもののひとりとして、確信する」とある。住田自身の編集後記コメントは以下。「乱作の大家の名前ばかりを列べたてゝ、読んでみてさほどでもない、おきまりの小説読物に代って、少しでも新しく、面白く、読みごたえのあるものと、私たちは努力しております。／ とかく中央一点張りの作家活動から、孤立したかたちの関西に、こうしていよいよ作家らしい活動が築かれてきたことは、読者はじめ、同好の方々ともぜひ力をよせ頑張りたいところです」。著書として、『帰還作家 書き下ろし長編小説 純文学叢書 16 津浦線上の想像』（六芸社、1942）。

小峰^{はじめ}元

通巻 10 号より登場。ミステリ作家の小峰元は、毎日新聞大阪本社勤務であったため、本人であると考えられる。本名は廣岡澄夫（『新聞研究』266、1973 年 9 月号、4-5 頁）。1921 年、兵庫県神戸市生まれ。『アルキメデスは手を汚さない』（講談社、1973）で江戸川乱歩賞受賞。通巻 16 号編集後記にコメントを寄せており、内容は以下。「大衆の心にしみ透るような、本当に面白い雑誌を作りたい——という気持が、こうしたものを生み出した。自ら「一流」と誇号する雑誌が続々と凋落してゆく時、われわれの企ては無謀であるかも知れない。多難な前途は覚悟の上である。しかしわれわれは読者と共に楽しむという喜びにひたりつつ、あえて世に問うた。読者諸賢の共感を得れば幸いである」。

片矢薫

通巻 23 号より登場。正体不明であるが、初期から緊縛や責めの要素を持つ小説を寄稿しており、A5 判化以降も活動がみえる作家。1952 年 12 月号に「奴隷妻」、1953 年 6 月号に「廓の幻影」、1954 年 11 月号に「一揆の花」、1955 年 3 月号に「陰の花」を寄稿し、後に発行される『奇譚クラブ』臨時増刊への再録も多い。B5 判時代の片矢作品に付された挿絵は須磨利之による豪華なものが多く、片矢もまた須磨の筆名ではないかと疑われる。

土俵四股平（粟津實・加茂三千彦）

通巻 26 号より登場。その名の通り、女相撲愛好家。京都在住と称す。女相撲を「女闘美」と呼び、関連する創作を多く寄稿。戦前にも粟津實名義で『女子新体育技 アウトゲームの栞』という、女性むけの新しいスポーツを考案する書籍を出版している（大正 15 年発行、発行者：「日本婦人体力改造同志会」（京都市山科竹鼻）、非売品）。『怪奇雑誌』にも寄稿（土俵四股平「女房相撲」1950 年 6 月号、土俵四股平「女闘丑の刻まいり」1950 年 7 月号）。通巻 27 号掲載の「女に跨がせる男」は、文と画ともに土俵四股平となっているが、画は須磨利之である。このことから、土俵は須磨の筆名の可能性もあるが、そうすると粟津實の書籍などつつじつまがあわない。なお、粟津については一階千絵による研究がある（一階 2016）。

松井籟子

通巻 26 号より登場。（編集子 1960 年 8 月）によれば、愛山久の紹介で『奇譚クラブ』に書くようになった。当初は東京在住で、大阪には実家があった。飯田豊一によれば、本名は坂本嘉江（河原 2021: 41）。坂本の名は、吉田稔から飯田へ宛てた 1970 年 9 月 29 日書簡にも登場するほか、坂本名義の活動も『あまとりあ』・『裏窓』に見出せることから（「歌舞伎に現れた猟奇犯罪」『裏窓』1956 年 10 月号）、松井＝坂本は事実であると考えられる。『あまとりあ』では嘉枝とも表記されている（1955 年 8 月終刊号）。女性名を用いる男性作家が多い中、本物の女性作家であることが確認できている数少ない人物。『KK 通信』3 号（1952 年 12 月号）4 頁に松井の言及があり、「女史は他の筆名にて各大衆誌に毎月執筆」との記載があるほか、須磨のエッセイにおいてしばしば女性だと強調されている。坂本の作家活動については（黒田 2020）もあわせて参照されたい。

二俣志津子

通巻 35 号より登場。性別不明。同号読者通信に「交際を望む」として広告が掲載されているが、意図不明。編集部による説明によると、「二俣志津子さんは、本月より奇譚クラブ誌上に麗筆をふるわれる可憐美貌のお嬢さんで、豊富な話題の持主です」。本当に女性かは

不明であるが、以後活発に『奇譚クラブ』に寄稿。その後も、結婚や放浪生活をしていることなど、私生活が編集部から報告される。二俣作品はエロ要素が薄く、一般誌に掲載されていても不思議のない一人称もしくは三人称の小説や読物であったが、いずれも人気を博した。A5判化以降も活躍し、同時期の作家・吾妻新は二俣の愛読者であるとエッセイで述べ（「きいたふう」『奇譚クラブ』1955年5月号）、「私は本誌の昭和27年12月号（中略）から保存していて、それ以前のものは持っていない。だが、よんだことはある。その中でたった一つ、切り抜きを持っている。（中略）「鬼兵衛刺青異譚」という小説だ」と述べ、「傑作なのだ」、「凄惨な筋でありながら、その描写にはいやらしさがなく、むしろ一種の香り高い妖気が漂っている」、「私は真実うまいと思った。そして切り抜いて保存する気になった」と絶賛している（同121～122頁）。1955年5月の休刊期を境に寄稿が途絶え、1961年12月号掲載「遠淡海」を唐突に寄稿した後、断筆したようである。

夏目千代

通巻38号（1952年2月号）に「八十八人目の男」、翌39号に「或る映画女優の初恋」を寄稿。辻村によれば第44回直木賞候補作家（作品：「絃」）の夏目千代と同一人物。松井籟子と並ぶ本物の女性作家。本名：鈴木照子。当時、京都・大映撮影所企画部に勤務²¹。

おわりに

はじめにでも述べたように、本稿はあくまで現段階の調査結果を取りまとめたものに過ぎず、内容は今後更新される可能性がある。本稿の内容についての誤りや、さらなる情報をご存じの方はお知らせ願いたい。

〔付記〕

- ・本稿は、科研費・若手研究（21K17987）およびサントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」2023年度採択課題「SM研究：支配と暴力をめぐる欲望の歴史・文化・実践」による研究成果の一部である。
- ・所蔵史料の表紙・裏表紙の撮影および掲載を許可して下さった風俗資料館と昭和館、そしてTwitter掲載画像の掲載を許可して下さった渡辺豪氏に感謝申し上げます。
- ・お話を聞かせて下さった黒淵嬰一氏に感謝申し上げます。

²¹ 「夏目千代」、「直木賞のすべて」 <https://prizesworld.com/naoki/kogun/kogun44NC.htm>（2025年4月22日最終閲覧）

《参考文献》

- ・上杉公仁編『ザ海軍 政・財界リーダーたちとその秘めたる心情』誠文図書、1982
- ・大谷清彦『小説 東京大空襲』新国民出版社、1975
- ・一階千絵「栗津實『アウトゲームの葉：新女子體育技』における相撲競技改変の試み」『群馬県立女子大学紀要』37、2016
- ・河原梓水「飯田豊一（濡木痴夢男）の軌跡とその仕事」『立命館文学』674、2021
- ・——— a 「カストリ雑誌としての『奇譚クラブ』」石川巧編『戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌』勉誠社 2024
- ・——— b 『SM の思想史 戦後日本における支配と暴力をめぐる夢と欲望』（青弓社、2024）
- ・北原童夢「豊穡なる祝祭 <迷宮への魁> 美濃村晃の生涯」『S & M スナイパー』1988 年 5 月号
- ・——— 「嗚呼、輝く OSAKA エスエム産業」『S & M スナイパー』1988 年 11 月号
- ・黒田明「杉山清詩作品リスト補遺」（『SR-MONTHLY』423、2019）
- ・——— 「続・探偵作家の足跡」（『「新青年」趣味』20、2020）
- ・早乙女宏美「早乙女宏実の達人対談 11」『S & M スナイパー』1993 年 12 月号
- ・探偵作家クラブ編『探偵小説年鑑』（岩谷書店）1949 版～1953 版
- ・辻村隆「本誌の旧号に現れた責絵」『奇譚クラブ』1953 年 9 月号
- ・濡木痴夢男『「奇譚クラブ」の絵師たち』河出書房新社、2004
- ・日原正雄『刑法講義：判例中心 下巻 増補版』立花書房、1955
- ・部落解放京都府連合会「差別は市政のなかに：「オール・ロマンス」糾弾闘争の発展」『部落』29、1952
- ・編集子『「私の編集ノート」より：編集裏面あれこれ』『奇譚クラブ』1960 年 4 月号
- ・——— 「編集つれづれ草：私の編集ノートより」『奇譚クラブ』1960 年 8 月号
- ・——— 「紙の弾丸」『奇譚クラブ』1964 年 8 月号
- ・——— 「青き空に白い雲」『奇譚クラブ』1966 年 2 月号
- ・——— 「死霊の祟り」『奇譚クラブ』1966 年 11 月号
- ・本多喜久夫『大地震の恐怖 そのとくのために』双葉社、1971
- ・マスターK 著、山本規雄訳「辻村隆 ロマンティックな縛師」同著・訳『緊縛の文化史 The Beauty of Kinbaku』すいれん舎、2013
- ・美濃村晃「縄を持った食客 1」『SM キング』1972 年 8 月号
- ・——— 「我が縄の履歴書」『S & M コレクター』1981 年 6 月号
- ・山本明『カストリ雑誌研究 シンボルにみる風俗史』（出版ニュース社、1976）
- ・山本武利『占領期メディア分析』法政大学出版局、1996
- ・若狭邦男『探偵作家発見 100』日本古書通信社、2013
- ・（無署名）「錫 100 億円を積んで日本海に眠る第二氷川丸の謎」、『週刊サンケイ』19-49、1970 年 12 月

7日発行

河原梓水（かわはら・あずみ）

福岡女子大学国際文理学部准教授。近現代日本セクシュアリティ研究。とりわけ、サディズム、マゾヒズム、SM をめぐる、戦後日本の思想史、メディア史、性表現規制史。性的同意、性的モノ化研究。国内の大衆的性文化関係史料の保存と活用について。『奇譚クラブ』、『魅惑』、『譚界』、『情艶新集』等について情報をお持ちの方はご連絡ください。ak043025@fwu.ac.jp

初期『奇譚クラブ』の書誌情報・総目次

凡例

- ・参照した原本は以下のように略記し示した。

河原所持号＝（河）、風俗資料館所蔵＝（資）、国立国会図書館憲政資料室マイクロフィッシュ（メリーランド大学ゴードンW・プランゲ文庫）＝（憲）、昭和館所蔵＝（昭）、「懐かしき奇譚クラブ」掲載画像＝（懐）

- ・旧字は新字に改めた。ただし、人名の場合、「澤」、「廣」は旧字のままとした。

- ・拗音・促音は小書きにした。

- ・漢数字はアラビア数字に改めた。「第一話」、「(一)」などの表記はアラビア数字のみで示した。

例) えへへへ大人シリーズ第1話→えへへへ大人シリーズ1

- ・印刷発行年月日、編集・印刷・発行人、発行所所在地は、奥付もしくは表紙/裏表紙のどの部分の記載をそのまま記した。ただし奥付の和暦は西暦に改めた。

- ・定価は、奥付記載の価格を示した。奥付に記載がない場合、表紙もしくは裏表紙記載の価格を示した。地方売値・送料は省略した。

- ・奥付の電話番号は省略した。

- ・目次と、作品の掲載ページに記されたタイトルや作者名が異なる場合は、掲載ページの表記を採用した。

- ・通巻番号、巻号は、冊子に明確な記載がなく、推測によるものについては下線を付した。

- ・ページ数は、ページに記載されている最後の番号とした。したがって裏表紙は含まれず、号によっては裏表紙裏や表紙が含まれない場合がある。

- ・挿絵について、目次や掲載ページに明示がなくとも、挿絵にサインがあり、作者が容易に判明する場合はその氏名を記載した。例)「San 平」→明石三平 「玲」→喜多玲子

- ・挿絵について、画家のサインや表記に揺れがある場合が多いが、検索の便を考え原文ママとせず任意のひとつに統一した。

例) 竹中えいじろ・竹中英二郎・えいじろ→竹中英二郎、秋田玲光・秋田冷光→秋田冷光

- ・挿絵について、目次や掲載ページに画家名の明示がなく、さらに挿絵自体にもサインがない場合は記載をしなかった。ただし、絵柄等から作者を特定できる場合は（〇〇△画）と記載した。須磨利之の場合は、絵柄からみて明石三平や竹中英二郎として描かれたと推測されるものについても、すべて「須磨利之△画」と記した。

- ・巻頭写真・巻頭口絵は、当該ページ記載の文字のうち、タイトルと判断できるものを記した。ページ内にタイトルが無い場合は目次記載の情報、それも無い場合は（無題）と記した上で、内容の簡易な説明を記した。写真の場合は撮影者を（例 （編集部特写））、口絵の場合は画家の名前を（ ）で示した。画家の名がフルネームで口絵内に明記されている場合は「（タイトル）須磨利之画」とカッコ内に示し、サインのみ、あるいはサインもなく絵柄から判明する場合は「（タイトル）」（須磨利之画）のようにカッコ外に

示した。

- 表紙：表紙に記載されている情報のうち題字（奇譚クラブ）以外を記した。発行年月日等は奥付と異同がない場合は省略した。
- 裏表紙：表紙と同様、題字および奥付と異同がない情報は省略した。記載情報が多量の場合は一部を省略した。表紙・裏表紙双方に奥付にない情報が記載されている場合は、どちらか一方に記載した。
- 「奥付その他」には、奥付に含まれる情報のうち、項目を立てていないものについて示した。
- 広告：広告内の最も大きい文を「」で、広告主名および掲載ページを（）でくくり示した。ただし、裏表紙掲載の広告は裏表紙項に記した。明らかに虚偽の内容で、雑誌のコンテンツと見なせる広告は挙げていない。
- 掲載作は、掲載順に記した。同ページに複数作品が掲載されている場合は、タイトルが大きい、分量が多いなど視覚的に目立つ作品を先に記した。
- 掲載作タイトルは、掲載頁に記載のあるものは副題、キャッチコピー等も含めて記した。それぞれの字句の間には「・」を入れた。
- 掲載作のうち、特集記事やコーナー記事はまず特集名・コーナー名を【】で、続けて含まれる作品を□でくくり列挙した。異なるページに掲載されていても同じコーナー名が付されている場合はまとめて列挙した。
 例）【奇抜色好み短篇集】〔裸女像自壊（荃亜久津）、屁をともす女（天宮将吉）、猫をかぶった源氏の君（赤壁元）、島原女風土記・どぶろくの宿（美戸部進・松岡敏一画）〕
- 当時の雑誌は発行日より1～2カ月程度早く発行されることが常であったので、実際に世に出回った時期は発行日より早いですが、便宜上発行年月日で年ごとに分けた。
- 掲載作品名に付されたルビは、漢字から読みを推測できないもののみ残し、残りは省略した。

1947（昭和 22）年

【通巻 1 号】第 1 巻 1 号（憲）

印刷発行年月日：1947 年 10 月 20 日印刷納本、1947 年 10 月 25 日発行

編集兼発行人：吉田稔

編集兼発行人所在地：堺市菅原通 4 丁目 30

印刷人：意島久蔵

印刷所：双輪印刷株式会社

印刷所所在地：堺市北向陽町 2 丁 64

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁 30

奥付その他：「月刊」

定価：18 円

頁数：23 頁

表紙：「怪奇妖奇・探奇特集号」、「11」、「Kitan Clab ママ」

裏表紙：「チューブ入」、「アカネ屋煉歯磨」、「アカネ歯ブラシ」、「大阪・堺アカネ屋本舗」、「あらゆる古書籍・雑誌買入」、「文洞書房」、「原稿募集」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：「趣味の友」（銀扇社）（14）／「青春 五円」（新天地社）（22）、「固定副業」（富士営業所）、「群星」（愛知県）（22）、「親交」（親和交換共同会）（22）、「玉手箱」（郵燈書房）（22）、「電気交流療法」（再生会本館）（22）

掲載作：生殖器崇拜と性的神・土俗玩具の研究 1（左海山人）、いろバナシヨセあつめ・諸国艶咄集成（内海勇造）、観客を蕩酔させる・フラフラ・ダンス（中原春美）、ゴム製雨外套の弁（浅川曉）、産婦人科医の見た世相 ABC（杉田きよし）、接吻と口腔の科学（八木久一）、春宮円と禁厭（鮎川和夫）、にせの羅切坊主（信田春男）、【1948 年のある風景・スピード時代（みき・登）】〔1 ダンスホールゴールドラッシュにて、2 キャバレー黒猫にて、3 デパート古木屋にて、4 映画館 K K 座にて、5 ターミナルの街頭にて、6 市営バスの中にて、7 裏町の露地にて〕、【桃色きたん世けん斬】〔キッスドロ、裸劇団に消えぬ照明、童貞氏と少女が淋病に〕、きたんゴシップ、コント・一枚の違い（水原幸助）、上海の魔窟（浮田次雄）、行きはよいよい関所はこわい・妖花乱れるくるわみち・「金塚街道」に拾う・夜の大阪（弓削忍）、粋人援語、三十過ぎたる独身婦人の危機（青木富児）、妖怪物語・お化け狐と狐憑き（忍頂寺穰）、好色落語・臍の次（夢幻亭痴庵）、珍談・御用の物（鈴木城夫）、七つの子供（H 生）、人肉の味（玉地耕三）、世はさまざま・浮世色模様・街の裏道（木村一三）、Y 段

談義あらべすく（芦田敬介）、投書欄・桃色テロの横行・二十人に一人が闇の女（道楽者）、好色本に現れた時代の早熟なる処女（後藤二三夫）、当世娘気質（MY 生）、編集おぼえ書、御注文

備考：案内広告欄：「広告料 1 行 15 字 15 円、締切毎月十日以後次号」、印刷人の意島久蔵は、1937 年官報に、交通毎日新聞社取締役として同名の人物がみえる。／杉田きよし：杉山清詩とは別人か。『あまとりあ』の会誌『誌友通信』第 3 号に、「杉田清（京都）」として「ジャイナ教美術の研究」がみえるが、清詩かどうか不明。／表紙は『グロテスク』表紙の模写。

【通巻 2 号】第 1 巻第 2 号（憲）

印刷発行年月日：1947 年 12 月 10 日印刷納本、1947 年 12 月 15 日発行

編集兼発行人：吉田稔

編集兼発行人所在地：堺市菅原通 4 丁 30

印刷人：意島久蔵

印刷所：双輪印刷株式会社

印刷所所在地：堺市北向陽町 2 丁 64

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁 30

大売捌所：立誠社

大売捌所所在地：大阪市北区神明町 13

奥付その他：「月刊」

定価：18 円

頁数：27 頁

表紙：「変態奇人号」、「NO2」

裏表紙：「Kitan Clab」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：「月刊内職研究」（内職研究会）（12）、「玉手箱」（郵燈書房）（12）

掲載作：【変態奇人変り種探訪（弓削忍・南陽二画）】〔禪をつるして楽しむ女、素足を舐める男〕、【変態性欲者群像】〔1 陰部窃視症患者、2 被虐待性患者、3 虐待性淫欲者、4 崇物性淫欲者〕、【エロ亡者漁色行状記（信田春男・南陽二画）】〔摂政関白行状記、師直行状記〕、南国情緒溢るゝシンガポールの脇道（浮田次雄）、一条まとわぬ・モデル打明け話（水原淳子）、裸体美の構成（曙書房代理部）、生殖器崇拜と性的神・土俗玩具の研究 2（左海山人）、

妖怪奇習・原始人の変態生活を探る（矢部文吉）、或る日の好色社長（南陽二）、珍商売・男女口入・瓜貝屋（浅川暁）、闇の女の生態・肉か金かはた恋か・彼女の実話（忍頂寺穰）、異国・変態風呂めぐり（青木富児）、十万円・ヤミ女の貯蓄王（神山栄三）、僕の男妾の告白（中原春美）、江戸小噺・色男客物語、『肉布団の行方』・耶蒲緑の翻訳過程（豊艶文庫主人）、会員募集、原稿募集、編集おぼえ書き、御注文

1948（昭和23）年

【通巻3号】第2巻第1号（憲）

印刷発行年月日：1948年1月15日印刷納本、1948年1月20日発行

編集兼印刷兼発行人：吉田稔

編集兼印刷兼発行人所在地：堺市菅原通4丁30

印刷所：双輪印刷株式会社

印刷所所在地：堺市北向陽町2丁64

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4丁30

印刷所：双輪印刷株式会社

印刷所所在地：堺市北向井陽町2丁64

大売捌所：立誠社

大売捌所所在地：大阪市北区神明町13

奥付その他：「月刊」

定価：18円

頁数：27頁

表紙：「情艶いかもの号」、「NO.3」

裏表紙：なし

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：「百道楽「豊艶」」（土肥日露之進宛）（21）、「玉手箱」（郵燈書房）（23）

掲載作：【世界歓楽街・私娼窟めぐり・猟奇穴のぞき（弓削忍・深山完画）】〔ジャワの影絵芝居、マルセイユのダークサイド、暗黒街上海の夜、ボンベイの裏通り〕、ようやく安居をえました（青空日出男）、御不浄・いかもの考現学（浅川暁）、江戸期の惨虐拷問と刑罰（信田春男・南陽二画）、男娼を衝く・南大阪のおかま案内（南里弘・南陽二画）、海賊船医（本田文雄）、春冊綺談（豊艶文庫主人・南陽二画）、創作・邂逅（神山栄三）、街頭いかもの商売往来（忍頂寺穰）、河童の仇討（内海勇造・南陽二画）、生殖器崇拜と性的神・土俗玩具の研究3（左海山人）、（青木富児）、昇降器の怪・二重過失死事件（中原春美）、小咄「飯と酒」（岡田春秋）、川柳（米谷静夫）、王朝好色男のものがたり：良少将の遁世（後藤二三夫）、寝正月異聞（青空日出男）、性的迷信雑考1（福壺凡次）、すきものの道（H・Y生）、古川柳、裸体モデル写真分譲、懸賞詰将棋新題（大橋虚土）、廣東旅情（彷徨東）、会員募集、原稿募集、編集後記

備考：奥付・表紙には記載ないが、目次に「情艶いかもの号」。
表紙の女性の姿は『猥奇』4号（茜書房、1947年5月）表紙を参照しているように思われるが不明。

【通巻4号】第2巻第2号（河）

印刷発行年月日：1948年2月15日印刷納本、1948年2月20日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

編集兼発行兼印刷人所在地：堺市菅原通4ノ30

印刷所：浪速製版印刷工業所

印刷所所在地：大阪市西成区旭北通3ノ4

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4ノ30

大売捌所：立誠社

大売捌所所在地：大阪市北区神明町12

奥付その他：「月刊」

定価：22円

頁数：35頁

表紙：「粹人耽奇特集号」、「NO.4」

裏表紙：「Kitan Clab ママ」、「曙書房」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：「古本雑誌高価買入」（文洞書房）（7）、「白雪舎」（31）、「浪速精版印刷工業所」（34）

掲載作：淫萃街色欲粹人探訪記（酒井澤信）、第二の小平“強姦ボーイ”事件（宇津大児・麻野絃画）、脱脂綿に染ませた妻（宇津大児）、周旋屋から手に入れた女（神山栄三）、麻薬強盗に捧げた貞操（宇津大児）、生きるために血みどろの・売女の群れをあばく（弓削忍・麻野絃画）、尾の無いキツネ^{パン}・^{パン}・^{パン}・^{パン}・^{ガール}（森田茶目坊・南陽二画）、出べそとうももん（夢茶九祖）、あッ彼女は素裸だ！！（青木富児・麻野絃△画）、軟派小説・捨てて悔いなき童貞（中原春美）、性的迷信雑考2（福壺凡次）、猥奇・女漁りの秘法・夜釣りの巻（南里弘）、場末旅館の息子の話（忍頂寺穰）、猥奇夜話・オンドルに狂う女郎（浮田次雄）、「遊里」川柳考（藤原碧波・麻野絃△画）、離れない男女の見世物（後藤二三夫）二人はあたたか（青空日出朗）、復員奇談・強姦殺人の珍刑（大木悦二）、コント・ぜんざい屋で遊んだ話（Y・H生）、桃色ユーモア小説・倦怠期の夫婦（原紅太郎）、怪奇小説・跳りかかった死人（本田文雄）、桃色コント・エロ・ヨタ・バナシ（福壺凡次）、わしやかなわん・百姓さん大もてでず（青空日出朗）、裸体モデル写真分譲（曙書房）、会員募集、原稿募集、第二回懸賞詰将棋

新題（大橋虚土出題）、第三号懸賞詰将棋新題解答（大橋虚土出題・曙書房将棋係）、編集後記（吉田稔）

備考：目次に「第4号」

【通巻5号】第2巻第3号（憲）（懷）

印刷発行年月日：1948年3月15日印刷納本、1948年3月20日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

編集兼発行兼印刷人所在地：堺市菅原通4ノ30

印刷所：浪速製版印刷工業所

印刷所所在地：大阪市西成区旭北通3丁目4

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4ノ30

奥付その他：「月刊」

定価：22円

頁数：35頁

表紙：「NO.5」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：なし

掲載作：実話・一万ドルのステッキ（大木悦二）、興奮双曲線（原田久雄）、30円で遊べる・新京都絵紹名所（保利龍平・紫莊児画）、パイとラムネ（田本夢坊）、情炎の門（神山栄三・麻野絃一画）、邪恋に狂う・エロ婆殺し（宇津大児・紫莊児画）、変態第三期病患者（弓削忍）、街のガイド・秘事閻魔帖公開（牛島豪一）、【愛欲流転コント集】〔年増妾の深情（矢野文吉）、自殺した十五の娘（浅川曉）、押しかけ女房（内海勇造）〕、性的迷信雑考3（福壺凡次）、蛇と寝る処女・猟奇座異聞（神山栄三）、男が女に手籠めにされたと言う話（忍頂寺穰・南陽二画）、ソドミイの壺（保利竜平・南陽二画）、探淫放浪記・棗を売る女（並木宏次）、蛇の魔性伝説（後藤二三夫）、マンガ・これは意外だ！！（青空日出朗）、青空晴子手柄話・パンパンガール殺人事件（杉山清詩・紫莊児画）、春の女（富児）、港々の乙女・内海の娼楼（中原春美）、原稿募集、会員募集、裸体モデル写真分譲、第2回懸賞詰将棋新題解答、編集後記

備考：「書面の都合により、当分の間広告の掲載は中止」（35）とある。／「パンパンガール殺人事件」：末尾に（青空晴子手柄話第7話）。／CCD検閲で「Violation」判定

【通巻 6 号】第 2 巻第 4 号（憲）（懷）

印刷発行年月日：1948 年 4 月 15 日印刷納本、1948 年 4 月 20 日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

編集兼発行兼印刷人所在地：堺市菅原通 4 ノ 30

印刷所：浪速製版印刷工業所

印刷所所在地：大阪市西成区旭北通 3 ノ 4

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 ノ 30

奥付その他：「月刊」、「第 6 号」、「4 月号」

定価：22 円

頁数：35 頁

表紙：「艶笑新緑増大号」、「NO6」

裏表紙：「奇譚クラブの放つ巨弾」、「臨時増刊 妖怪変化特集号」、「四月下旬発行」、「曙書房」、「KITAN CLABU」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：なし

掲載作：口紅女学生行状記・アトリエ騒動（加茂川清子）、都会の秘密・社交喫茶の二階（富士欣二）、南大阪の暗黒街展望（南里弘）、くろがね探偵譚・花子の戦術（原紅太郎）、【艶笑奇譚コント集】〔女学生とヒゲ（冬木種彦）・軟線集“女枕”（条仙内）・他人の幸福を喜ぶ男・変態泥棒（文川織一）〕、実話小説・桃色女学生行状記・裸身の反逆（園田光）、効果観面・惚れ薬の種あかし（愛山久）、世界遊廓魔窟探検・朝鮮カルボの巻（弓削忍）、謎の美女三人組スリ団・大阪地下鉄の妖花（大木悦二）、奇談クラブ第二夜・淫乱症美人の連続自然殺人（宇津大児）、風呂屋繁昌記（神山栄三）、閨房殺人事件（杉山清詩）、原稿募集、直接購読会員、第三回懸賞詰将棋新題（大橋虚子）、読者の声募集、

備考：「奇譚クラブは、場所ふさぎの広告は一切掲載をやめ、全誌面を挙げて読者同士の要望に答えた読みごたえある記事を以て充満するつもりである。」（35） / 「アトリエ騒動」・「閨房殺人事件」が刑法 175 条に抵触し発禁。

【通巻 7 号】第 2 巻第 5 号（資）

印刷発行年月日：1948 年 5 月 15 日印刷納本、1948 年 5 月 20 日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

編集兼発行兼印刷人所在地：堺市菅原通4ノ30

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4ノ30

奥付その他：「第7号」、「月刊」

定価：25円

頁数：35頁

奥付その他：「月刊」

表紙：「新鋭短篇特集号」、「7」、

裏表紙：「慰安と恋の双曲線」、「美女の乱舞」、「サーヴス満点」、「高級グランド大社交喫茶」、「階上階下」、「前進会館・大阪飛田大門通」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

広告：なし

掲載作：^{ミジワト}蠱惑の妖魚（園登美子・Y.光画）、^{ニンフ}拳銃放談（愛山久）、^{ピストルのほなし}口紅女学生行状記シリーズ・超桃色騒動（加茂川清子、Y.光画）、或る裸体画家の手記・憧れた看護婦の裸体（福田英一）、69の謎（西原津夜子）、不完全なる夫婦（吉丘垣根）、非処女の告白（今川かおる）、浮浪者街の早熟児（中原春美）、適確ナル推理（村田邦彦）、桃色ユーモア小説・手に触れた女（高村暢児）、^{ネオ・カマスートラ}新愛経、モデルになつた男（長柄章平）、耳朶への痴情（竹村一）、海の女狼・怪機帆船（神山栄三）、百物語・怪異ト火ノ玉（釘本麟二）、猟奇・乞食女のヤミの生態（南里弘）、法医学ABC・雄弁な死体（大木悦二）、閨房殺人事件（杉山清詩）、コント・白昼夢（浅野富美）、読者の声に応じて、第4回懸賞詰将棋新題（大橋虚子）、第3回詰将棋（前号）解答、原稿募集、直接購読会員、読者の声に応じて

備考：表紙絵は『猟奇』1946年10月発行創刊号（茜書房）裏表紙掲載・若草化粧品広告の模写

【通巻8号】第2巻第6号

詳細不明。

【別冊1】臨時増刊『妖怪変化特集号』

詳細不明。

【通巻 9 号】第 2 巻第 7 号（資）

印刷発行年月日：1948 年 10 月 10 日印刷納本、1948 年 10 月 15 日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：堺市菅原通 4 ノ 30

奥付その他：「爽秋読切傑作号」

定価：40 円

頁数：51 頁

表紙：「爽秋読切傑作号」

裏表紙：「美女ノ乱舞 慰安ト恋ノ双曲線」、「高級大社交喫茶」、「階上階下」、「前進会館」、「飛田大門通」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：なし

掲載作：圍い者（国枝完二・柴谷幸二郎画）、いよいよもって（信士寒郎）、愛は星の下に（高村暢児・上原正夫画）、女と言うものは（信士寒郎）、平和荘綺譚 1・彼女は驚きぬ（大谷冽・須磨利之画）、寢室の構図（園田光・園田光画）、青空晴子探偵シリーズ・鯨に魅入られた男（杉山清詩・須磨利之画）、鬼才の遺作・勝負師（織田作之助・清原康画）、千女^{ママ}開眼（芳貝角・岡田利久画）、短篇小説・歎きのイヴ（住田恭平・須磨利之画）、青年用の肝油、口紅女学性行状記・変態痴魔事件（加茂川清子・須磨利之画）、詰め将棋新題（大橋虚士出題）、追放サレタ性ノ神様（中原春美）、実話講談・不良少女（弓削忍）、善八の財布（長谷川伸・笹岡一夫画）、原稿募集、次号予告、編集後記、詰将棋解答（大橋虚士）、募る！（販売部）
広告：なし

備考：目次によると、表紙画は磯田卓司。／編集後記：「爽秋読切傑作号で第 9 号を迎えた」（51）。／住田恭平は「阪神ペンクラブ会員」。／次回予告：「奇譚クラブの姉妹誌・奇抜で横紙破りの読物雑誌譚界いよゝゝ来月創刊」（裏表紙裏）。『譚界』は現状では創刊された痕跡を見つけれられていない。／募る！：「本誌販売部新設」（51）

1949（昭和 24）年

【通巻 10 号】第 3 巻第 1 号（資）

印刷発行年月日：1948 年 12 月 30 日印刷、1949 年 1 月 5 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局内菅原通

定価：40 円

頁数：53 頁

奥付その他：「通巻 10 号」、「競艶力作特集号」

表紙：「競艶力作特集号」、「Toshiyuki, S」

裏表紙：「奇抜で型破りの雑誌」、「悲恋哀恋・愛慾奇譚」、「怪奇戦慄・冒険探偵」、「俠気凄絶・世情巷談」、「面白くて愉快な現代時代小説と読物・実話満載！！」、「場ふさぎのつまらない広告は一切やめて、隅から隅まで読みごたへある記事で埋めた読者本意の雑誌！」

巻頭口絵：「口紅女学生・悦ちゃん」（須磨利之画）

巻頭写真：なし

掲載作：芸術に国境なし（山田清香）、【大人の遊ぶ扉・仲よくケンカしないでネ…】〔夢ひとり判断、【爆笑と微笑】〔それを早く、確かにボロい〕〕、街頭詰将棋新題（大橋虚士）、幽界の私生児（宇津大児・司馬溪（柴谷宰二郎）画）、青空晴子探偵シリーズ：ミスパンパンの冒険（杉山清詩・須磨利之画）、天狗堂の安吉（御厨聞多・笹岡三千雄画）、航路（織田作之助・清原康画）、連載小説 1・売笑婦は泣かず（高村暢児・笹岡武二画）、女だけの家、上海から流れて来た女（山下高司）、死相の女（小峰元・左脇不二夫画）、短篇小说・薔薇はひとり（住田恭平・清原康画）、そんな筈ではなかったが（山田清香）、三吉ブン子・結婚行進曲（吉貝角）、時代小説・江戸の人気男（忍頂寺穰・須磨利之画）、愛欲通信（園田光・西元淳画）、【魔窟で拾った話二題】〔身代りになった男（海野呂凡児）・三文絵描きの弁（桑仙内）〕、変態老体験記（山本彦一）、^{モダン語}妄断語解説（本江甚）、ユーモア小説・八條クンの女難（平井一雄・田中比呂志画）、口紅女学性行状記・虚飾の街の娘達（加茂川清子・須磨利之画）、マンガ：忠実なパン、嬢（南陽二）、枕談（河本麟二）、詰将棋解答、編集後記

備考：目次に「第 3 巻第 1 号」

【通巻 11 号／別冊 2】『世界歓楽街めぐり』（第 3 巻第 2 号）（資）

印刷発行年月日：1949 年 1 月 15 日印刷、1949 年 1 月 20 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：書房マ

発行所所在地：大阪府堺局区

定価：40 円

頁数：51 頁

奥付その他：「世界歓楽街めぐり」、「奇譚クラブ別冊」

表紙：「別冊」、「世界歓楽街めぐり」、「奇譚クラブ夜話」

裏表紙：「Kitan club」、「曙書房」

掲載作：【世界歓楽街めぐり】〔奇譚クラブ夜話、陥落の港・夜の上海を暴く・上海、モンテカルロの賭博場と女と佝僂・モナコ、港・女・酒・本牧狂想曲・横浜、扇港暗黒街の裏街探訪・神戸、ライラックの花匂う大連のホテル・大連、カイロの女術と売笑婦・埃及、松花江^{スンチアリ}の秘密倶楽部・ハルピン、トルコの婦女誘拐船秘話・トルコ、黒人人形を寝かす孤独の女・ハンブルグ、貧民窟釜ヶ崎の懷古、南国の夢をそそるリオ・デ・ジャネイロ、怪しい港々の猥奇街、黄鶴園の私娼窟・台湾、雪の夜に逢った街の女、愉悅の果、編集後記

備考：作家名無し、挿絵もほぼなく、作品名の題字上部に小カットがあるのみ。／ 後年の吉田稔による検閲の回顧に以下のようにある「白人といえば、その頃の本誌の特集で「港々に女あり」といったテーマで白人売春婦の記事を載せたことがありました、この記事が逆鱗に触れて早速呼出しを受けました。出頭してみると、白人の女性のことを殊更悪意を以て書いたというので大変なお冠りです。その上、文中に世界各国の都市のことが出てきましたが、これもまた行ったこともない都市のことを想像で書いたというので、油をしぼられました。なにしろ、雑誌の発行を止められる位ならまだしも、悪くすると、重労働で沖縄へやるぞと威かされると、御無理御尤もで平謝りに謝って、以後は絶対こういう記事を掲載しないと誓わされてやっと許して貰ったものです」（編集子 1960 年 4 月: 19）

【通巻 12 号／ 別冊 3】『珍談奇聞読物号』（第 3 巻第 3 号）（資）

印刷発行年月日：1949 年 2 月 20 日印刷、1949 年 2 月 25 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁

奥付その他：「珍談奇聞読物号」

定価：45 円

頁数：52 頁

表紙：「珍談奇聞読物集」、「T. S」

裏表紙：「第七天国探訪記」、「奇譚クラブ別冊」、「選り抜きの本誌特派記者がカストリをあふって探訪した記事がこれだッ」、「一九四九年の大都会の裏側に怪しくも躍る暗黒街をグサリと一抉りした血膿のしたたる生々しい暴露記事」、「二、三日で売切れ確実!」、「限定出

版!」、「目下印刷中」

巻頭口絵:「売笑婦は泣かず」(佐々岡武二)

巻頭写真:なし

掲載作:極楽寺の秘密(園田光・佐々岡武二画)、青空晴子手柄話之内・馬鹿につける薬(杉山清詩・須磨利之)、虚栄の花嫁(鮎川青蛾)、妖婦(織田作之助・佐脇ふじ画)、産屋を覗く少年(山本彦一)、酒と女(山本彦一)、結婚奇習めぐり・変った結婚、百万円の駈落(小峰元・佐脇ふじ画)、詰将棋新題、娯楽のページ・笑話、掌篇探偵・三枝子殺し(鳥嶋啓介)、口紅女学生行状記・うちかなんわ^{あたしいやだわ}ァ(加茂川清子・明石三平画)、二十の扉異聞(信土寒郎)、【処女の告白】〔1 婦人科医の診察をうけた妾(山田雪子・N S (須磨利之△) 画)、2 女記者の秘密日記(竹村園代)、3 凌辱された女の告白・ある敗北(田井よしえ)〕、【奇習めぐり】〔アイヌの貞操帯、裸体美と色の配合(戸見林三)、変った結婚〕、新人・傑作・そうれん松(山本照子・敏二画)、鏡の悪戯(青木百合子・須磨利之画)、接客婦への艶書(志村映二)、連載小説第2回・売笑婦は泣かず(高村暢児・笹岡武二画)、不良老年桃色倶楽部行状記・脂ぎった重役は語る(原統太郎)、実話・船中から消えた美女の謎(泉緑郎・一平画)、鞍替した「湯女」(酔夢坊)、結婚奇譚集、原稿募集、直接購読者申込受付、地方取次店・販売店各位へ、世界歓楽街めぐり、編集後記

【通巻 13 号/ 別冊 4】(第3巻第4号)『第七天国探訪記』(河)

印刷発行年月日:1949 年 4 月 5 日印刷、1949 年 4 月 10 日発行

編集兼発行兼印刷人:吉田稔

発行所:曙書房

発行所所在地:大阪府堺局区内菅原通4丁

奥付その他:「第七天国探訪記」、「別冊」

定価:45 円

頁数:52 頁

表紙:「別冊」、「第七天国探訪記」、「T.S」

裏表紙:「次号予告」、「座談会・若き恋、老いらくの恋」、「陽春特大号」、「特集 麻葉に捧げた人生」

巻頭写真:「歓楽の夜は更けて」(ジャンジャン横丁)

巻頭口絵:無題(洋装・テーブルを囲み踊る男女の版画)

掲載作:梅田娘の体臭(海部渡・須磨利之画)、ミナト五人娘(大木悦二・須磨利之画)、赤外線で覗いた京都(杉山清詩・須磨利之△画)、【都会のゴミ箱(高村暢児)】〔幽霊水のお秀、都会は魔物だ〕、夢と女のいでゆを訪ねて(大谷冽・魁京二画)、童貞の靴紐を結んだ娼

婦（原紅太郎・魁京二画）、中京美人の横顔（瓜生正美・魁京二画）、寝乱れた娼婦（殿村泰三・須磨利之△画）、艶姿東海道本線（峰好児）、逞しき町・カストリ横丁（多島健）、如何なる星の下に生れ来しぞ・変態女男の生態・元警察署長の記録（須磨利之△画）、“如何なる星の下に生れ来しぞ”について（高村暢児）、裏街の女、肉体の自画像（山本彦一・亀井七郎画）、原稿募集、地方販売店・取次店各位へ、直接購読者募集、世界歓楽街めぐり、編集後記

【通巻 14 号】第 3 巻第 5 号

詳細不明。

【通巻 15 号】第 3 巻第 6 号

詳細不明。

【通巻 16 号】第 3 巻第 7 号（河）

印刷発行年月日：1949 年 7 月 1 日印刷、1949 年 7 月 5 日発行

発行兼印刷人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

奥付その他：「第 3 巻 7 号」

定価：50 円

頁数：52 頁

表紙：「花嫁の日記」、「肉体のピエロ」、「伊達男」、「女四十八人」、「Suma」

裏表紙：現代浮世風景

巻頭口絵：「都会の溜息」（不二木一画）、「花嫁の日記」（不二木一画）、

巻頭写真：なし

広告：「求妻：当方東大卒官吏二八才財五百万邸宅アリ容姿端麗、黒岩光氏作「花嫁の日記」の主人公の如き女性を求む、姓名在社 606 番」（10）

掲載作：花嫁の日記（黒岩光）、コント・買われた旦那（春木芳夫）、探訪実話・夜の花かくれんぼ（海部渡・園登美画）、笑話・上には上、夏花変化、女性の肌の魅力、処女破るる日、敗戦ドイツの悲劇・女四十八人（高村暢児・柴谷宰二郎画）、或る夜の出来事（志見亨）、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、かくて失恋す、リベラルダンスア顛末記・

肉体のピエロ（住田恭平・赤坂幸太画）、女性法律相談（八木義太郎）、どぶろく子爵（丘みね子・紺野登志画）、犯罪実話・大都会の影（大木悦二・須磨利之画）、あきれたコント・接吻狂想曲（中村米蔵・須磨利之△画）、女蕩し（綾津夜子・明石三平画）、愛欲短篇・トゲのある花（梅原郁）、ユーモアコント・百円札を売る男（久賀青紫）、超音波で産制、伊達男（小峰元・おもめ画）、原稿募集、地方販売店、取次店各位へ、直接購読者募集、編集後記
備考：「“売笑婦は泣かず” 完結編（高村暢児作・笹岡武二画）は本号に掲載すべきところ原稿並に挿絵紛失のため掲載出来なくなりましたことをお詫び致します」（34）。／ 編集後記に黒岩、住田、小峰のコメントあり。

【通巻 17 号】第 3 巻第 8 号（河）

印刷発行年月日：1949 年 9 月 10 日印刷納本、1949 年 9 月 15 日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁

奥付その他：「第 3 巻第 8 号」、「情炎小説傑作集」

定価：50 円

頁数：54 頁

表紙：「情炎小説傑作集」、「女への復讐」、「肉体の業火」、「マダムは穴馬」、「異国の丘エロジー・あゝ引揚に涙あり」、「SOSEI」

裏表紙：「ルポ、夜の T O B I T A」、「文・高村暢児、絵・喜多玲子」、「小説傑作集」、「昭和 24 年 9 月 10 日印刷」、「第 3 巻第 8 号」

巻頭口絵：「月が覗いた楽屋風呂（草薙久夫 明石三平絵）」

巻頭写真：ルポ・夜の TOBITA（絹川雪夫）

広告：「特殊避妊術」（新英社）（23）

掲載作：絵物語・月が覗いた楽屋風呂（草薙久夫・明石三平絵）、肉体の業火（住田恭平・灘みどり画）、就職はしたけれど（蝶花家米助・蝶花家澄子）、【女の媚態百面相】〔足の百面相（峰好児）、彼と彼女は見合に何を見たか？（相良譲）〕、貞操への門（海辺渡）〕、勘定、寝顔、失礼なる好意、競馬小説・マダムは穴馬（丘みね子・笹岡武二画）、笑話・復讐、昭和風流譚・未亡人無軌道行状記（毛利啓太・明石三平画）、社会探訪記・秘書募集広告の謎（多島健）、情艶小説・女への復讐（園田光・喜多玲子画）、犯罪実話・或る元憲兵准尉の末路・麻薬に捧げた人生（宮久夫・敏三画）、女性愛欲の時代・裸体美と化粧（原紅太郎）、おんなごころ（福田英一・左脇ふじ画）、【閨房の心得・ベットマルームのエチケット】〔起きて七癖、寝て四十八癖、寝相の悪いのは転換すべし、妻が夫よりも先に臥床に入る、寝衣に

パジャマは禁物、寝室に冷たい金具は艶消し、寝物語はどういう風にするか、燈火はいつ消すべきか？」娯楽詰将棋新題（大橋虚士）、都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、あゝ引揚に涙あり（高村暢児・柴谷幸二郎画）、コント・スネた彼女（富川登美）、娯楽詰将棋解答（大橋虚士）、五万円懸賞原稿募集、別冊、直接購読者募集、美女狂艶責めの図分譲、編集後記（青蛾）

備考：灘みどりは南陽二と絵柄が一致し、同一人物と考えられる。

【通巻 18 号】第 3 巻第 9 号（昭）

印刷発行年月日：1949 年 10 月 10 日印刷、1949 年 10 月 15 日発行

編集兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺市菅原通 4 丁

奥付その他：「戦争と性欲特大号」

定価：55 円

頁数：68 頁

表紙：「戦争と性欲！！」、「足摺戦記」、「戦争と女」、「セックスは奔流す」、「盧溝橋の真相」、「かくて憲兵は死せり」、「玲」

裏表紙：「りべらるショーの楽屋裏をのぞく」、「文 殿村泰三・カット 喜多玲子」

巻頭口絵：「南国秘話 熱愛の鷗（井村幸男 喜多玲子画）」

巻頭写真：なし

広告：「特殊避妊術」（新英社）（23）

定価：55 円

掲載作：私が見た・戦争と女（高村暢児、柴谷幸二郎画）、ボクの童貞日記（結城武美・須磨利之△画）、掌編怪談・剃刀の刃（弓削忍）、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、【スパイ戦線情痴絵巻（須磨利之△画）】〔狂艶の踊子（花房唄子）、女間諜 X 27 号（紺野憲太）〕、戦線・極楽往生譚（石川春雄）、恋の媒介車・リンク日記（早乙女晃・須磨利之△画）、裸の幻想（飯沼哲一）、探訪実記・裸の女王は売春婦だった（徳永千一郎）、江戸好色家くらべ・淫魔お琴の就縛（瀬井武清・喜多玲子画）、ウェーキ島（大鳥島）の悲劇・或る性的不具者の告白・「こんな男に誰がした」（緑猛比古・喜多玲子画）、最後の接吻・若き未亡人の告白（山口マリ・三郎画）、特攻隊と慰安婦（久木鷹夫・須磨利之△画）、奇談クラブ夜話・監獄部屋脱走記（星夢二・明石三平画）、密月旅行（菱河湖人・三郎画）、奇譚特選短篇小说・初品（伊座利進）、【桃色セクション（明石三平・喜多玲子画）】〔女読むべからず・女は魔物だ（出見伸七）、男読むべからず・男は浮気者（志水詩子）、男も女も読むべからず〕

らず・夫婦痴話喧嘩仲裁法（野地要一）、足はクセモノ、口のエロチック、羞恥に燃える耳朶、へその表情、手の魅力）、足摺戦記・セックスは奔流す（黒岩光・灘五郎画）、【オシドリ日記・夫婦和合四十八手・うらおもて秘法公開】〔1 新婚アツアツ 3 年（須磨利之△画）、2 完全なる心身の結合、3 女房の真の味、4 女房おマ悦ばせるには、5 闇に乗じた秘儀、6 絢爛夜の閨房、7 性愛の技巧、8 虚々実々〕、【女の秘密（須磨利之△画）】〔1 少女のヒミツ、2 処女のヒミツ、3 人妻のヒミツ、4 未亡人のヒミツ〕、笑話・千円紙幣、三鷹事件余聞・消防長とブローズ（伊座利進・明石三平画）、第 2 回五万円懸賞、第 1 回懸賞原稿入選者発表、備考：奥付に印刷日はなく、裏表紙記載のものを記した。/ 「第 1 回懸賞原稿入選者」には、辰巳隆司、伊座利進、園田光、森静子、鈴木ミチの名がみえる。

【別冊 5】『第七天国探訪記』（河）

印刷発行年月日：1949 年 10 月 5 日印刷、1949 年 10 月 10 日発行

編集兼発行兼印刷人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁

奥付その他：「別冊」、「第七天国探訪記」

定価：55 円

頁数：52 頁

表紙：「別冊」、「歓楽街探訪」、「裏街を覗く肉体の乱舞」

裏表紙：「奇抜で型破りの月刊雑誌 奇譚クラブ」、「古今東西の珍談奇聞のコンクール」

掲載作：通巻 13 号と同じ。

備考：掲載作は通巻 13 号と全く同じだが、その他の部分にはいくつか相違がある。まず、通巻 13 号 3-4 頁（巻頭口絵・写真ページ）が本号にはない。本文は 5 頁から始まっている。さらに、奥付内容のうち、価格が 45 円から 55 円に上がっているほか、印刷発行日も変えてある。また、通巻 13 号裏見返しの上の部分には「昭和 24 年 4 月 5 日印刷 昭和 24 年 4 月 10 日発行 第七天国探訪記」という印刷があるが、本号にはない。曙書房で発行されたものかどうか不明。

【通巻 19 号】第 3 巻第 10 号（河）

印刷発行年月日：1949 年 12 月 10 日印刷発行

編集発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 ノ 30

奥付その他：「好色温泉宿と女特集」

定価：60 円

頁数：70 頁

表紙：「女共産党員の恋 高村暢児」、「私は男装の女兵だった・中共軍に捕らえられた看護婦の手記 高木久江」、「好色温泉宿の女・妊み湯の正体 特集」

裏表紙：「硫黄温泉ものがたり」、「文・石見富造・カット・喜多玲子」、「好色温泉宿の女特集」、「昭和 24 年 12 月 10 日印刷発行」、「定価 60 円」

巻頭口絵：「私は男装の女兵だった（明石三平）」、「猟奇温泉秘話・妊み湯の正体」、「好色山の湯の女（喜多玲子）」

巻頭写真：なし

広告：なし

掲載作：私は男装の女兵だった・中共死の脱出記（高木久江・灘立郎画）、仲の噓を愛する女（磨田宏）、奇譚百話・都会の溜息（信士寒郎・明石三平画）、山の湯奇譚・湯気に浮かぶ姉妹（辰巳隆司・毛利可美画）、水底に沈めた女体・山の湯夜曲（砂津生夫・明石三平画）、女湯を覗く男（星夢二・三郎画）、或る海軍特攻隊員の手記・特攻隊の真相はこうだ・われ全機撃墜さる（元海軍二飛曹小城四郎・毛利可美画）、逢南ホテル奇談（早乙女晃・三郎画）、【燃ゆる情熱五人女（緑猛比古）】「紋散らしおたま・西鶴のおきん・棺桶おせん」、一目でわかるひとり占い・貞操帯のかぎ（福田英一構成）、【桃色セレクション】「女店員の話（小堀瑠璃子）、老嬢は何処へ行く（未婚処女）、腋の下の生理、まつ毛の美、紅く染まる頬、情的な舌、手淫は害か無害か（独身青年）、女学生の話（岸田鐵子）」、情痴小説・胎んだ人妻（園田光・明石三平画）、新婚夫婦求愛秘訣・肉体は隅々まで香わしく、【猟奇温泉秘話】「1 子さずけ温泉（宮西久夫・須磨利之△画）・2 鯉を刺す山窩の娘（遠山清二・須磨利之△画）」、女共産党員の恋（高村暢児・柴谷幸二郎画）、笑話の泉、エロコント・彼女が思案中（中村米蔵）、裸にされた女（草薙久人・明石三平画）、全身を見せた女・湯けむりのかなた（三木素玄）、第三回五万円懸賞・原稿募集、編集後記

備考：目次欄によれば、表紙画は磯田耕司、口絵「私は女兵だった」が須磨利之、「孕み湯の正体」が喜多玲子。／（山本 19: 86-87）には、同年 10 月 10 日発行の『魅惑クラブ』（魅惑クラブ社、87 頁・80 円）の目次が抜粋され掲載されているが、「女共産党員の恋」（高村暢児）、「情熱五人女」（緑猛比古）、「胎んだ人妻」（園田光）、「子さずけ温泉」（宮西久夫）、「裸にされた女」（草薙久人）がみえるほか、通巻 20 号掲載の「肉体を提供する女から男へ」、「お銀さま捕物帳その 1・節分の生首」（大木悦二）、「避妊薬を売り歩くの記」（霧ヶ城弘）、「怖るべき彼女たち」（波那川わたる）もみえる。ほか、「吾輩は千円札である」（サトーロクロー）は『奇譚クラブ』に見えない作品であるが、通巻 27 号掲載の「吾輩は

のぞき眼鏡である（構成：曾根三太郎、詩：サトウ・ハチロー）などを踏まえると「サトロークロー」は「サトーハチロー」の誤りか。

1950（昭和 25）年

【通巻 20 号】第 4 巻第 1 号（河）

印刷発行年月日：1950 年 1 月 10 日印刷発行

編集発行人：吉田稔

発行所：曙出版社^{ママ}

発行所所在地：大阪府堺市菅原通 4 丁

奥付その他：「第 4 巻第 1 号」

定価：70 円

頁数：102 頁

表紙：「私は日本を脱出せんとした」、「桃色密航者」、「死と真相の遺書 箕面の兄妹 9 人心中」、「女流新進作家」

裏表紙：「肉感的な脚への魅惑」、「文・殿村泰三・カット喜多玲子」、「読切小説特大号」

巻頭口絵：夜のエンゼル恋刺繍（早乙女晃・喜多玲子画）、恐怖の毒茸（杉山清詩・喜多玲子画）

巻頭写真：「死と真相の遺書 箕面 9 人心中コラージュ」

広告：なし

掲載作：桃色の密航者（淡河久作・須磨利之△画）、造脰奇譚・小腸が昔を忘れなかった話（須磨利之△画）、青空晴子捕物譚・恐怖の毒茸（杉山清詩・喜多玲子画）、アルバイト行商報告・避妊薬を売り歩くの記（霧ヶ城弘）、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、笑話天国、【桃色セレクション・エロエロコント】〔女秘書と好色社長さん、未亡人と援助を求む青年、女房を月賦で買った男、あたしまだ満足なんかしていませんわ、アロハ・ボーイは唄う、パンパン・ガールは唄う、睾丸を二千元で売った男、恋を知らない初心な女が言いました、乳房の肉体美、女の臀の魅力、脚の脚線美、ピンク色の爪〕、【笑府好色譚】〔韭と糸瓜、寝室の技巧〕、如何にして彼女をものにすべきか・温泉アベックエチケット十課目（信土寒郎・須磨利之△画）、夜這い結婚南国版（井村幸男）、避妊秘話・新婚の夫婦が最初に必ず行ふべきこと、奇譚笑話・その下のものまで貰った泥棒の話、野球とロマンス（園田光）、お銀さま捕物帳その 1・節分の生首（大木悦二・摩耶西望画）、アキレガール行状記・怖るべき彼女たち（波那川わたる）、コント・人魚になった娘（山本慶基）、【新進女流作家肉体小説傑作選】〔淫奔な女（岡安子・箕田京画）、深夜の痴戯（森静子・毛利可美画）、情欲小説・素裸の妖婦（美滝晃子・喜多玲子画）、夜のエンゼル恋刺繍（早乙女晃・明石三平画）、女の暴行（吉丘垣根・毛利可美画）〕、三業分立の嵐吹く飛田よ何処へゆく！！・肉体を提供する女から男へ（高級喫茶「夢の園」女給敷島由美子・須磨利之画）、【燃ゆる情熱五人女】

〔唐人おみや（緑猛比古・喜多玲子画）、四本指のお千代（緑猛比古・須磨利之画）〕、北浜奇譚・運命のチューイン・ガム（愛山久・須磨利之画）、女には何故自決が多いか（さぶろう画）、近代の木の実を喰った男性、記録小説・死と真相の遺書・死の淵・箕面の兄妹9人心中（黒岩光・柴谷幸二郎画）、懸賞原稿募集・新人の登竜門・応募規定
備考：巻頭口絵「夜のエンゼル恋刺繍」は喜多玲子画と記すが本編挿絵には明石三平のサインあり。/目次欄に「読切小説特大号」。

【通巻 21 号】第4巻第3号

詳細不明。以下、オークションサイトにかつて掲載されていた画像（現在は消滅）に基づき、わかる限りの情報を記す。

発行年月日：1950年3月1日もしくは10日カ

表紙：「肉体と記録」、「娘初夜感二十六人」、「暁の」「キルマルド断崖」、「私はソ連の女俘虜だった」、「沖縄血戦場の薔薇」、「裸身の混血児ジュダ」、「21」

裏表紙：「キルマルド断崖の復讐」、「怪奇記録小説」、「定価70円」

定価：70円

備考：「キルマルド断崖の復讐」は通巻20号では「怪奇記録小説・キルマルド断崖の復讐」とあり愛山久作として予告されている（73）。そのほか、20号に見える予告は、「ソ連引揚血涙記・女俘虜の生態」（衣笠カオル）（15）、「青空晴子捕物譚・慟哭する金庫」（杉山清詩）（22）、「或る狂人の告白「私は妻を殺した」」（宮西利夫）（41）、【肉体と記録特集】「私は断種された（黒岩光）、私は妻を殺した（宮西利夫）、私は米軍のスパイだった（草薙久人）」（83）。

【別刊 1】『敗走関東軍その後の実相 興安嶺』（河）

印刷発行年月日：1950年5月1日印刷、1950年5月5日発行

著者：藤原克己

編集兼印刷人：吉田稔

発行人：藤井喜一郎

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺区区内菅原通4ノ30

発売元：近畿図書株式会社

発売元所在地：大阪市南区生玉町10

奈良県八木町内譜

振替大阪 122631 番

奥付その他：「奇譚クラブ別刊」、「敗走関東軍その後の実相 興安嶺」

定価：70 円

頁数：74 頁

表紙：「興安嶺」、「敗走関東軍その後の実相」、「最後の関東軍姉妹篇」、「日系娘子軍の末路」、「吼える中共便衣隊」

裏表紙：「敗走関東軍其の後の実相 興安嶺 第二集予告」

巻頭口絵：「冷口周辺要図」、「興安嶺」（須磨利之画）

巻頭写真：なし

広告：「崩れゆく地平線（続最後の関東軍）」（裏表紙裏）、「奇譚クラブ・第 22 集・珍談と奇聞」（裏表紙裏）

掲載作：興安嶺（藤原克己・須磨利之画）、記録文学原稿募集

備考：表紙は須磨利之△。

【通巻 22 号】第 4 巻第 6 号（河）

印刷発行年月日：1950 年 6 月 30 日印刷、1950 年 7 月 1 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺市菅原通 4 ノ 30

奥付その他：「第 22 集」、「珍談と奇聞特集号」

定価：70 円

頁数：99 頁

表紙：「珍談奇聞」、「南方いざこざ絵巻」、「梅田の女怪たち」、「記録小説 洞窟の娼婦」、「怪奇小説 人魚密造窟」、「道頓堀河畔の秘密ナイトクラブを挟ぐる」

裏表紙：「逃げ出した恋びと」、「石井米蔵」、「珍談と奇聞特集号」

巻頭口絵：「古今川柳色自慢（文・兵庫一平、絵・須磨利之）」

巻頭写真：「喜多玲子“肉体の街”をゆく」

広告：「興安嶺第二集」(99)、「崩れゆく地平線・続最後の関東軍」(近畿図書株式会社) (99)

掲載作：【珍談と奇聞^{ファンタジー}娯楽版】〔洒落・夢診断（山本慶基）、おもしろ結婚したら、按摩、一体なんでしょう？問、女が喋らずにいるのは？、男が喋らずにいるのは？、食物と女・色即是食、或る節約家の小使帖、【珍話】〔街頭録音、腹を割った話、黄昏の異変〕、梅檀は双葉より、詰碁新題、なぜなぜ女は？、詰将棋新題（大橋虚土出題）、難問愚問 損をしたのは誰だ？、うそかほんとうか 死人が自由に生き返れる【私の名は娼婦】〔二十万円の女、恐怖の

ない女〕、笑話、ワイフ泥棒奴、異色マンガ・捕もの奇たん、現代流行・身の上相談欄、女女女、コント・赤裸々な姿、前号詰将棋解答、答・一体なんでしょう〕、転落の病葉（鈴木みち・喜多玲子画）、ランデブー・きたん・千円札は笑う（襟谷帯一）、南方いざこざ絵巻・色ごとの神さま・アラーマニス（月屋静史・喜多玲子画）、怪奇譚・人魚密造窟（里見輝春・明石三平画）、珍話・墨の貞操帯、犯罪実話・色情地獄（京町進哉・須磨利之画）、いんちき商売の真相・色と金の渦まく大阪裏街（津田幹夫・明石三平画）、享樂の陰に咲く・劇薬三題話（須山透）、ユーモア短篇・ズロース強盗出現・御婦人方に一大警告（亜羅伊弥太・S画）、色仕掛女スリ談義（村野昭治・明石三平画）、踊るカミソリ（能登一三・京画）、理想の結婚の悲哀、洞窟の娼婦（日向路雄）、恋のスパイ・情痴硫酸事件の秘密（原紅太郎）、怪奇小説・淑女の小便を飲む男（貴田川晴緒・三郎画）、今はむかし・本朝いろものがたり集（宜愁院春高・須磨利之△画）、童貞を弄ぶ貴婦人（北川春男・明石三平画）、エロ談義、闇夜の辻斬り（浅香耕策）、血族結婚の悲哀・不倫行為から白子三人まで生んだ実話、青空恋愛技巧恋愛技巧（若原晴夫・明石三平画）、【桃色セレクション・オフィス恋慕調】〔どうぞもう一度（永見隆二・須磨利之△画）、忘れたハンドバッグ（此花大助・須磨利之△画）〕、ランデブー奇譚・一夜の戯れ（岸本俊次）、問答娯楽版、人生、泪の生涯、花柳哀話・今里新地の女乞食（岡安子）、俺らは靴みがき（綾由紀夫）、猟奇小説（海川映二）、あたしゃダンサー（福永君子）、恋人獲得術・見知らぬ女性と忽ち仲よくなる方法・恋人速成法教授（須磨利之△画）、酒池肉林を誇る・地下組織の秘密ナイトクラブをえぐる（伊豆敏夫・須磨利之△画）、誘惑撃退法、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、キダン笑話・無毛症は文明人の証據（門好太郎）、梅田の女怪たち・肉体リンチと情痴（黒江潮・喜多玲子画）、腰巻と猿又・四景、原稿募集

【通巻 23 号】第 4 巻第 8 号（河）

印刷発行年月日：1950 年 8 月 25 日印刷、1950 年 9 月 1 日発行

編集兼印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：堺市内菅原通 4 ノ 30

奥付その他：「珍相実話特集」、「第 23 集」

定価：70 円

頁数：106 頁

表紙：「珍相実話特集」、「男装の慰安婦」、「特殊艇脱走す」、「第 4 巻第 8 号」、「毎月 1 回 1 冊発行」

裏表紙：「珍走実話特集号」、「北園克衛」

巻頭口絵：「好色男行状記・江戸生艶気枇杷焼」（須磨利之画）

巻頭写真：（無題）白人ヌード、「怜子さん、海へゆく」

広告：なし

掲載作：【桃色セクション（NOBUO 画）】〔エロチック・コント、とれない下着、昔噺・戦後版、現代流行身の上相談欄、女に振られざる虎の巻、恋愛金言、若しもあなたの恋人が、エロチック・ブック、奇譚奇談、珍版・おまじない集、詰将棋（大橋虚土）、前号詰将棋解答、無筆の親父、魚釣り奇譚（酒井滋）、笑話、詰碁新題、結婚紹介欄、前号詰将棋解答、奇譚マンガ・アトリエの怪（酒井滋）〕、特殊奇譚・特殊潜航艇脱走す（鷹久史・須磨利之△画）、女学校寄宿舍桃色風景（杉原緋佐子）、徳川将軍好色秘史・将軍暁に死す（緑猛比古・須磨利之画）、南方いざこざ絵巻・浮気裁判 2（月屋静史）、実話・彼女はこうして誘惑された（久能宮太郎）、娘御開帳（緑猛比古・須磨利之画）、ユーモアたんぺん・お尻^{なら}をする花嫁（兵庫一平・明石三平画）、真夏と女囚（穴山武）、珍談実話・湖へ飛び込んできた女（京町進哉・明石三平画）、【奇譚実話・エロコント】〔淫売婦の男妾をしている偽学生の話（原紅太郎・明石三平画）、婦女を喰物にした色魔易者の正体（此花大助・須磨利之△画）〕、捕虜収容所殺人事件・男装の慰安婦（日向路雄・須磨利之△画）、山に死んだ情死者の遺書・愛は死よりも強し（石原春美・明石三平画）、何より大敵、いっそ地獄へ、未亡人占師（早乙女晃・喜多玲子画）、涼み台夜話・女の居る怪談（大木悦二・明石三平画）、因果応報、独占したい、百貨店売子行状記（村正治・明石三平画）、か弱き婦女子を狙う・誘惑の魔手は躍る（津村進三）、怪奇実話・畳の上で溺死した裸女（愛山久・森あきら画）、残虐戦慄の徴用女工（片矢薫・喜多玲子画）、猟奇奇談・人間を料理する法（能登一三・須磨利之△画）、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、こんな話もあります・覗きからくり・旅興業の楽しみ（酔夢坊）、或る強姦殺人犯人の顛末（泉春樹・明石三平画）、コント・コント・絶対無料銷夏法・是非一度お試しを（澤村夢一）、戦慄実話・日本アルプスの山男（宇津大児）、因縁物語・因果女陰瘡（弓削忍・明石三平画）、【スケッチ小品】〔手紙、切手〕、ユーモア・権さんの女難（鈴木ミチ・沖研二画）、人肉売買は廃止されたか・接待婦募集の内幕をあばく（星夢二）、愛読者優待、原稿募集、奇譚倶楽部会員を募る、読者の頁開設（読者係）

備考：奇譚倶楽部会員を募る：「猟奇的趣味を有する男女の会員を募る。会員の作品は優先的に奇譚クラブ誌上に発表し、会員相互の連絡的機関として、同人による会誌を発行し、会員には、毎号奇譚クラブ 3 部会誌 1 部宛無代進呈す。」（裏表紙裏）

【通巻 24 号】第 4 巻第 9 号（資）

印刷発行年月日：1950 年 9 月 25 日印刷、1950 年 10 月 1 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：堺市菅原通4ノ30

奥付その他：「10月号」、「魅惑と猟奇特集」

定価：70円

頁数：106頁

表紙：「魅惑と猟奇」、「10」、「第4巻第9号」、「毎月1回1日発行」

裏表紙：「魅惑と猟奇特集号」

巻頭口絵：「変態艶くらべ・精力剤にされた男」（恋々山人・須磨利之画）

巻頭写真：「喜多玲子猟奇スケッチ・裸詣りのぞ記」（構成：喜多玲子・写真：片山研二）

広告：なし

掲載作：【カラー・セクション】「裸体物大流行時代、女相撲、彼女の失態・傷くすり売りの歌」、【笑ってはいかん・キダンクラブ・ロマンスコント（須磨利之）】「女に甘い男、箱入娘のやまい、奇譚小話（風流太郎）、詰将棋（大橋虚土出題）、マンガ・裸ショー（山田清香）、川柳・八百屋草紙、悪魔（SABBAT）の夜宴、冗談身の上相談欄、奇譚笑話、川柳・戦後派草紙」、【桃色セクション（須磨利之△画）】「いんちき見世物、前号詰将棋解答、本号詰将棋解答、漫画・素裸・丁度、裸だったもんで（山田清香）、小話（風流太郎）」、女学生の私刑！・肉体を弄ぶ女学生たち（片矢薫・喜多玲子画）、亀・虎、浮浪者の恋（赤野夢比古・秋田冷光画）、魅惑コント・マダム桃色温泉武者修行（徳南坊）、嬌態・秋宵五人娘・都会の盛り場・夜の8時から朝の9時まで（宮西久男・森あきら画）、韓国密航者哀話・捕えられた密入国者（階堂三次郎）、南方いざこざ絵巻3・色事の手引（月屋静史・喜多玲子画）、本牧夜話・色道女鑑（明石三平画）、現代艶笑狂演譜・五百円の価値（星夢二・明石三平画）、女性の肉体を狙う・誘惑魔百態・美しき小鳩は驚に狙われている（津村進三・明石三平画）、【こんな話もあります】「でんすけに肉体を賭けた女・女という動物は騙されるのが好き」、流行作家の実相を暴く・芸術を腐蝕するもの（覆面作家）、世相諷刺・偽刑事横行時代（永見隆二）、地方奇習・祝言と石地蔵（花本史郎・明石三平画）、逃げた二人の妻（岡安子・須磨利之画）、【スター異聞（須磨利之△画）】「これで一杯です・ハダカ写真・ハンドバックの中味」、【恋愛百貨店（夜草京介・明石三平画）】「1 昇降機とセコハン娘、2 恋は将棋盤の上から、3 パイプ啜えた女店員」、あぶな絵と春画（殿村泰三・須磨利之画）、現代好色化物ものがたり・美人局開業（笠置良夫・沖研二画）、秋宵猟奇・博徒の婿入奇譚、或る情死未遂者の告白・邪恋の果（三部財・須磨利之△画）、ワテほんまによ言わんわ・とてつもない話（岸本俊次・須磨利之画）、怪奇実話・飯場の飯焚き女（伊藤昭光・森あきら画）、秋の夜の或警察署で・紐男の陳述（此花大助・明石三平画）、【裸の踊り子アラベスク（戸見野一・明石三平画）】「1 踊り子と乳当ての南京玉、2 ズロオスの破けに気がつかなかった踊り子」、枕草紙・女

と契った翌朝（清少納言・明石三平画）、番台娘の男湯のぞき（西原津夜子・沖研二画）、淫痴奇譚・筋を売る娼婦（弓削忍・須磨利之△画）、此の頓馬野郎、奴の小万・女^{おんなだて}俠裸道中（緑猛比古・須磨利之画）、秋宵獵奇談集・僧の娘の怪、【シベリヤ軟派風景二題（穴吹武）】〔シベリアのオッパイ小僧、シベリア女の貞操〕、変態遺伝コレクション・女の腰巻を蒐める男（兵庫一平・明石三平画）、青空晴子手柄話の内・天使の犯罪（杉山清詩・喜多玲子画）、日本開国秘話・領事ハリスとお吉（海川映二）、奇譚倶楽部会員募る、STOP・読者の声、原稿募集、編集後記

備考：背表紙に「第 24 集」

【通巻 25 巻】第 4 巻第 11 号（河）

印刷発行年月日：1950 年 11 月 30 日印刷、1950 年 12 月 1 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内

奥付その他：「古今珍談くらべ特集号」

定価：70 円

頁数：110 頁

表紙：「古今珍談くらべ」、「野球選手の告白」、「金儲押切帳」、「肉体悲歌」、「貧豪一代男」、「現代好色化物ものがたり」、「南方いざこざ絵巻」、「お好みバラエティ」

裏表紙：「鬼あざみ」、「第 4 巻第 11 号」

巻頭口絵：なし

巻頭写真：（無題）白人ヌード写真

広告：なし

掲載作：【冗談娯楽室】〔奇譚の泉〕〔夫人雑誌編集企画成功法、痩せたいお方の献立表、正直なる日記、女を惚れさす秘伝・色男の日記より、面白問答、笑止爆弾、面白問答、冗談案内広告〕、あぶれコント風土記（風流太郎）、あらアラかると、【トップ奇譚】〔柘榴口と毛切石、超エロ小説一等入選作品、金冠を呑み取った花嫁、面白問答解答〕、蜘蛛男^{たこむすめ}と章魚娘（須磨利之画）、チャッカリ一婦人の恋人（明石三平画）、夫のある職業婦人が如何にして誘惑の魔手から逃れたか・小説の種になった社長（山本栄・須磨利之△画）、新婚夫婦の寝物語から・お化け屋敷の睦言（兵庫一平）、愛欲の齒車（佐々木直・須磨利之△画）、源吉金儲押切帳ノ内・貧豪一代男（辻村隆・曾根三太郎画）、北鮮シベリヤ俘虜放浪記（穴吹武）、盛り場いんちきブギウギ・わてほんまによいわんワ（門好太郎・明石三平画）、プロ野球選手の告白・愛慾小説・肉体悲歌（愛山久・須磨利之画）、【恋愛戦術中央突破】〔若い燕戦術・私は

4 人のかけもちだ（寺本明・須磨利之画）、有閑マダム攻略戦・私はこうして、美しい未亡人を獲得した（早乙女晃・須磨利之△画）、女体開眼（有藻亜郎）、【恋愛術指南・倦怠期突破戦術】〔閨房遊戯の一挿話（花木実・喜多玲子画）、あばずれ女の恋愛戦術・映画館の女・かすりとり戦法（富田信二・須磨利之△画）、純情戦法・ハンドバックのなかには？（小島伸一・須磨利之△画）、倦怠期突破打開秘訣方・搦め手戦術・功を奏した虚々実々奇襲戦法（椿昭彦・須磨利之△画）〕、世相諷刺・近頃の娘は老人がお好き（土岐次郎）、浮気戦術・肉体の距離（直木竜之介・秋田冷光画）、ラブ・ロマンス・思春期の乙女・初恋獲得法（平井京助・須磨利之△）、現代好色化物ものがたり・姦夫は生きていた（笠置良夫・沖研二画）、泰西珍談・寝台の下から這い出した男、【笑話・名作縮刷版】〔二人妻、誰か夢なき、赤と黒、暗夜行路、幸福の限界、戯れに恋はすまじ〕、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、【桃色アパート万華鏡（夜草京介・明石三平画）】〔1 欲を言えばハンドバックで、2 それでも奥様をご存知ない、3 いゝえたゝ読んだだけですので、4 眼尻りにつける眼薬、5 W・C なら向うです〕、【ぶっそうな話五篇】〔殺人器、空気、肛門から出る針、舌を噛み切る、卵巣から針が出る、首を切る話〕、奇譚クラブ夜話（須磨利之△画）、人間の子を生んだ猿の話（夏原常雄）、【お好みバラエティ（一笑亭主人・曾根三太郎画）】〔1 熊の掌、2 マダムスカンク〕、愛怨比丘尼屋敷（緑猛比古・須磨利之画）、女風土記・初一念（風流太郎）、【夜ひらく花競艶集・初恋から女になるまで（喜多玲子画）】〔1 貞操の代金（島田克郎）、2 裸の踊り子（月村俊二）、自殺殺人事件・全裸の黒焦死体（杉山清詩・喜多玲子画）、結婚奇譚奇習・花嫁の性的羞恥（嘉義信哉）、秘密隠語、南方いざこざ絵巻・乳房騒動（月屋静史・明石三平画）、寸鉄常識、原稿募集、読者の声、詰将棋、直接購読者募集
備考：背表紙に「第 25 集」

1951（昭和26）年

【通巻26号】第5巻第1号（河）

印刷発行年月日：1950年12月30日印刷、1951年1月1日発行

編集兼印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内

奥付その他：「異色愛慾譚特集号」

定価：70円

頁数：110頁

表紙：「異色愛慾譚」、「力作小説 肉体の陰火 松井籟子」、「暴露小説 地下へ潜った娘党員 新門昭次」、「古今夫婦浮気合戦 土曜日譚 恋の鞘当て」、「お好みバラエティ 好色天狗 鶯の谷渡り」、「田園の恋のはなし 盆踊りと村の娘 三十後家の悲哀 禅寺の気狂娘 農村演劇と尻軽女 村会議員と女中」

裏表紙：「異色愛慾特殊号」、「昭和25年10月5日第三種郵便物認可（毎月1回1日発行）」

巻頭写真：「裸女モンタージュ」

巻頭口絵：「暗黒のヴィナス（田辺節夫・須磨利之画）」

広告：なし

掲載作：マンガ長篇・^{うちまたにぼるなぞのいれずみ}内股彫謎刺青（明石三平）、【奇譚珍話珍文選】〔男性恐怖時代、月と人生、日曜日と人生、ラブ笑話集〕、アプレゲール娘気質（兵庫一平・須磨利之画）、腕自慢女^{すり}掏摸仕合（藤本千恵子・志乃田よしろう）、ボクはこんな娘に見染められた（田村邦男・志乃田よしろう画）、実話コント・世相諷刺小話・30年分の前家賃（赤野夢比古）、猟奇小説・肉体の^{おに}隠火（松井籟子・須磨利之画）、粹夢奇談・黒い情感（京極鋭子・須磨利之△画）、【農村愛慾譚（階堂三次郎・曾根三太郎画）】〔盆踊りと村の娘、三十後家の悲哀、禅寺の気狂娘、農村演劇と尻軽女、村会議員と女中〕、【恋の四十八手（信土寒郎・明石三平画）】〔つりだし、おしだし、かたすかし、よりきり、けたぐり、あびせたおし、うっちゃり、下手投げ、うわて投げ〕、ひとの恋路を邪魔するヤツは（岡本廣雄）、【世相風俗奇談・チャメル珍談・女子工員の生態（能登一三・田中比呂志画）】〔いくら美人だって、女の泣く部屋、月賦のおやつ代、恋人と亭主は別もの、罪な水飴〕、夫も妻も恋愛は自由であるか？（戸見弘・須磨利之△画）、産婦人科医・^{じゅうり}重利先生行状記（辻村隆・冲研二画）、奇譚笑話集（風流太郎）、【お好みバラエティ（一笑亭主人・曾根三太郎画）】〔好色天狗、鶯の谷渡り〕、人斬り又五郎・おしどり道中記（加納八郎・天野健画）、新聞の身の上相談より見た世相・母と娘に絡む三角関係（殿村泰三）、【古今夫婦浮気合戦】〔時代篇・恋の鞘富、現代篇・土曜日譚〕、肉体の悪魔（桑名壽子）、男心女心（鈴木ミチ・喜多玲子画）、好色化物ものがたり・

弱い男と強い女（石田茂雄・喜多玲子画）、好色家列伝（石原春美）、ダンサー客引き戦術、私の名は源氏屋（岩田信之、須磨利之△画）、告白実話・生きている春画（津村道子）、珍談小説・課長婦人二節道（村正治・明石三平画）、実話・シベリヤ軟派風景・馬鈴薯貯蔵庫の復讐（穴吹武）、水底に苦悶する白裸の女体・呪われた紅人魚（早乙女晁・箕田京画）、妖気ただよ素人女の大相撲・腹櫓対乳張山（土俵四股平）、コント・女四十路（花木実・喜多玲子画）、山のいなかのはなし（香川翠山・今幾久造画）、産制長屋評判記（伊座利進・明石三平画）、パンクした風船（山田清香）、暴露小説・地下に潜った娘党员（新内昭次・森あきら画）、山村愛慾譚（金子しのぶ・須磨利之△画）、花嫁に贈る言葉、パイパン、読者の声、原稿募集、奇譚倶楽部会則御照会の方々様え、笑ひのバズーカ砲、直接購読者募集
備考：目次カットは喜多玲子

【通巻 27 号】第 5 巻第 2 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 1 月 30 日印刷、1951 年 2 月 1 日発行

編集印刷兼発行人：吉田稔

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内

奥付その他：「珍談と艶笑読物集」

定価：70 円

頁数：110 頁

表紙：「珍談と艶笑読物集」、「変態小説 愛撫の犠」、「好色珍談」、「愛染春雨草紙」、「狂艶浮寝草紙」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」、「第 5 巻第 2 号」、「毎月 1 回 1 日発行」

裏表紙：「珍談と猥奇の型破り雑誌 奇譚クラブ三月号予告・毎号熱狂的売行」、「アプレゲール狂恋録 覆面の駈落男女行状記 階堂三次郎」、「古今東西珍談奇聞の決定版」、「珍談と艶笑譚」、「定価 70 円」

巻頭口絵：「ストリッパー物語 妾の名は性^{セックス}の女王 早乙女晁^{クイン}」、「探訪実話 超戦後派お嬢^{レディ}さんを尾行する 椿昭彦 Toshiyuki S」、「愛撫の犠 松井籟子」巻頭口絵：「ストリッパー物語 妾の名は性^{セックス}の女王 早乙女晁^{クイン}」、「探訪実話 超戦後派お嬢^{レディ}さんを尾行する 椿昭彦 Toshiyuki S」、「愛撫の犠 松井籟子」

巻頭写真：（無題）槍を持ち犬を散歩させる白人女性ヌードほか、「吾輩はのぞき眼鏡である（構成：曾根三太郎、詩：サトウ・ハチロー）」

掲載作：日曜日の楽しき逢曳物語（花野美佐子・須磨利之画）、河原夫妻の人工

受精（志乃田さぶろう画）、わが好色の勘違い・人間はなぜこうまで好色なのか？（根来芳

太郎・曾根三太郎画)、奥さま無断借用(若草夢子・須磨利之△画)、ストリッパー物語・妾の名は性^{セックス}の女王^{クイーン}(早乙女晃・喜多玲子画)、肉体で愛する女と心で愛する女 或る貞女(磯路マヤ・須磨利之△画)、珍談小説・耳掃除異聞(吉丘垣根・箕田京太郎画)、天罰テキメン(山田清香)、童貞は処女の如く(山本栄・喜多玲子画)、【香具師艶ばなし(須磨利之△画)】〔獣の眼 1、獣の眼 2、獣の眼 3、犬二題ほり込む〕、探偵実話・片眼の殺人鬼(志賀登・箕田京二画)、【早春恋愛二題(新月弦馬・志乃田よしろう画)】〔純情の巻・憧れた裸像、爛熟の恋・清算の夜〕、【王朝風流艶笑譚】〔筑紫の女、尼僧のやわ肌、きぬぎぬの騒動〕、昔の女と今の女(兵庫一平・加住としを画)、コント・猟奇犯罪、【艶種短話集・色街のお針子たち(鈴木ミチ・曾根三太郎画)】〔1 破れていたズロース、2 ととさん、3 二号さん、4 色町の女たち、5 喪服の寸法〕、好色奇譚・10 万円の接吻(神山竜雄・須磨利之△画)、笑話・エロめがね、艶笑コント・母と娘の秘密(石田芳雄・須磨利之△画)、狂艶浮寝草紙(原紅太郎・今幾久蔵画)、世の中にこんな強い女がいるとは知らなんだ(尾崎文甫)、探訪実話・超戦後派お嬢^{ネオアフゲダール}さんを尾行する^{レディ}(椿昭彦・沖研二画)、純潔だけでは恋はできないという話・処女と獣欲(藤本千恵子・沖研二画)、盲執(金子忍・志乃田よしろう画)、愛情の門(ジェームス楨・須磨利之画)、枕と毛布を持ってゆく女(隅田菊夫・悦?画)、奇譚ちっくコント(風流太郎・明石三平画)、媚娼婦あい史(京極貴子・喜多玲子画)、【奇譚うそ新聞(中村米蔵)】〔奇蹟、宣伝戦、男性ストリップ、社会奉仕、肉体の採点、ニュールック〕、奇譚頓智教室(禿茶瓶教授)、懸賞詰将棋(大橋虚土出題)、キダン・ギャグトビマックス(風流太郎)、優をもらったわけ(山彫三)、水門妖魂記^{みちと}(澄村美津男・峰玄太画)、黄昏の慕情・ある人妻をめぐる手紙(愛山久・森あきら画)、艶笑コント・後家のツマミ食い(文川映二・須磨利之△画)、愛染春雨草紙(緑猛比古・須磨利之画)、女に跨がせる男(土俵四股平・土俵四股平画)、花櫓・娘力士は唄う(加茂三千彦)、変態小説・愛撫の犠(松井籟子・美濃村晃画)、踊るバケツ(夢比古)、原稿募集、奇譚倶楽部会員申込の方へ、ヌード芸術写真分譲(代理部)、読者の声、直接購読者募集

備考：目次カットは喜多玲子。/ 超戦後派お嬢さんを尾行する：巻頭口絵では「Toshiyuki S」のサインがあるが、掲載ページでは沖研二画となっている。/ 女に跨がせる男：文と画土俵四股平となっているが、画は間違いなく須磨利之。

【通巻 28 号】第 5 巻第 3 号 (河)

印刷発行年月日：1951 年 2 月 28 日印刷、1951 年 3 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4丁30

振替口座：大阪第34956番

奥付その他：「軟派小説決定版」、「3月号」

定価：80円

頁数：110頁

表紙：「珍談と猟奇の型破り雑誌」、「軟派小説決定版」、「変態小説 恋責め」、「中編読切 哀艶情歌」

裏表紙：「悩殺百パーセント!!!一度見たら夜も寝られぬ素晴らしさ!」、「ストリップショウは日本一を誇る皆様の道劇へ」、「道劇 大阪・どうとんぼり」、「昭和25年10月5日 第三種郵便物認可」、「第5巻第3号」、「昭和26年1月24日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第1887号」

巻頭口絵：「責めの狂艶絵巻・遊女葦水の最後」（須磨利之画）、「泥沼に喘ぐ女」（箕田京二画）

巻頭写真：「春へのあこがれ」（撮影：二宮哲夫・構成：美濃村晃/冲研二）、「扉のかなた」
掲載作：覗かれた新婚夫婦（田辺節夫・明石三平画）、【キダングラブ・コント横丁告知板（風流太郎・明石三平画）】「大いなる事情、まあ、口惜しい、処置なし、ぎゃふん!、現実派、それは有難い、主客転倒、敬遠、」、妊娠した少年（花木実・冲研二画）、妖婦に魅せられた中年男の話・淫らなる末路（田村邦男・須磨利之△画）、僕は未亡人が好き（佐々木直・須磨利之画）、婦人科医・重利先生行状記（辻村隆・冲研二画）、【春宵お色気奇譚・1951年型超弩級職業婦人桃色手帖】「最先端型セールス・ガールの巻・香水は闇に溶けて（光水晴治・田中比呂志画）、戦前的戦後派型派出婦の巻・極楽注射（光水晴治・田中比呂志画）、女孫六成金型・保険勧誘員の巻・愛情契約（光水晴治・田中比呂志）」、周旋屋の話（泉春樹・須磨利之画）、遊女葦水の最後（片矢薫・須磨利之画）、或る娼婦の日記（花本緋佐子・須磨利之△画）、暴露小説・泥沼に喘ぐ女（笠置良夫・箕田京二画）、ユーモア小説・いと太きもの（池長味文・池長味文画）、怪奇小説・地獄に行く男（早乙女晃・森あきら画）、肉体の罰（林朋雄・喜多玲子画）、女闘美小説・愛人に決闘を挑む女（加茂三千彦・天野健画）、指切りゲンマ（加茂三千彦）、アプレゲール狂恋録・覆面の駆落男女行状記（階堂三次郎・曾根三太郎画）、傑作短篇・無名の女（笛木羊三・峰玄太画）、キダングラブ・ロマンスコント（風流太郎）、温泉宿の女・肉を売って恋を獲得した女中の話（寺元明・明石三平画）、虚しき復讐（有藻亜郎・秋田冷光画）、中篇読切傑作小説・哀艶情歌（直木竜史・美濃村晃画）、痴夢（有藻亜郎・須磨利之△画）、実話コント（伊勢みどり）、笑話アラベスク、迷訳新人名辞典（風流太郎）、詰将棋新題（大橋虚士）、毛と足と（兵庫一平・加住としを画）、女風土記・艶麗ヨルバイト巷談・夜の設計図（風流太郎）、恋責め（松井籟子・喜多玲子画）、奇譚小咄・屑屋のオヤジと腰巻（殿村泰三）、次号予告、原稿募集、裸婦（ヌード）写真、読者通信、直接

購読読者募集

【通巻 29 号】第 5 巻第 4 号（河）・（資）²²

印刷発行年月日：1951 年 3 月 30 日印刷、1951 年 4 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁 30

振替口座：大阪第 34956 番

東京営業所：東京都台東区浅草駒形 1-6

奥付その他：「第 5 巻第 4 号」、「4 月号」、「毎月 1 回 1 日発行」、「妖色読物決定版」

定価：90 円

頁数：110 ページ

表紙：「珍談と猟奇の型破り雑誌」、「妖色読物決定版」、「未亡人狂艶 女体燃ゆれど」、「嘆きの人妻 悲願人肉地図」

裏表紙：「悩殺百パーセント!!!一度見たら夜も寝られぬ素晴らしさ!」、「ストリップショウは日本一を誇る皆様の道劇へ」、「道劇 大阪・どうとんぼり」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」、「第 5 巻第 4 号」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭口絵：「愛欲実話小説・空閨未亡人倶楽部 三宅リラ子」(箕田京二画)、「女体燃ゆれど」(喜多玲子画)

巻頭写真：「お尻おしりオシリ」(構成：美濃村晃・詩：サトウハチロー)

掲載作：【匂える園夜話 (S.コントシアン・須磨利之画)】〔一分一話物語^マ、1 未亡人と焼餅問答、2 天下一品が玉に疵、3 商人の妻の愛人とその息子、4 三人兄弟では財産がつぶれる、5 夜なべ仕事と御馳走、6 まんじゅうに喰われた話、7 彼女の選んだ夫〕、情怨どろんこ一座 (花木実・喜多玲子画)、【好色剣豪列伝 (小太刀兼法)】〔宮本武蔵、佐々木小次郎、鞍馬天狗、丹下作膳、大岡越前守〕、愛欲実話・空閨未亡人倶楽部 (三宅リラ子・箕田京二画)、明朗滑稽小説・ひげと花束とぜんざい (能登一三・曾根三太郎画)、酒と女の双曲線・デレスケ社長伝 (泉春樹・志乃田よしろう画)、【これは驚いた!! 悩殺的煽情短篇集】〔女体の扉 (納家三郎・箕田京二画)、欲情地獄 (志賀登・秋田冷光画)、渡り者のパン助 (五月雨渡・田中比呂志画)、女店員の貞操 (平井京助・森あきら画)〕、爆弾娘行状記・ミス京都の痴戯

²² 河原所持号の奥付ページに欠損があるため、奥付情報は（資）に拠った。

(加茂川清子・沖研二画)、新婚珍談・若夫婦と涎(富田信二・峯玄太画)、愛欲実話小説・女体燃ゆれど(松井籟子・喜多玲子画)、アベックタクシー12時間(夜草京介・明石三平画)、悲願人肉地図(愛山久・森あきら画)、新作漫才・ボクは競輪選手(中村米蔵)、【生殖器の悲劇・男と女とのなぞ?】〔男から女になった話(夏原常雄・峯玄太画)、女から男になった話(姫野八郎)、私版・好色滑稽譚・惚れた女房のまねとこ間夫(葦田郁也・美濃村晃画)、情痴愛慾の村騒動記(階堂三次郎・曾根三太郎画)、どんなエロが人間に最も刺戟を興えるか・連想の鍵穴(菊内章夫)、女風土記・明眸有罪ゆだんたいき(有藻亜郎・松岡敏一画)、十人十色色のあるお色気噺(吉丘垣根・田中比呂志画)、珍奇実話・巫女寄せの死(玉置光男・峯玄太画)、【奇譚笑話街】〔とんでもない、高利廻、絶望、練習〕、第二の初夜奇談(小島伸二・喜多玲子画)、ドサからストリッパーへ・女優愛慾流転記(寺本明・沖研二画)、【特選冗談コント(風流太郎)】〔1 女性横暴時代、2 お土産品、3 アベックパトロール、4 結婚と子供、5 避妊薬無効〕、【笑話三題】〔好奇心、絶好の機会、危険人物〕、姦通流刑のイビラとアリエ(根来芳太郎・須磨利之△画)、詰将棋新題(大橋虚士)、接吻考現学、肉体の自信(祖父江大和・須磨利之△画)、裏町実話・お尻で日掛貯金をする女(竹内阿佐夫・須磨利之画)、新釈・梅川忠兵衛恋の道行傾城恋つまみぐい飛脚かみのめづ(緑猛比古・今幾久蔵画)、私はお相撲が好きなのよ(北海千珠子・美濃村晃画)、スマイル小説・なぞなぞの巻・微笑喫茶店(中村米蔵・明石三平画)、犯罪実話・女体の甘美さを始めて知った四十男の放火事件・肉臭の虜(富田信二・箕田京二画)、5月号予告、原稿募集、読者通信、ヌード写真分譲、直接購読者募集
備考：目次カットは喜多玲子。/ 本号より「日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」。/ 巻頭の赤刷りページにはページ数表記なし。

【通巻 30 号】第 5 巻第 5 号 (河)

印刷発行年月日：1951 年 4 月 30 日印刷、1951 年 5 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁 30

振替口座：大阪第 34956 番

東京営業所：東京都台東区浅草駒形 1-6

奥付その他：「第 5 巻第 5 号」、「5 月号」、「毎月 1 回 1 日発行」

定価：90 円

頁数：110 頁

表紙：「珍談と猥奇の型破り雑誌」、「われ女群に包囲さる」、「復讐のドラマ」、「裸身の魔女」、

「ST」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭口絵：「裸身の魔女」（須磨利之画）、「桃色査察使御入来」（今幾久蔵画）、「復讐のドラマ」（須磨利之画）

巻頭写真：「ヌードは踊る」

掲載作：ヌードは踊る、冗談横丁回覧板（風流太郎・明石三平）、裸体写真収集狂（吉岡垣根・志乃田よしみ画）、われ女群に包囲さる（能登一三・箕田京二画）、奇譚うそ新聞（中村米蔵・三平画）、桃色査察使御入来（根来芳太郎）、裾を乱すまで（加茂三千彦・峰玄太画）、都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、オキヤンスカの恋（穴吹武・松岡敏一画）、東京夜曲（有藻亜郎）、わが口髭に後悔ありき（高村暢児・曾根三太郎画）、結婚報告書（中村米蔵・三平画）、血に護れた乳房（北海千珠子）、復讐のドラマ（片矢薫・森あきら画）²³、三人の色事師（葦田郁也・秋田冷光画）、祇園舞子水揚げ帖・花見小路のたそがれ（加茂川清子・冲研二）、女闘美開眼（栗津實）、夜の都会なやまし奇譚（草薙久人・天野健画）、花薫る裏街（愛山久・美濃村晃画）、万引令嬢殺人事件（瀬戸川宏志・森あきら画）、甘い夢桃色の夢（久富浩司）、難破船の佝僂男（笠置良夫・竹中英二郎画）、覗き見られる夫婦（玉木光男）、花の精に弄れる恋人（金子しのぶ）、裸身の魔女（松井籟子・喜多玲子画）

【通巻 31 号】第 5 巻第 6 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 5 月 30 日印刷、1951 年 6 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁 30

振替口座：大阪第 34956 番

東京営業所：東京都台東区浅草駒形 1-6

奥付その他：「第 5 巻 6 号」、「六月号」、「毎月 1 回 1 日発行」

定価：90 円

頁数：120 頁^{※乱丁有}

表紙：「珍談と猟奇の型破り雑誌」、「主義か、独立か、血か、恋か!!」、「民族宿命の悲劇に哭く 日鮮混血児」、「愛欲奇譚 汚されたマネキン人形」、「女子プロ秘聞 熱球に狂う処女の性典」

²³ 1958 年 1 月臨時増刊号に再録。

裏表紙：「全裸の女体はかくも悩ましきものか！」「官能をくすぐる裸女の群像！！」「美の頂点」「D・T・Bストリップ・ショウ」「大阪・どうとんぼり 道劇」「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭口絵：「奈落の情欲」

巻頭写真：「触っちゃ嫌よ」「ポポ売り娘誌上ストリップショウ」（本誌写真部特写）

掲載作：【眠閑奇譚放送局（風流太郎・明石三平・根来芳太郎・伊勢みどり）】〔ポケットコント、街頭ろくおん・夫婦の性愛は如何にあるべきか（中村米蔵）、主婦日記・主婦日記とラジオ体操講習の混線、放送演芸会・落語嫁さがし（桃色亭平助）、七つの扉答、私の本棚・現在日本好色文学案内、七つの扉、趣味の手帖・駄洒落迷々伝、日曜誤落版、身上相談、ニュース・トピックス、野球放送、宣伝の時間・アプレ娘に大恐慌・実用珍案特許・貞操保全器現わる、皆様の健康、求人時間〕、民族宿命の悲劇に哭く・日鮮混血児（木之下白蘭・美濃村晃画）、娘相撲部屋参観記・八重樫対乳張山の決闘（加茂三千彦・須磨利之△画）、競輪場の女掏摸（椿昭彦・志乃田よしろう画）、爆笑小説・おらが村にきたストリップ（能勢一三・曾根三太郎画）、夫婦展示会（風流太郎）、【色道通鑑・女体探検記】〔間違えた赤い腰巻（兵庫一平・明石三平画）、女の鉞脈（茨城浩市・田中比呂志画）、痴情の果て（富田信二・秋田冷光画）〕、新釈おさん茂兵衛・^{とんでもハッピーねやのかけひき}恋八卦色暦（緑猛比古・今幾久蔵画）、女学生桃色遊戯図・爆弾娘行状記（加茂川清子・沖研二画）、実話奇譚・夫を万引にした妻・派出所日記から（村正浩・S 画）、笑話アラベスク（山本慶基）、奇術師の恋・奈落の情欲（吉丘垣根・竹中英二郎画）、男娼哀歌・十年後の彼は女だった（草薙久人・須磨利之画）、愛欲小説・女情痴作家（松井籟子・喜多玲子画）、愛欲奇譚・汚されたマネキン人形（愛山久・森あきら画）、女子プロ野球秘聞・熱球に狂う・処女の性典（早乙女晃・須磨利之画）、実話コント・淫売婦（足立武男）・くろやんの旦那（紀市郁栄）、三郎物語の内・ラムネ爆発事件（杉山清詩・沖研二画）、掌編愛情小説・税務署員とその恋人（山代章雄・志乃田よしろう画）、奇譚百話・都会の溜息（信土寒郎・明石三平画）、女の秘密・姉の秘密と妹の秘密（佐々木直・喜多玲子画）、奇譚奇談・農村奇談・白痴男の恋慕（幸島源太）、女は泥濘の中にいた（三宅リラ子・京二画）、若しもこんなカンヅメがあったなら（山田清香）、愛読者の皆さまへ（奇譚クラブ編集部）、七月号予告！！、原稿募集、読者通信、直接購読者募集

備考：赤刷りページ（眠閑奇譚放送局）計 8 頁はページ数無し。モノクロページは 33 頁～。

【通巻 32 号】第 5 巻第 7 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 6 月 30 日印刷、1951 年 7 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4丁30

振替口座：大阪第34956番

東京営業所：東京都台東区浅草駒形1-6

奥付その他：「7・8月合併号」※裏表紙に「8月号」とある、「第5巻第7号」、「毎月1回1日発行」

定価：90円

頁数：120頁^{※乱丁有}

表紙：「珍談と猟奇の型破り雑誌」、「艶姿五人女・淫雨夜譚」、「五人の売笑婦」、「唄祭次郎吉囃子」

裏表紙：「全裸の女体はかくも悩ましきものか!」、「官能をくすぐる裸女の群像!!」、「美の頂点」、「D・T・Bストリップ・ショウ」、「大阪・どうとんぼり 道劇」、「8月号」、「昭和25年10月5日 第三種郵便物認可」、「昭和26年1月24日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第1887号」

巻頭口絵：「オフセット色刷口絵・裸にされた娘たち（獣獄）（箕田京二画）」、「オフセット色刷口絵・セリ売りされる裸女（唄祭次郎吉囃子）（須磨利之画）」、「オフセット色刷口絵・海に投げ込まれる女（密輸船を襲う女海賊）（須磨利之△画）」

巻頭写真：「グラビヤ 裸婦競演 ヌード・アラベスク」、「女護島ハダカ天国の巻 柔肌の熱き血汐」（本誌写真部特写）

広告：なし

掲載作：【艶笑百貨店夏期大売出し】〔五階催物会場、食堂、ビヤホール、エレベーター・ガール、マネキン・ガール、薬品化粧品、夏の用品、放送室、写真室、洋家具売場、おもちゃ、家庭用品売場、発禁本特売所、委託品売場、生鮮食料品、古書籍即売会、御婦人雑貨、お菓子売場、強力美顔水販売所、御休憩室伝言板、W.C 便所のらくがき〕、【奇譚うそ新聞（中村米蔵）】〔カクレン軍団に原子砲弾を使用す!!、美人税を取れ、各種羽根運動は暴利?、ニセ札氾濫に聖徳太子乗出す、拳銃暴発に被害防止策成る、政府新事業を計画、全裸でたわむれる十数名の男女の群、ナイロン製品大流行か?、街で拾ったニュース、世論調査〕、【眠閑奇譚放送局（風流太郎、明石三平、根来芳太郎、伊勢みどり）】〔朝のニュース、朝の訪問、聴取者文芸、料理の時間、ニュース、婦人の時間、天気予報、英語の時間、漫才、とんち教室、尋ね人の時間〕、青空晴子手柄話の内・獣獄・三重子の手記（杉山清詩・箕田京二画）、5人の売笑婦・現代妖奇犯罪譚（月尾静史・竹中英二郎画）、顔を真紅にした按摩、ユーモア綺談・わが名はイカレボンチ（能登一三・曾根三太郎画）、艶色ユーモアものがたり・金さん欲情す（嶋勝久・曾根三太郎画）、唄祭次郎吉囃子（早乙女晃・須磨利之画）、読者挑戦

女闘随筆・私とお相撲取らないかな（北海千珠子）、山荘の処女妻（愛山久・森あきら画）、濃艶小説・月のいたずら（春山耀子・TOSHIO.K 画）、密輸船を襲う女海賊（北川春男・松岡敏一画）、淫婦流転記・夢を追う女（有藻亜郎・須磨利之△画）、愛欲実話・エデンの闇（水流舟二郎・須磨利之△画）、詰将棋新題（大橋虚士）、愛情のトリック（矢代文世・美濃村晃画）、艶姿五人女・淫雨夜譚（乙宮多巳雄・志乃田よしろう画）、猿とび色助（明石三平）、ゴム風船（鈴木義司）、奇譚笑話街（風流太郎）、女闘美小説・わが絵姿を妬く女（土俵四股平・須磨利之△画）、君が手に（加茂三千彦）、変態情痴小説・秘めたる炎・男娼殺人事件の顛末（松井籟子・喜多玲子画）、傑作新作漫才・男性ストリップ（中村米蔵）、日本人と朝鮮人・続編日鮮混血児（木之下白蘭・美濃村晃画）、不感性の女が辿った愛欲の半生・この病気の名は言えない（大西三枝子）、原稿募集、次号予告、ヌード写真分譲、直接購読者募集備考：奥付横に「本号を七・八月合併号といたしましたので次号(七月中旬発売)は九月号といたします。従って実質上は休刊は致しません故、ご承知おき下さい。」との注記あり。/ 赤刷りページは 25 頁から、モノクロページは 33 頁から始まっているが、実際のページ数と合わない。

【通巻 33 号】第 5 巻第 9 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 8 月 30 日印刷、1951 年 9 月 1 日

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

振替：大阪 34956 番

奥付その他：「第 5 巻第 9 号」、「9 月号」、「毎月 1 回 1 日発行」

定価：90 円

頁数：132 頁※乱丁有

表紙：「珍談と猟奇の型破り雑誌」、「未亡人愛欲小説特集」、「歴史奇譚 成吉思汗の死」、「爆弾娘行状記 湯の街騒動」、「9 月」

裏表紙：「躍進する雑誌界の寵児」、「奇譚クラブの次号予告！！」、「変態奇譚怪奇集」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭口絵：「不良少女マリ」（須磨利之△画）、「歴史奇譚 成吉思汗^{チンギスハーン}の死」、「国際女奴隷船 早乙女晃作」（美濃村晃画）

巻頭写真：「ヌード・アルバム 森の精と水の精」

広告：なし

掲載作：【艶笑娯楽館（佐野瓢人・風流太郎・伊勢みどり・明石三平）】〔笑話の一生、博物館、^{ヘテナ}？くらぶ、とんち詰将棋新題、ストリップ・サロン、落語・ユーレイ欲情す（中村家米助）、【艶笑パラダイス】〔エデンの国、飛行塔、ブランコ、木馬、噴水、登山、浜の砂遊び、海、公園、エロエロ売店〕、【変態歌謡曲】〔キスを召しませ、大人の涙（男の涙）、憧れの毛生航路（憧れのハワイ航路）〕、ハテナくらぶ答、漫才・触る宗教〕、【奇譚滑稽新聞】〔猟奇！！美女殺人事件か？・怪トラックから投げ出された裸女・深夜銀座街頭の怪事件！、全日本洋裁展・丸桃百貨店で開催、大長篇小説・深夜の愛欲・田村泰二郎^{ママ}・岩田専十郎^{ママ}画、滑稽珍聞案内、始末書を入れた巡査・腰巻の間から風俗壊乱？、滑稽売物節、古代人の性大位の研究？腿塚村の洞穴より白骨を発見す、大もの大会、よろづこんさんと、アベコベコント・こんな時代が来ます〕、爆弾娘行状記・湯の街騒動（加茂川清子・須磨利之画）、マダム・スゲイルの怪談・怪奇読物・鱗夫人（青梅洋史・竹中英二郎）、【真夜中なやまし^{ユント}奇譚（久松研二・明石三平画）】〔泥棒裏話の巻・1 深夜の睦言・あゝ！それだけは許して、2 盗まれた強盗・あゝ！もう一度盗んで〕、マンガ・月のものが止ったよ（サカエマスオ）、笑話二題、異色ユーモア 西瓜仙人（八瀬田音児・曾根三太郎画）、漫画 我が家の虫干し（酒井滋）、情熱は炎の如くに（小島伸二・峯玄太）、漫画 結婚（さわたり昭治）、【飛切奇抜色好み短篇集】〔裸女像自壊（荃亜久津）、屁をともし女（天宮将吉）、猫をかぶった源氏の君（赤壁元）、夫婦展示会（風流太郎）、海水浴異変（さの瓢人）、島原女風土記・どぶろくの宿・未亡人愛欲小説（美戸部進・松岡敏一画）〕、愛欲きたん・つかんだ女牀（兵庫一平・明石三平画）、漫画・人魚（山田清香）、奇譚ちっく・コント（有藻亜郎）、愛憎の崖（真木竜史・美濃村晃画）、寸劇・迷探偵X氏捕物譚・謎の血痕（伊勢みどり）、かつぎ屋未亡人・桑の実は赤い（尾上六歩・美濃村晃画）、国際女奴隷船（早乙女晃・喜多玲子画）、刺のある毒花（春山耀子・志乃田よしろう画）、探訪読物・援助を求める女たち（紀市郁栄・秋田冷光画）、嘸みつく女（赤野夢比古）、海浜の情痴（三宅リラ子・今幾久蔵画）、艶笑漫才・港が見える丘、奇譚笑話・映画館にて（風流太郎）、詰将棋新題（大橋虚土出題）、漫画・マネキン人形（山田清香）、歴史奇譚・成吉思汗^{チンギスハーン}の死（中澤公平・箕田京二画）、不良少女マリ（愛山久・志乃田よしろう画）、道化者の嘲笑（笹田豊）、読者応戦女闘返信・私がお相手致しましょう（伊藤繁子）、原稿募集、直接購読者募集

備考：赤色刷りページは25頁から、モノクロページは33頁から始まっているが、巻頭口絵・グラビア・目次頁は12頁程度で合わない。

【通巻 34 号】第 5 巻第 10 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 9 月 30 日印刷、1951 年 10 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺市東区内菅原通 4 丁目 30

振替口座：大阪第 34956 番

奥付その他：「第 5 巻第 10 号」

頁数：120 頁^{※乱丁有}

定価：90 円

表紙：「珍談と猟奇の型破り雑誌」、「同性愛小説 泡沫の痴戯」、「性地獄に悶える 女工哀史 織姫の告白」、「10 月」

裏表紙：「温泉旅館 五月花壇」、「岩風呂 風呂」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭口絵：「同性愛物語 泡沫の痴戯」（喜多玲子画）、「怪奇探偵小説 妖魔の最期」（須磨利之画）、「猟奇小説シリーズ 蛇娘」（美濃村晃画）、「女に生きる街 大阪艶笑地図」（須磨利之画）

巻頭写真：【ヌード・アラベスク】（「秋草と裸女」、「龍神裸身」）

広告：なし

掲載作：【大阪艶笑地図】（「顔癡と性の享楽の街、女護島「飛田」へ通ずる道、大門小路のインチキ喫茶（財部明）、暗黒街の変わり種・娼婦に早変わりするポン引、パチンコ屋に巣くう二人組の女（染田玄）、釜ヶ崎の木賃宿（巽光）、飛田新地接待婦座談会・「夜ひらく花」女給の偽らざる告白、暗黒裏町の縮図・ジャンジャン横丁考現図、アベック・ホテル・連れ込み宿は栄える（森野辰三）、組織化された売春業者（殿村泰三）、貧民街・パンとポンの街（弓削忍）、男娼色別図（南里文彦）、飛田新地内に網はるポン引集団（霜井博）、女のいる街、旭町通り、人肉十字街展望（坂本和美））、泡沫の痴戯（松井籟子・喜多玲子画）、【肉体のある童話（京極貴鋭・志乃田よしろう画）】（「噬臍、遠花火への哀愁」、性地獄に泣く女工哀史・織姫の悲哀（金子しのぶ・須磨利之画）、性器を改造する怪工場・人工性器（花木実・森あきら画）、これは参った（山田清香）、笑話（風流太郎）、見世物女の変態的性生活・変態性欲者の群見世物女（原紅太郎）、妖魔の最期・怪奇探偵（津田文吉・須磨利之画）蛇娘（杉山清詩・箕田京二）、春本を書く小説家（小島伸二・秋田冷光画）、【奇譚うそ新聞】（「チャタレー裁判、女子プロ大勝、キッス自慢、バタフライ異聞、オリンピック目指して、日共幹部捕わる！！」、世相諷刺奇譚・木賃ホテル紳士録（能登一三・曾根三太郎画）、柿実る頃（山彫三）、続・湯の町騒動（加茂川清子・加住としを画）、夏の夜の猟奇公園のエロ（春田行雄・曾根三太郎画）、若妻の発情期・夫婦性愛小説（港三四郎・美濃村晃画）、凄艶土耳其風呂・淫婦落槽図（月屋静史・峰玄太画）、女と女の血闘絵巻（相模八郎）、【真夜中なやまし奇譚・

垂涎万丈桃色奇談】〔風呂場の覗き鏡（湯本進吉）、縁は異なるもの味なもの（丸志田さかえ）、
 今のは臨時列車です（夜草京介）、お母ちゃんは処女（葉山研一）〕、どろんこ長屋（渋谷三
 平・甘井紋太画）、女医の肉体当番（穴吹武・沖研二画）、時代小説・戦国責絵巻（片矢薫・
 今幾久蔵画）、高級パン助行状記・売笑婦を乗せた代燃車（浮田澄男）、夜之助好色旅日記・
 艶姿五人女・秋宵夜話（乙宮多巳雄・志乃田よしろう画）、初恋に泣きぬれた夜の女・肉体
 の驟雨（笠置良夫・沖研二画）、【奇譚コント】〔離れられぬわけ、彼氏の魅力〕、工場とエロ
 （津村勝史・曾根三太郎画）、【冗談 KONTTO・恋愛自由学校（伊勢みどり）】〔第一課ラヴ
 レター、第二課ウィック、第三課ランデブー、第四課接吻、第五課テスト結婚、第六課結婚〕
 、軟派雑誌界の寵姫！月刊雑誌奇譚クラブ・益々快調、原稿募集、裸婦写真分譲、読者通信、
 直接購読者募集
 備考：表紙画は「磯田卓司」。/ モノクロページは 25 頁から始まっているが、巻頭口絵・
 グラビアページを数えても 15 頁に満たず合わない。

【通巻 35 号】第 5 巻第 11 号（資）

印刷発行年月日：1951 年 10 月 30 日印刷、1951 年 11 月 1 日発行

編集兼発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

振替口座：大阪第 34956 番

奥付その他：「第 5 巻第 11 号」、「毎月 1 回 1 日発行」、「11 月号」

定価：90 円

頁数：132 頁^{※乱丁有}

表紙：「新時代の軟派雑誌決定版」、「ヌードアルバム傑作集」、「11 月」

裏表紙：「温泉旅館 五月花壇」、「岩風呂 くげ風呂」、「御宿泊 御商談 御休憩 御宴会
 にぜひ……」、「宣伝サービス期間中特別割引」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認
 可」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭口絵：「春画師利八 村上人志」（美濃村晃画）、「女ばかりの世界を暴く！」（須磨利之
 画）

巻頭写真：「ヌード・アルバム傑作集」、「壺と女」、「モデル嬢年令当拾万円大憲章」、「女闘
 美」、「この森のうた」、「湧湯に戯れる女」（本誌写真部特写）

広告：「ハナヲタカクスル」（三山医院）（65）、「入院・分娩・手術中井産婦人科」（74）

掲載作：【女ばかりの世界を暴く】〔白壁の牢獄脳病院の手記（福田克子）、赤裸々な離婚地

帯女工員宿舍（三木澄江）、ウゴめく白獸白衣乱淫図（葦原和子）、懊悩する女群母子寮ずまい（雪村タキ）、失恋女の溜り尼寺袋中庵（津坂高子）、探訪実話・色街ルポルタージュ・まだ生きているボス・接客婦の街を歩く（大木悦二・須磨利之△画）、【こんと・あまとりあ（笹田豊・沖研二画）】〔1 最後迄読まなくてはいけない話（別名御婦人方が読むと一生得をする話）、2 一片の肉が女性美の増進に如何なる影響を及ぼすかと言う話、3 嫉妬は女を魔物にするという話〕、読者通信・交際を望む（二俣志津子・編集部）、六本指の女（日向路雄・森あきら画）、炭都娘無軌道行状記・破瓜前夜行進曲（野中愛三・森あきら画）、ピントグラスにうつる女体（丹波二郎・沖研二画）、元禄浪花やくざ・前篇色若衆変化の巻（天王寺星七・今幾久藏画）、非処女初夜姦告白集・盆踊りの夜二人の男に輪姦された私（木村由紀子）、性の悩みに答える・性生活相談異聞・空間射精（港三四郎・沖研二画）、浮気封じの奥の手、男女の秘戯を描く男の妖しき恋物語・春画師利八（上村人志・美濃村晃画）、民間放送・義毛宣伝劇（伊勢みどり）、雑姦部落の住人たち（花木実・沖研二画）、女学生夏期アルバイト報告記・パチンコ娘は唄う（左瀬鯛子）、【好色男女奇譚・穴^{あな}二題（兵庫一平・明石三平画）】〔1 風呂の穴、2 板床の穴〕、ボルネオ密林秘話・ジャングルの凌辱（日尾灘郎・箕田京二画）、変態性欲者群像・囚人男色記（柊淳・秋田冷光画）、漫画・悩ましき脚線美（山彫三）、妖淫奇話・色聴症患者（八瀬田音児・竹中英二郎画）、魔都上海の思出・諸国好色地図・上海愛欲行脚（楊馬珊・美濃村晃画）、夫婦喧嘩顛末記（さの瓢人）、【盗難奇譚・好色人生まめ泥たけ泥（小島伸二・曾根三太郎画）】〔1 未亡人はいやッ、2 女ヘン逃走、3 たけ泥の正体〕、肉体の谷間（池長味・山彫三画）、転落の女学生・泥まみれの思春期（矢代文吉・喜多玲子画）、異色艶色譚・女社長と女秘書・バッテリーにかゝったうなぎの話（二俣志津子・志乃田よしろう画）、モデル年齢当懸賞、読者通信・読者文芸を募る（読者係）、地方記者募集（編集部）、裸婦美人写真実費分譲（代理部）、直接購読者募集、奇譚クラブ 12 月号予告、原稿

備考：目次によると、表紙画は磯田卓司、目次カットは喜多玲子。/ モノクロページは 37 頁から始まっているが、グラビアページを数えても 20 頁に満たず数が合わない。（懐）は CCD の検閲による削除かと推測しているが、この時期検閲は既に終了している。目次にも掲載されていない作品は見当たらない。

【通巻 36 号】第 5 巻第 12 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 11 月 30 日印刷、1951 年 12 月 1 日発行

編集人：箕田京二

発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通4丁目30

振替口座：大阪第34956番

電話堺1746番

奥付その他：「毎月1回1日発行」、「第5巻第12号」、「12月号」

定価：90円

頁数：132頁^{※乱丁有}

表紙：「異色ある新時代の風俗雑誌」、「都会の隅に渦巻く驚異の変質者群像を暴く 男色天国繁昌記」、「探訪 告白 犯罪 実話 探偵 捕物 暴露 記録」、「12月」

裏表紙：「昭和25年10月5日 第三種郵便物認可」、「昭和26年1月24日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第1887号」

巻頭口絵：「殺人淫楽症の女」（今幾久蔵画）、「襲われる裸女」（喜多玲子画）、「男色天国繁昌記」、「食人ホテルの惨劇」（箕田京二画）、「艶夢十夜一夜 二俣志津子作 志乃田よしろう画」

巻頭写真：「人肉市場」、「狙われた犠牲^{いけにえ}」、「縛られた娘たち」、「美しき商品の裏と表」

広告：「児なき方の相談所」（米田産婦人科）（66）、「ハナヲタカクスル」（三山医院）（124）、「面白さ天下無類川上未夫著新編水滸伝・近畿図書株式会社」（127）、「入院・分娩・手術 中井産婦人科」（127）

掲載作：【男色天国繁昌記（南里文彦・須磨利之△画）】「発端・公衆便所の落書を写した手帖、男色天国・男色誘惑者の手は伸びている・靴磨き少年の告白！！、美少年の或る体験・診察を受けに来た少年（稲生伸一郎・須磨利之△画）、ロ中の悪魔に魅せられる・浅井専吉は語る、あんこ・かっぱ（春田一郎）、男性と結婚生活をする男・性的倒錯者訪問記・佐々和服裁縫所佐々太平の話（鹿島芳江・須磨利之△画）、男色体験者（染田玄）】、【浮世からくり・桃色伝言板】「国鉄大阪駅・娼婦の宣伝戦（丹波二郎・須磨利之△画）・南海難波駅・恋愛ゼット・ゲーム（長沢啓士）、阪和天王寺駅・奥様浮気求縁帖（佐々木直）・近鉄上六駅・求愛状の代筆（棚橋明）・京阪天満橋駅・肉愛流転特別急行（坂本和美）」、大阪天王寺公園の風紀調査（夜草京介）、麻雀賭博者とその妻（北川春男・加住としを画）、猟奇小説・食人ホテルの惨劇（杉山清詩・箕田京二画）、逆三角形の世相縮図・戦後派ちんぴら悪業記（門好太郎）、笑話、揺れる連絡船（港三四郎・美濃村晃画）、小話・四帖藩襖張守遺言、【艶夢十夜一夜（二俣志津子・志乃田よしろう画）】「1 尻をまくる芸者、2 享楽と戯れる一夜、3 はづかしめ受けぬ、4 地獄の一輪車責め、5 黒いズロース、6 ツンドラの悲劇、7 待ち消える女、8 或るボートの風景、9 八方鏡の部屋、10 アマゾンの女王」、^{戦後派}アプレ神様大流行^{おおはやり}（大木悦二・曾根三太郎画）、放送コント三題（伊勢みどり）、【微苦笑心中実話集（葉山研一・須磨利之△画）】「心中奇態実話・接吻心中事件、棺桶心中事件、五十男の同性愛心中、スト

リップ三人心中、唾男ペテン心中]、殺人淫楽症の女・江戸時代異色責め模様（緑猛比古・今幾久蔵画）、怪奇実話小説・苦界獵奇研究会神戸支部（日向路雄・須磨利之画）、催淫草・葉草奇譚（北海広介・峯玄太画）、うちの隣りは競輪娘（能登一三・田中比呂志）、女闘美随筆・四股を踏む娘ら（土俵四股平）、民間放送異聞・女体周波数（新水暢吉・喜多玲子画）、童貞始末記・河鹿温泉の巻（足利学・喜多玲子画）、問題実話・学園秘聞・妊まされた女学生（小宮浩・志乃田よしろう画）、元禄浪花やくざ後篇（天王寺星七・今幾久蔵画）、地方記者募集、懸賞詰将棋新題、読者文芸、読者通信、裸体美人写真实費分譲、応募原稿掲載外佳作発表、直接購読者募集、軟派雑誌界の寵姫・奇譚クラブ新年号の威容！

備考：表紙は磯田卓司。／裏表紙は『LA VIE PARISIENNE』1924年2月16日号の裏表紙からの流用。そのほか目次カットにも。／モノクロページは37頁から始まっているが、巻頭口絵・写真の頁数とあわない。／応募原稿掲載外佳作：古くからの寄稿者名である神山栄三の名がみえる。

1952（昭和 27）年

【通巻 37 号】第 6 巻第 1 号（河）

印刷発行年月日：1951 年 12 月 30 日印刷、1952 年 1 月 1 日発行

編集人：箕田京二

発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

振替口座：大阪第 34956 番

東京営業所：東京都台東区浅草駒形 1-6

奥付その他：「第 6 巻第 1 号」、「新年号」、「毎月 1 回 1 日発行」

定価：90 円

頁数：132 頁^{※乱丁有}

表紙：「新年号」、「異色ある新時代の風俗雑誌」、「演劇映画 俳優養成所を探ぐる」、「変人奇人めぐり」、「現地ルポ!! 恐怖の北海道」

裏表紙：「一読忽ち息をもつかせぬ面白さ天下無類」、「中国奇書中の白眉!!」、「美麗装幀各頁さしえ入」、「新編水滸伝 川上未夫著 装幀並に挿画 石津博典」、「B6 型 216 頁」、「定価 160 円 送料 20 円」、「発行所 近畿図書株式会社」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

巻頭写真：「脚線美の魅力」、「19 の春に恥らう（志津子）」、「組合う処女・二態」、「抱擁」、「新春湯浴」

巻頭口絵：「^{かけにえ}賭儀 二俣志津子」（喜多玲子）画、「艶色昼夜帯 緑猛比古」（須磨利之画）、「都会の魔術師」（須磨利之画）

広告：「北濱 湯川胃腸病院」（109）「北浜・湯川胃腸病院」（109）、「ハナヲタカクスル」（三山隆鼻法研究所）（129）

掲載作：【映画俳優志俳優者に告ぐ！警鐘ルポルタージュ・色魔は貴女の金と貞操を狙っている】（私は自殺しようとした・春山伸子（二十一）さんの流転記、【映画演劇俳優養成所の実相を探ぐる（源氏久光・須磨利之画）】〔1 日本自由演劇社俳優養成所の乱脈、2 日映株式会社友の会事件の全貌〕、或る舞踊研究生の告白（福崎壽江）、映画俳優新人養成所受験潜行記（美瀧桂子）、【俳優志願者心得帖】〔イミテーションでは駄目だ、誘惑の魔にかゝらぬようにするには、応募者の嘆願書公開〕、関西にある俳優養成所の紹介、閨房の木乃伊（丹波太郎・喜多玲子画）、漫画と小話の扉（さかゑ・ますを）、世相諷刺奇譚・社用族候補生（能登

いちぞう・曾根三太郎画)、【変人奇人めぐり】〔男湯をのぞく番台女(潮マリ)、娼婦時代の思い出(染岡銀子)、だごのつつあん(二俣志津子)〕、小説・永田町界限(港三四郎・柴谷宰二郎画)、抱合心中死体(川端美美雄)、猥褻掛図絵(榛ノ木参一・須磨利之画)、淫奔マダム狂騒曲・賭儀かけにぎ(二俣志津子・喜多玲子画)、【公衆電話をめぐる女】〔売春事務員と逢曳女学生(椿昭彦)、身重になった家出娘(椿明彦)〕、かつらを忘れたお嬢さん(花園一郎・浦井弱画)、11月号グラビア頁懸賞モデル年令当解答発表、婦女子に加える特高の惨虐行為・拷問(片矢薫・須磨利之画)、尻(増田志郎・増田志郎作画)、印度宮廷秘史・娼婦ウトパヴァルナー(中澤公平・今幾久蔵画)、艶色かわらばん・ちゃたれいふじんのこいびと昼夜帯・新訳・鍵の権三重帷子(緑猛比古・今幾久蔵画)、異色短篇・罰金と附文(北海廣介・須磨利之△画)、実話小説・肉体を見せた女(松谷茂・美濃村晃画)、船員愛欲実話・呼子港の女船頭(井口正憲)、笑話、毒婦小説・山窩のおろく(笠置良夫・宮内三郎画)、お妾アパート火遊び異変(小島伸二・森あきら画)、好色将軍と淫蛇女優(高橋義信・箕田京二画)、現地小説・恐怖の北海道(愛山久・冲研二画)、ポケットコント(笹田豊)、艶笑コント・名販売員(北海廣介)、ナイロン土俵に咲く相撲花(土俵四股平)、大道将棋を破る法(大橋虚土)、漫画・令嬢の反撃(佐野瓢人)、懸賞詰将棋(大橋虚土出題)、地方記者募集(編集部)、掲載外佳作作品発表、原稿募集、読者通信並に文芸、求交際文通、裸体美人写真分譲、直接購読者募集
備考：目次によれば、表紙画は磯田卓司。/ 通巻 36 号と同様、モノクロページは 37 頁から始まっている。グラビアページから数えると数が合わない。

【通巻 38 号】第 6 巻第 2 号(河)

印刷発行年月日：1952 年 1 月 30 日印刷、1952 年 2 月 1 日発行

編集人：箕田京二

発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

振替口座：大阪第 34956 番

奥付その他：「臨時増刊号」、「魅惑」、「第 6 巻第 2 号」、「毎月 1 回 1 日発行」

定価：90 円

頁数：122 頁※乱丁有

表紙：「魅惑」、「新進花形作家異色傑作集」、「奇譚クラブ臨時増刊」、「艶笑雑誌」、「創刊 6 周年記念特別号」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可(毎月 1 回 1 日発行)」、「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

裏表紙：「HEROUARD」

巻頭口絵：「売春寮の裸婦モデル 三城えふ」（喜多玲子画）、「鬼兵衛刺青異譚 二俣志津子」（御影太郎画）、「怪奇小説・石炭庫の船幽霊 井口正憲・森あきら画」、「吸血女流画家 岡田咲子・喜多玲子画」

巻頭写真：（無題）岩に腰かけてポーズをとる日本人ヌード

広告：「ハナヲタカクスル」三山医院（100）

掲載作：吸血女流画家・アルバイト女学生受難記（岡田咲子・喜多玲子画）、艶笑小説・濡れにぞ濡れし色は変らじ（夢三作・箕田京二画）、怪奇小説・石炭庫の船幽霊（井口正憲・森あきら画）、世相諷刺奇譚・ヌード屋三ちゃん（能登一三、曾根三太郎画）、男根割礼（土師廣・沖研二画）、捜査日記・姦された情死屍体（冬樹三郎・秋田冷光画）、コント・オブ・コント、熱砂の抱擁（藤田盛治・箕田京二画）、江戸巷談・春妖獣婚譚（伊賀二郎・今幾久蔵画）、花柳千一夜・八十八人目の男（夏目千代・須磨利之画）、馴女の港（下山雄・美濃村晃画）、小話・貧乏クジ、急募・読者の体験談、告白記（奇譚クラブ編集部）、夜這い村の鼻下長連（椿昭彦・曾根三太郎画）、【笑話】「弱い訳、ごもっともさま」、怪奇小説・死骸のない埋葬（青梅洋史・竹中英二郎画）、告白小説・買春寮の裸婦モデル（三城えふ・神戸公子画）、大道将棋を破る法（大橋虚士）、12月号懸賞詰将棋解答、浮世裏街道をあばく！！・女体興信所（愛山久・志乃田よしろう画）、てんやわんや色街ざんげ（夜草京介・浦井弱画）、異色時代小説・鬼兵衛刺青異譚（二俣志津子・御影太郎画）、小話（笹田豊）、子授け温泉由来記・恵母の泉（松谷茂・今幾久蔵画）、シリーン王妃の毒杯（中沢公平・箕田京二画）、或る女子工員の手記より・無貞操地帯（鷹梨枝子・亀井七郎画）、小話・流行考現学（風流太郎）、コント・街の女と孤児（川端芙美雄）、童貞の求愛術（荃阿久津・田中比呂志画）、猟奇探偵シリーズ・千恵子の手記・桃色の蜃気楼（杉山清詩・須磨利之画）、読者投稿川柳選、裸体美人写真実費分譲、応募原稿掲載外佳作発表、直接購読者募集、原稿募集、備考：表紙画は伊曾田耕史、急募・読者の体験談、告白記：「異常なる性格とか言動又は体験、例えば男色、窃視症、同性愛自己愛、マゾ、サジ、露出症、屍姦症等其の他あらゆる変態的な体験。」を募集（67頁）。

備考：裏表紙は『LA VIE PARISIENNE』からの流用。「HEROUARD」は画家シェリ・エルアール（Chéri Hérourard）のサイン。/ モノクロページは27頁から始まっているが、巻頭口絵・クラブ・目次頁を合わせても20頁に満たず数が合わない。

【通巻 39 号】第 6 巻第 3 号（河）

印刷発行年月日：1952 年 2 月 20 日印刷、1952 年 3 月 1 日発行

編集人：箕田京二

発行人：吉田稔

印刷人：上田庄之助

発行所：曙書房

発行所所在地：大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

振替口座：大阪第 34956 番

奥付その他：「第 6 巻第 3 号」、「躍進三月特大号」

定価：90 円

頁数：126 頁^{※乱丁有}

表紙：「^{アブノーマルグループ}変態集団特集」、「躍進 3 月特大号」、「異色ある新時代の風俗雑誌」、「昭和 25 年 10 月 5 日 第三種郵便物認可（毎月 1 回 1 日発行）」「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

裏表紙：「昭和 26 年 1 月 24 日 日本国有鉄道特別扱承認雑誌第 1887 号」

広告：「ハナヲタカクスル」（三山整形外科）（95）

巻頭写真：「よそほい」、「鍵の穴」、「障子の破れ」、「せゝらぎ」、「しづけさ」、「浴後の憩い」

巻頭口絵：「怪異海老責縁起 緑猛比古」（曾根三太郎画）、「獅子島の人魚 藤田盛治」（竹中英二郎画）

掲載作：【変態集団画・Abnormal group,（喜多玲子画）】「変態生活への憧憬、露出症、加虐症、被虐症、自己愛好症、同性愛、屍姦症、崇物病、脚狂崇症、自虐症、視姦症」、【ルポルタージュ異色探訪記・男娼協同組合（染田玄、塚本鉄三、南里文彦）】「天下御免の肉体商売、脚光浴びた戦前派男娼、若手美少年群の大量進出、男娼商売裏ばなし、変り種の組合せいろいろ、変態嫖客オンパレード、変態男ばかりの座談会、男娼の肉体的特徴、【男娼の技巧四十八手】「女に化ける手、男を欺ます手、商売のかけひき、経済的な処世術」、私は何故？男娼になったか（明美コト郷田和夫）、男色に耽ける中年男・遊客に聞く打明けばなし」、思春期生理学（花木實・喜多玲子画）、艶笑飛切掌篇小説・ムシタオル（吉井川洋、須磨利之△画）、読者通信、世相諷刺奇譚・タイオンズ野球団（能登一三・曾根三太郎画）、掏られた童貞（夢三作・志乃田よしろう画）、愀気の輪、茎袋、 捜査日誌シリーズ・兜を脱いだお嬢さん（冬樹三郎・秋田冷光画）、運つき男（庄司浩平・冲研二画）、体験告白実話・手淫療法の実験台となった女の手記（池田美美子・須磨利之△画）、性愛テスト（茎阿久津・志乃田よしろう画）、珍談奇聞・女子生殖器に対する奇習、獅子島の人魚（藤田盛治・竹中英二郎画）、読者文芸・川柳（泉春樹）、変態性体験記・浅草の性戯痴図（阿久津猛・須磨利之△画）、ストリップと強盗（あそうゆきお）、読者通信、艶笑心理小説・未亡人の手管（岡垣京平・志乃田よしろう画）、性愛小説・愛情の極致（春山耀子・城崎浩画）、^{エロトグラフマニ}艶書淫乱症・精神的オナニーに就いて（田端多美夫）、当世奥様ツノ物語・^{ツヤタネヌキモチイヨウジン}艶種嫉妬御用心（兵庫一平・須磨利之△画）、変態実例・素足フェチシズム・或る青年の幻想、乱数表の誘惑（二俣志津子・

須磨利之画)、変態実例・エックスポジションを要するインポテンツ、怪異海老責縁起(緑
 猛比古・御影太郎画)、映画ファンの変態性・フィルムに結ぶ恋情(牧野麟太郎)、変態告白・
 修道尼の性生活(藤安節子・箕田京二画)、或る映画女優の初恋(夏目千代・美濃村晃画)、
 変態実話・同性愛の末路(大曾根龍子・冲研二画)、半タクのエロ・走る寝台二人を乗せて
 (久木鷹夫)、新婚家庭の物干竿(笹田豊・須磨利之△画)、怪奇刺青奇譚・紅卍(団五平・
 須磨利之画)、変態実例・女の髪を切る男、コンドームナンセンス・吾輩は器具である(小
 太刀兼法・浦井弱画)、懸賞詰将棋解答・新年号掲載(大橋虚子出題)、正解詰手順(将棋係)、
 変態享楽に耽る人々(財部明)、大道棋の詰ませ方(大橋虚士)、セミ・ドキュメンタリー小
 説・女剣劇何処へ行く(草薙久人・今幾久蔵画)、笑話・奇々怪々、男色小説・稚児学校(岡
 真史郎、松野健画)、原稿募集、裸体肉体美写真実費分譲、応募作品掲載外佳作発表、直接
 購読者募集、怪奇画集1(須磨利之△画)、新婚家庭の物干竿(笹田豊)
 備考:男娼協同組合:著者南里文彦は原文は南昌文彦。/ 裏表紙は『LA VIE PARISIENNE』
 からの流用。

【通巻 40 号】第 6 巻第 4 号(河)

印刷発行年月日:1952 年 3 月 30 日印刷、1952 年 4 月 1 日発行

編集人:箕田京二

発行人:吉田稔

印刷人:上田庄之助

発行所:曙書房

発行所所在地:大阪府堺局区内菅原通 4 丁目 30

奥付その他:「陽春 4 月躍進号」、「第 6 巻第 4 号」、「毎月 1 日発行」

定価:90 円

頁数:120 頁

表紙:「異色ある新時代の風俗雑誌」、「怪奇戦慄・平家谷の妖精」、「妖艶捕物・枕絵詮議」、
 「告白実話・非処女流浪記」、「4 月号」

裏表紙:(文字情報重複のため省略)

巻頭口絵:「怪奇小説 平家谷の妖精」「沼貫建」

巻頭写真:「異色ルポルタージュ 大阪のプロフィル 新世界ジャンジャン横丁孝現図」
 「“めし”の街を訪ねて」

広告:記事写真訂正広告(35)、「北濱 湯川胃腸病院」(116)、「三山整形外科」(117)

掲載作:【異色ルポルタージュ・ペン“めし”の街をゆく・新世界ジャンジャン横丁の巻(染
 田玄・箕田京二・源氏光)】、〔めしの街をゆく、裏街の所見、ジャン横族の生態、ジャンジ

ン横丁の郷愁、深夜のジャンジャン横丁、断然多い食物屋、酔いどれとルンペンとパン助
 と、ラジウム温泉界限、裏町挿話・ストリップ小屋で拾った女〕、えへへへ^{たいじん}大人・謎の男え
 へへへ大人シリーズ1（街啓介・曾根三太郎画）、現地ルポルタージュ・国境の島・対馬・
 女密航部隊上陸（津雲壽郎）、南紀温泉郷探訪記・温泉旅館初夜物語（港晴路・秋田冷光画）、
 煩悩お伝地獄（窪村弘・今幾久蔵画）、世相掖扶・若き情死者たち（原田春雄・須磨利之△
 画）、世相諷刺奇譚・^{まもるもせめるもくろがねの}軍艦行進曲（能登一三・曾根三太郎画）、純情旅行・“胴巻き社員”
 伊月京太君の出張日誌より（港三四郎・田中比呂志画）、【読者投稿文芸】〔川柳（泉江洋）、
 小話・総合病院（白砂太）〕、怪奇語源集・逸物（若水豊・明石三平画）、今は昔、戦線エロ
 落穂集…（下出章一）、平家谷の妖精（沼貫健・竹中英二郎画）、【読者文芸】〔たばこ物語り
 （川元悟資）〕、軟派小説・深夜の貞操（松谷茂・志乃田よしろう画）、すみれ夫人肉体図絵
 （夏目千代・須磨利之画）、エルバツハ城に保存されてある鉄の貞操体（前面）、エルバツハ
 城に保存されてある鉄の貞操体（背面）、異国情緒・^{カンカンミンバイ}着々明白（吉井川洋・森あきら画）、急
 募・体験談、冒険譚、告白記（編集部）、学生の風紀・当今大学生色談義（花木実・薄田寛
 二画）、時代巷談・実説遊女一代（藤田盛治・須磨利之画）、愛欲の港シリーズ・土生の港（下
 山雄・城崎浩画）、白い花びら（夢野一平）、農村風流譚・母娘の復讐（庄司浩平）、それだ
 けはごかんべん（さの）、浮世三文経、^{めへび}雌蛇（松井籟子・喜多玲子画）、後家殺し（山形星雨）、
 告白実話・非処女流浪記（壬生すみ子・美濃村晃画）、愛読者の皆様へ（編集部）、巫女屋敷
 の責絵巻（岡田咲子・喜多玲子画）、奇譚艶笑風土記・南国鹿児島島の盛り場歩き（春山耀
 子）、枕絵詮議（緑猛比古・今幾久蔵画）、世相風俗現代小説・夫婦慕情（泉春樹）、大道棋
 の詰ませ方（大橋虚士）、銀問題、読者通信、裸婦肉体美写真実費分譲、応募作品掲載外佳
 作発表、直接購読者募集

備考：記事写真訂正広告：「昨年 10 月号 37 頁所載の写真は編集部の手違いにより誤りて
 挿入発表されましたので、こゝに右写真を削除し、同誌面に掲載されるべき性質のものでな
 い事を広告致します。尚右に依り御迷惑を蒙られた向きに対しまして謹んで御詫び申し上
 げます。（編集部）」／裏表紙は『LA VIE PARISIENNE』1925 年 8 月 1 日号裏表紙の
 流用。

初期『奇譚クラブ』表紙・裏表紙一覧

1947（昭和22）年



【1】 1(1)



【2】 1(2)

1948（昭和23）年



【3】 2(1)



【4】 2(2)



【5】 2(3)



【6】 2(4)



【7】 2(5)



【8】 2(6)



【9】 2(7)

1949 (昭和24) 年



【10】 3(1)



【11】 3(2)



【12】 3(3)



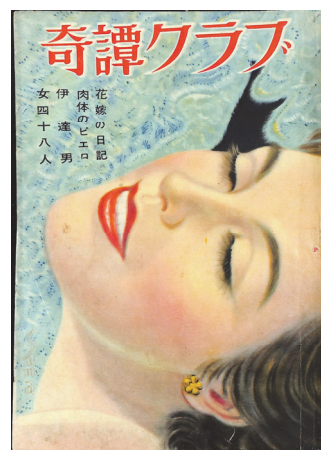
【13】 3(4)



【14】 3(5)



【15】 3(6)



【16】 3(7)



【17】 3(8)



【18】 3(9)



【19】 3(10)

1950 (昭和25) 年



【20】 4(1)



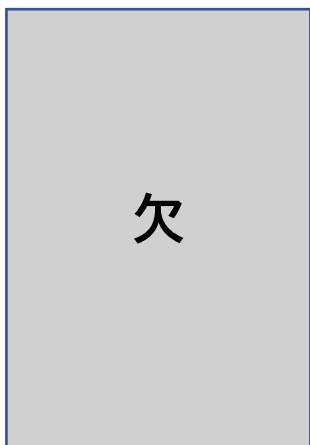
4(2)



【21】 4(3)



4(4)



4(5)



【22】 4(6)



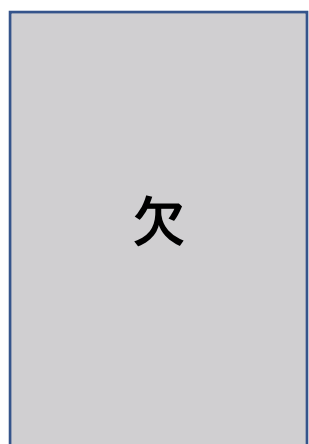
4(7)



【23】 4(8)



【24】 4(9)



4(10)



【25】 4(11)



4(12)

1951 (昭和26) 年



【26】 5(1)



【27】 5(2)



【28】 5(3)



【29】 5(4)



【30】 5(5)



【31】 5(6)



【32】 5(7)



【33】 5(9)



【34】 5(10)



【35】 5(11)



【36】 5(12)

1952 (昭和27) 年



【37】 6(1)



【38】 6(2)



【39】 6(3)



【40】 6(4)

通巻に含まれない別冊・別刊



【別冊1】



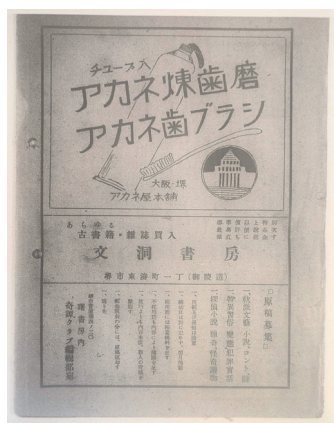
【別冊5】



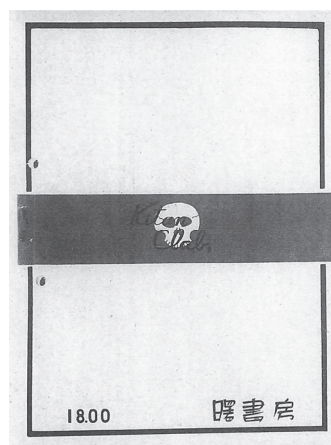
【別刊1】

裏表紙一覧

1947 (昭和22) 年



【1】 1(1)



【2】 1(2)

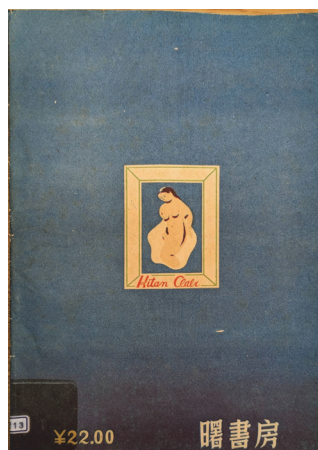
1948 (昭和23) 年



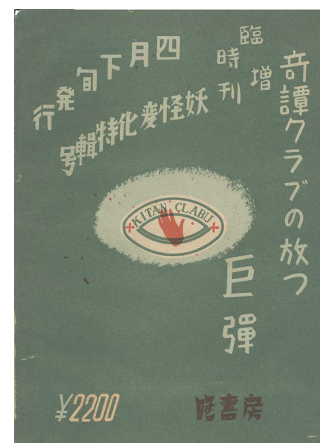
【3】 2(1)



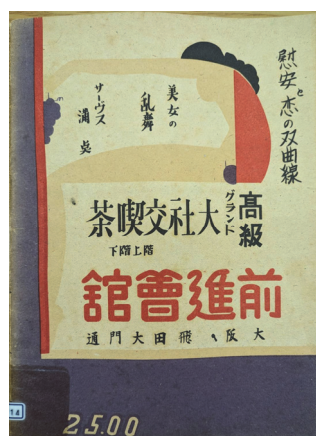
【4】 2(2)



【5】 2(3)



【6】 2(4)



【7】 2(5)

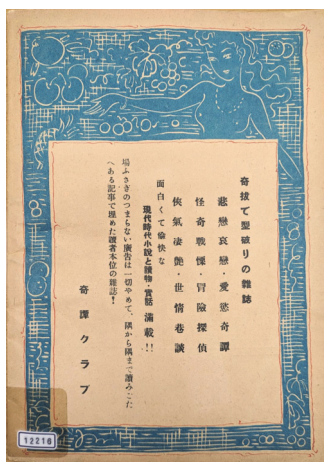


【8】 2(6)

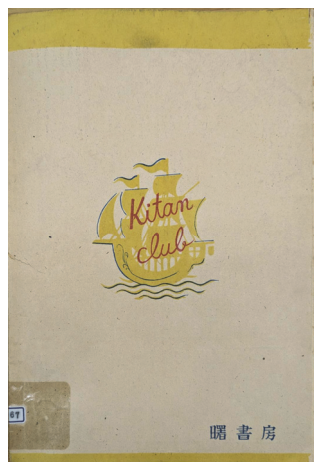


【9】 2(7)

1949 (昭和24) 年



【10】 3(1)



【11】 3(2)



【12】 3(3)



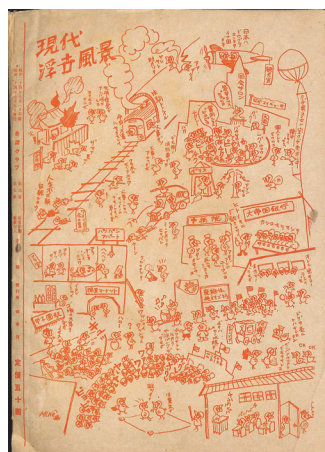
【13】 3(4)



【14】 3(5)



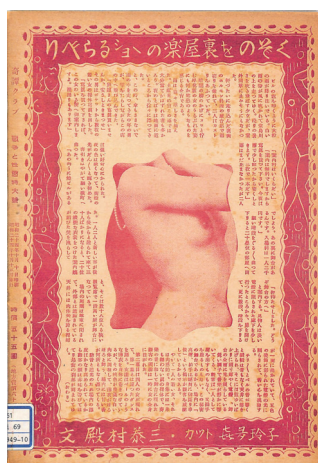
【15】 3(6)



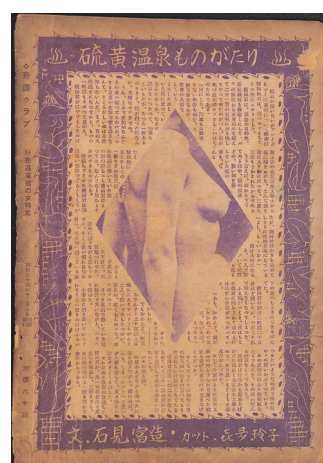
【16】 3(7)



【17】 3(8)



【18】 3(9)



【19】 3(10)

1950 (昭和25) 年



【20】 4(1)



4(2)



【21】 4(3)



4(4)



4(5)



【22】 4(6)



4(7)



【23】 4(8)



【24】 4(9)



4(10)



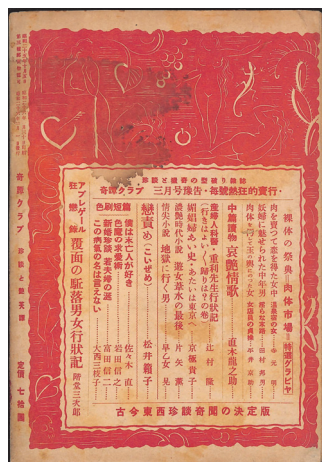
【25】 4(11)



1951 (昭和26) 年



【26】 5(1)



【27】 5(2)



【28】 5(3)



【29】 5(4)



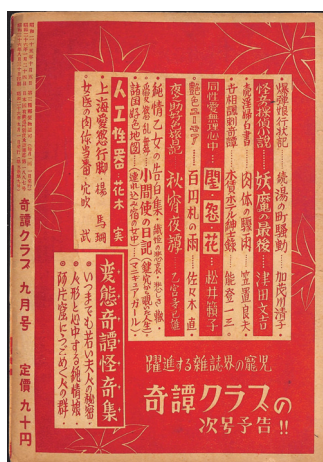
【30】 5(5)



【31】 5(6)



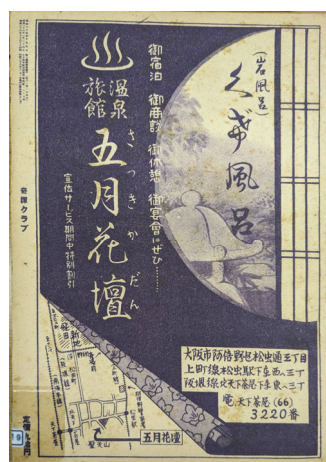
【32】 5(7)



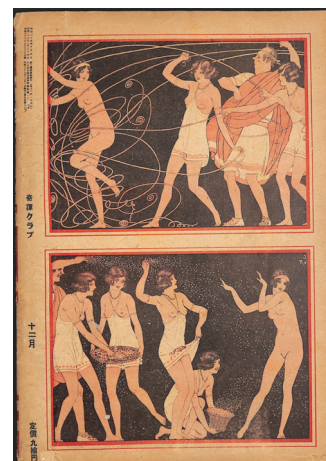
【33】 5(9)



【34】 5(10)



【35】 5(11)



【36】 5(12)

1952 (昭和27) 年



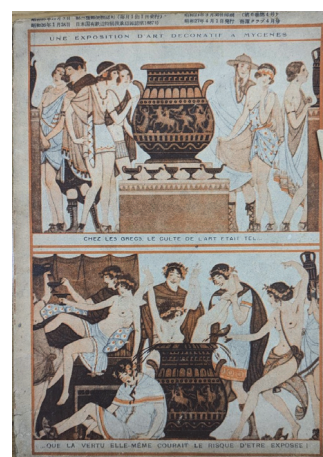
【37】 6(1)



【38】 6(2)



【39】 6(3)



【40】 6(4)

通巻に含まれない別冊・別刊



【別冊1】



【別冊5】



【別刊1】

【画像出典】

- (憲) 【1】 【2】 【3】
 (資) 【7】 【9】 【10】 【11】 【12】 【35】
 (懐) 【5】 【6】
 (昭) 【18】

※【21】はオークションサイト画像（現在消滅）を利用
 ※上記以外は河原所持号